

瀧川村

百三十二

瀧川村は空知郡内最北部の一大農村にして管に屯田兵村として知らるゝのみならず北部農村の中央市場として商業殷賑を極め空知管内岩見澤町に亞いて繁華なり農村と爲す地勢後に山を負ひ前は新十津川の農村に連り北に雨龍原野あり南に石狩の大平野を控へ地勢漸やく逼りて石狩雨龍二大原野の咽喉を扼し天嶺上川兩街道の要衝に當り物貨輻輳し自然の趨勢は東西廿餘町南北一里餘の市街を爲し遂に全村戸數一千八百三十二戸人口一万二千四百十一人を抱有する大農村を爲せりと雖も明治十八九年の交は空漠たる原野にして人煙稀少空しく羆熊の跳躍に委せしも空知太より上川に通ずる道路の開鑿さるゝに當り驛遞の設けられしと廿二年前上川道路の開通せしとの二事は大に同村の發達を促し廿三年一月瀧川村と命名さるゝに到りたるのみならず同時に屯田兵村に選定され屯田兵四百四十戸の移住を見たるも隣村新十津川村に六百餘戸の移住者を來したる形勢は幾多の商工業者の移住を招き現今の字一の坂下に一市街を形成し戸數三百に達せり斯くして次第に附近土地の開墾せらるゝに連れ移住者を來し廿七年字夕部乙に四百四十戸の屯田兵の移住を來してより益々戸口を吸収し卅年上川鐵道の開通を見停車場の設けられてより驚くべき發達と膨脹とを來し卅三年七月自治制施行の際二級制度を施かれ自來村民の自治心は幾多の設備を完ふし遂に空知管内北部の中央市場たり得るの實を擧げ其の殷賑敢へて岩見澤に譲らず今重なる商家の内容を紹介し依て以て瀧川の一般を了するの資とせん。



瀧川三浦庄作

土木建築  
請負業

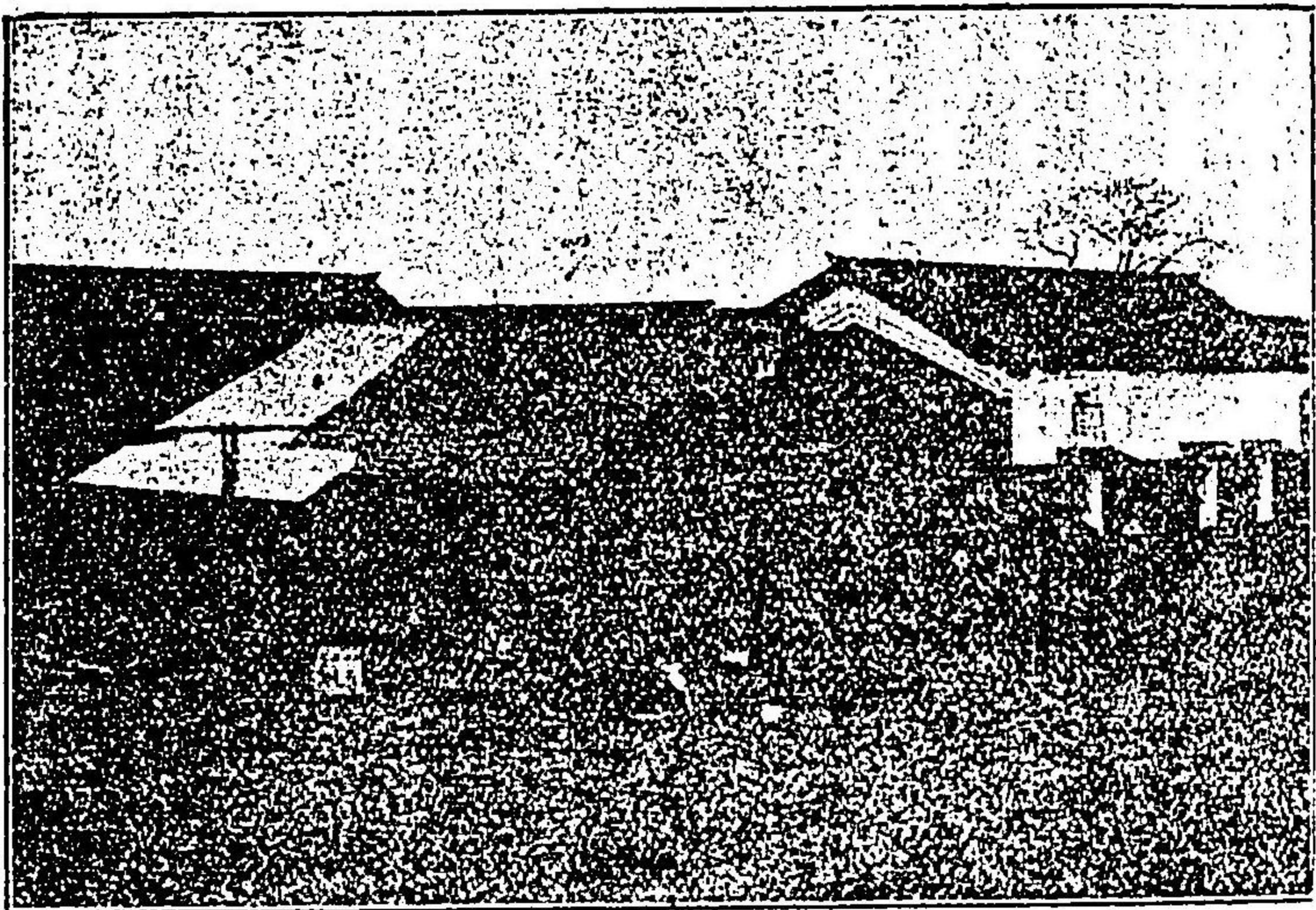
空知郡瀧川村  
三浦庄作

瀧川村

百三十二



◎三浦庄作君、空知郡瀧川の地由來人材に富み多士濟として輩出しつゝある空知管内角田村を除きて勢ひ瀧川村を推さざるを得ず資力を以て傑出するもの新智識に富むを以て知らるゝもの名望を以て推さるゝもの蓋し瀧川の地たる空知管内の驥北たり高材逸足の士各々雄を一方に馳するの間に立ち特に一億彩を放つを三浦庄作君と爲す其の職業を云はゞ一の土木建築受負業に過ぎず而して富力を以て傑出し其の徳望は村會議員に選ばれ學務委員に推され空知稅務署審査委員たり而して更に其の年齢を問はゞ不惑を越ゆる僅に一斯くして其の勢力は優に瀧川一村を動かすに足る知らず此の如き三浦氏は如何なる的人なるか氏福井縣の人明治三年を以て同縣下足羽郡和田村に生る幼にして穎悟長するに及んで倜儻四方に志あり學成るに及んで空しく郷閭の間に踟躕して郷黨を伍するを欲せず新天地に飛躍して一家を爲さんるを期し慨然本道に航す地や未聞の地人や是れ未知の人而かも氏や豪懷少しも屈せず一身を恃んで他なきを信し徒手空拳より身を挺し幾多の困苦に耐へ種々なる辛勞を嘗め次第に財を蓄積し遂に土木受負業を開始してより其の大膽なると豪懷なるとは着々功を奏し加ふるに仁慈以て部下に臨み恩威併ひ行はるゝの一事は非落に部下の信頼を博し如何なる土木の受負建築の受負ひたりとも一も失敗せず年と共に産を興し益々氏の豪懷をして破天業の行爲を取てせしめ而して大膽而して細心而して畫策の周到經營の巧妙とは遂に氏をして瀧川第一流の人士たらしめ今日あるに到らしめたり其の經歷の偉彩ある多く其の比を見ず男子中の男子として衆庶の尊敬を受けて去關しつゝあり偉なる哉。



瀧川村

瀧川村廣部酒造店

日本火災保險株式會社  
日宗火災保險株式會社  
大同生命保險株式會社  
眞宗信徒生命保險株式會社

瀧川代理店

主任 廣部彌三吉

酒銘 空知川釀造元

空知郡瀧川

廣部酒造本店

電零(カクヤ)又ハ(カ)



◎廣部清酒醸造店、清酒空知川と云は、空知川の巨流が空知管内に知らるゝ如く酒客何れも舌を鼓して其の醇味を賞讃し芳香醇烈敢へて大坂銘酒に劣らざるを以て名あり而して廣部醸造店の實に銘酒空知川醸造元として名聲を博しつゝあり店主廣部彌三吉氏は福井縣の人夙に本道の形勢を聞知し本道の風色混沌として未だ何等の秩序を持せざる明治元年少壯十八歳の身を渺たる大和船に托して本道函館に航す年齒十八尙ほ是れ郷國に戀々し父母の膝下に僅に東西を辨知するの時而かも氏や已に志を決し新天地に飛躍せんを期し千里の波濤を踏破して本道に航す氏が尋常の器にあらざる此の一事に徴し敢へて推知に難からざるなり斯くして氏は幾多の辛勞に耐へ多少の資を貯ふるや清酒醸造業の有利なるを看破し獨立斯業を開始す時に明治八年たり自來一盛一衰幾多の浮沈に堪へ啓發する處少なからず後ち錢函の地をし持て醸造場を開く蓋し清酒醸造業たるや事水質の善惡に關する頗る大而して錢函の地水質善良を以て知らるればなり明治廿三年新十津川開かれ雨龍原野又貸下げらるゝや氏の炯眼瀧川村將來の發達を卜し廿六年居を瀧川に轉ず而かも瀧川の地や水質善良尤も醸造業に適す加ふるに氏多年の實驗あり果然氏醸造の清酒空知川は其芳香を以て其醇味を以て酒客の間に重せられ遂に一ケ年千石内外を醸造する現在の隆を來せり從つて信用全村に響き其名望は推れて村會議員となり其名聲は日本火災日宗火災大同生命眞宗信徒生命等幾多保險會社の瀧川代理店を委託さるゝあり瀧川村に於ける有數なる商人とし氏ての名を知らざるものなし氏や寔に是れ立志編中の人物と云ふべし。



瀧川村

瀧川村坪田酒造店

清 酒  
都 川 釀  
寶 冠 造

日本生命保險株式會社

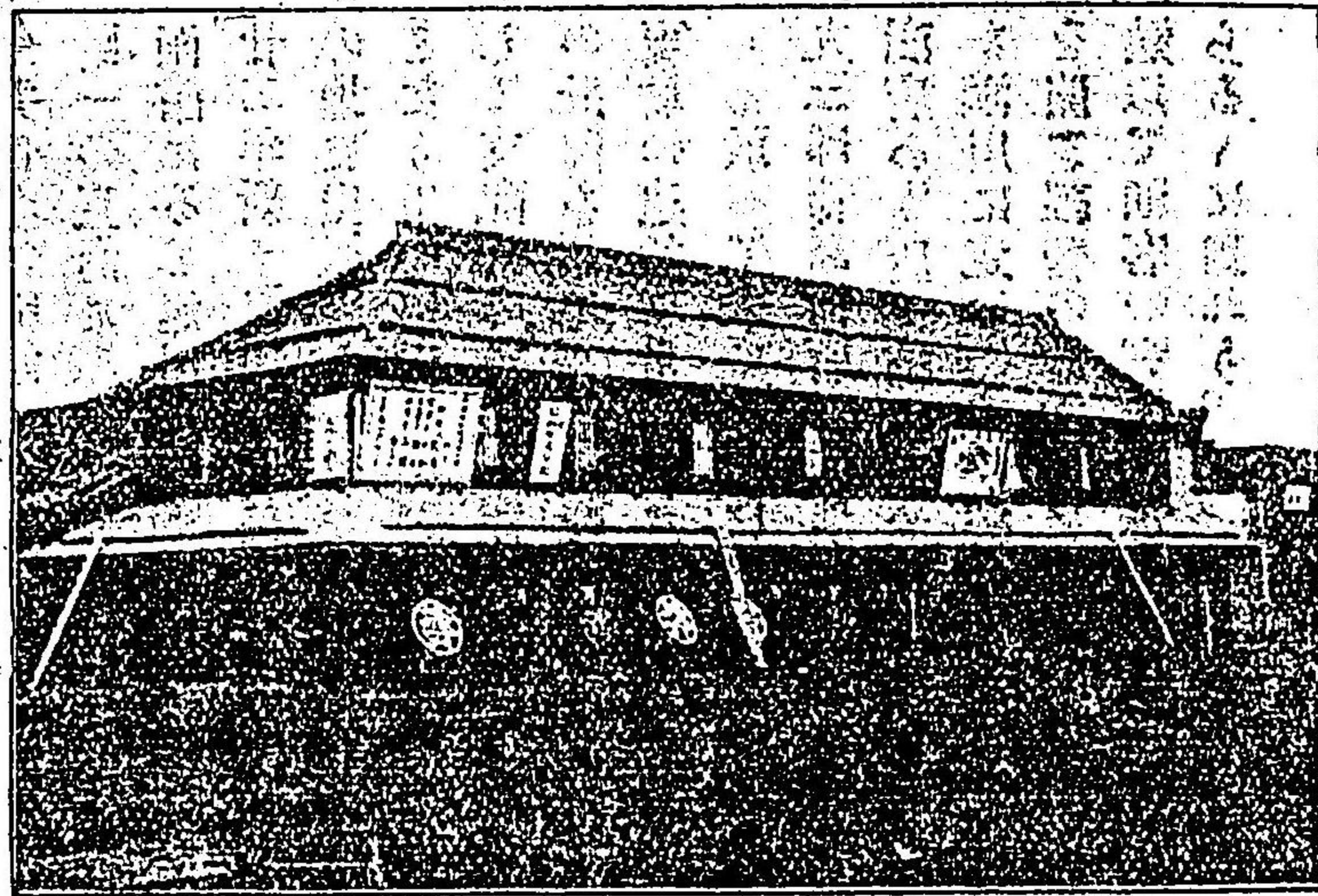
瀧川代理店

空知郡瀧川町

ヤ 坪田商店



◎坪田商店、坪田商店は瀧川村に於ける巨商なり嘗に其取引の盛大なるのみならず財産家として知らるゝのみならず地方に於ける重鎮として坪田商店の名噴々として傳へらるる同店は荒物米穀店として清酒寶冠印都川印醸造店として瀧川唯一の大商店なり店主坪田彌市氏は福井縣の人夙に清酒醸造に實驗を積む明治十三年本道に航し親して各地の状況を視察し地を小樽に相して若松町に清酒醸造業を開き名聲あり明治二十三年居を瀧川村に轉じ米穀荒物業を開始し蓋し氏の炯眼克く瀧川村の發達今日を來さんを當時に於いて看破したればなり果然瀧川の發達と附近農村の開發さるゝとは氏の業務をして次第に隆盛を來さしむ氏又勵精事に當り其畫策の妙着々經營の功を奏し廿五年より更に清酒醸造業を兼業するの基礎を開けり斯くして其の醸造せし處の銘酒に寶冠及び都川の銘を附して發賣するや忽ち酒客に其の名を知られ其年ならずして克く一ヶ年八百石内外を醸造する隆盛を來せり蓋し同店醸造の清酒は品質善良酒客の口に適し其の芳香大坂上酒に譲らざるに因る歲月自來十有五年隆月に加はり盛年と共に大に巍然として瀧川有數なる巨商たる基礎を堅ふし其の信用は日本生命東京火災等保險會社の代理店を托さるゝのみならず各銀行借入申込所たるの名聲を來せり然れども店主彌市氏尙ほ此の成效に安せず明治卅六年天埶名寄村に支店を設置し吳服太物米穀荒物業を開く計畫宜しきに適し支店の隆年と共に加はり瀧川本店と相呼應して名寄有數の商店たり坪田氏又力を公共に盡し瀧川を代表して貢獻したるの功頗ぶる大に瀧川を知る者にして坪田氏を知らざるなきの現在を來せり偉なりと可謂也。



店支川瀧井今



今井合名會社

瀧川支店

營業課目

吳服部

吳服太物

洋小間物 食料罐詰

官製賣元賣捌所

金物部

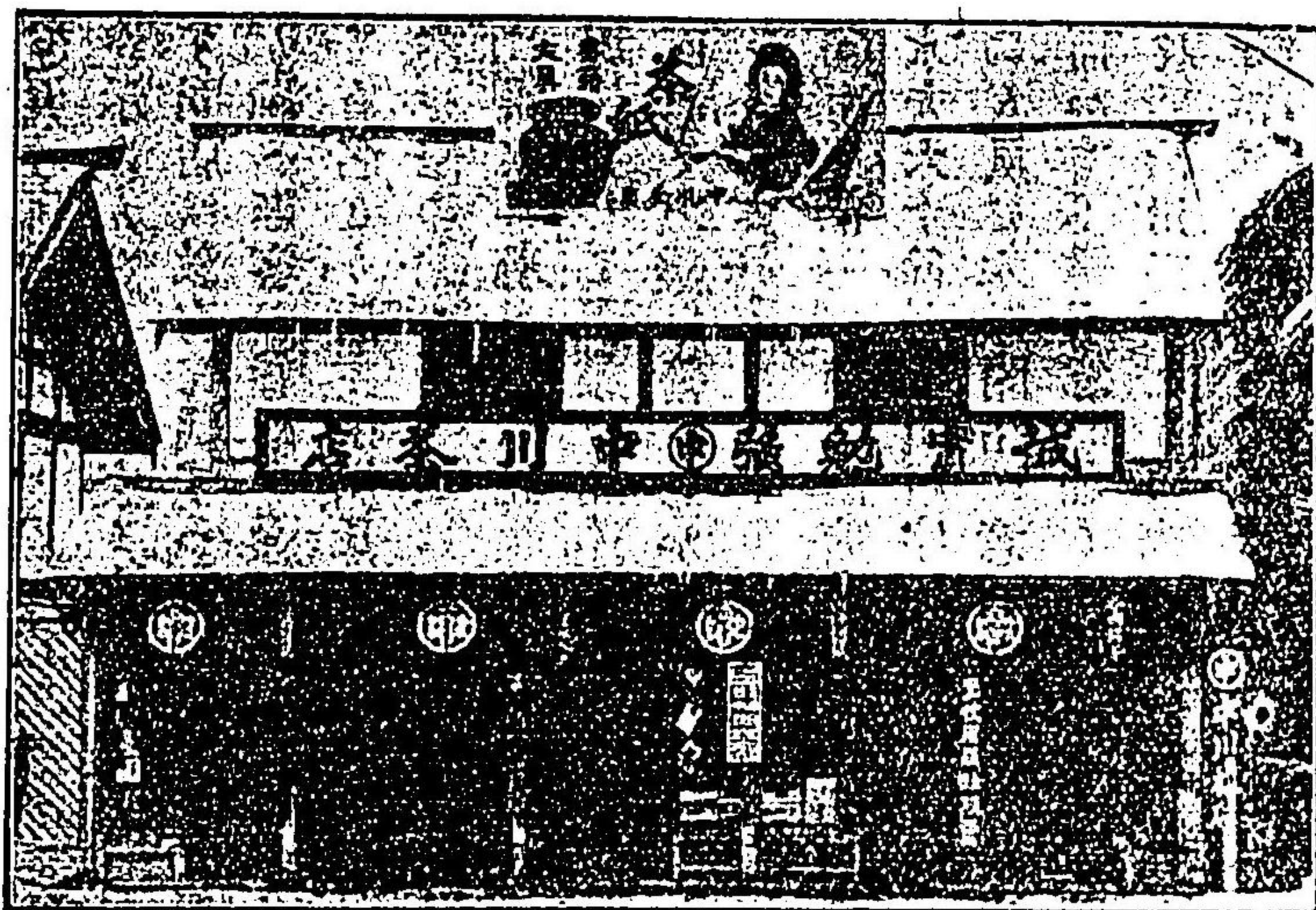
銅鐵丸釘 打刃物

鑄物類土工材料各種



○今井合名會社瀧川支店、札幌に於ける今井合名會社が吳服太物洋物洋服金物商として全道隨一の巨商なるが如く同會社支店又支店所在地に於ける同業の巨なるものなり小樽たるを函館たる旭川たる岩見澤たる室蘭たる瀧川たるを分たざるなり瀧川支店は明治廿二年新十津川に移民來り瀧川に屯田兵の移住するや北海道廳よりの依頼に依り同年瀧川の地に出張店を設けたるを始めと爲す廿四年出張店を支店と改め同時に市村龜松氏支配人となり卅一年山田氏之に代り卅七年奥山氏支配人となり當時は東城久吾氏少壯の身を以てして支配人の重責を双肩に擔ひつゝあり同氏は廿七年四月札幌本店に入店し現時二十七歳の壯齡を以てして支配人となり約三十名の店員を使役して些の錯誤なく店員間に令聞あり現時の建物は卅五年八月改築の功を了したる物にして其の宏壯なる寫眞銅版を見れば瞭然たらん敢へて未見の士に紹介する者也。

○九三印柿島商店、同店は吳服太物洋小間物併びに下駄類販賣店として瀧川村に知らるゝの商店あり店主柿島軍治氏は越後の人明治三年南蒲原郡西大崎村に生る廿四年本道に航し居を瀧川に定め幾多の經驗と辛勞を嘗めたるの結果卅年より洋小間物及び瀬戸物類の販賣店を開き經營の妙次第に間村の信用を博し基礎を堅ふするや更に吳服太物業を兼業し其の匪勉以て顧客の利便を專一とせしの賜物は今日あるの隆を來し柿島商店の名噴々として傳へらるゝに到れり。



瀧 川 村

店 商 川 中 村 川 瀧

號 ① 商

學校教科書販賣所

紙 茶  
卸 書 文  
小 籍 具  
賣

官製煙草元賣捌所

町 本 川 瀧 郡 知 空

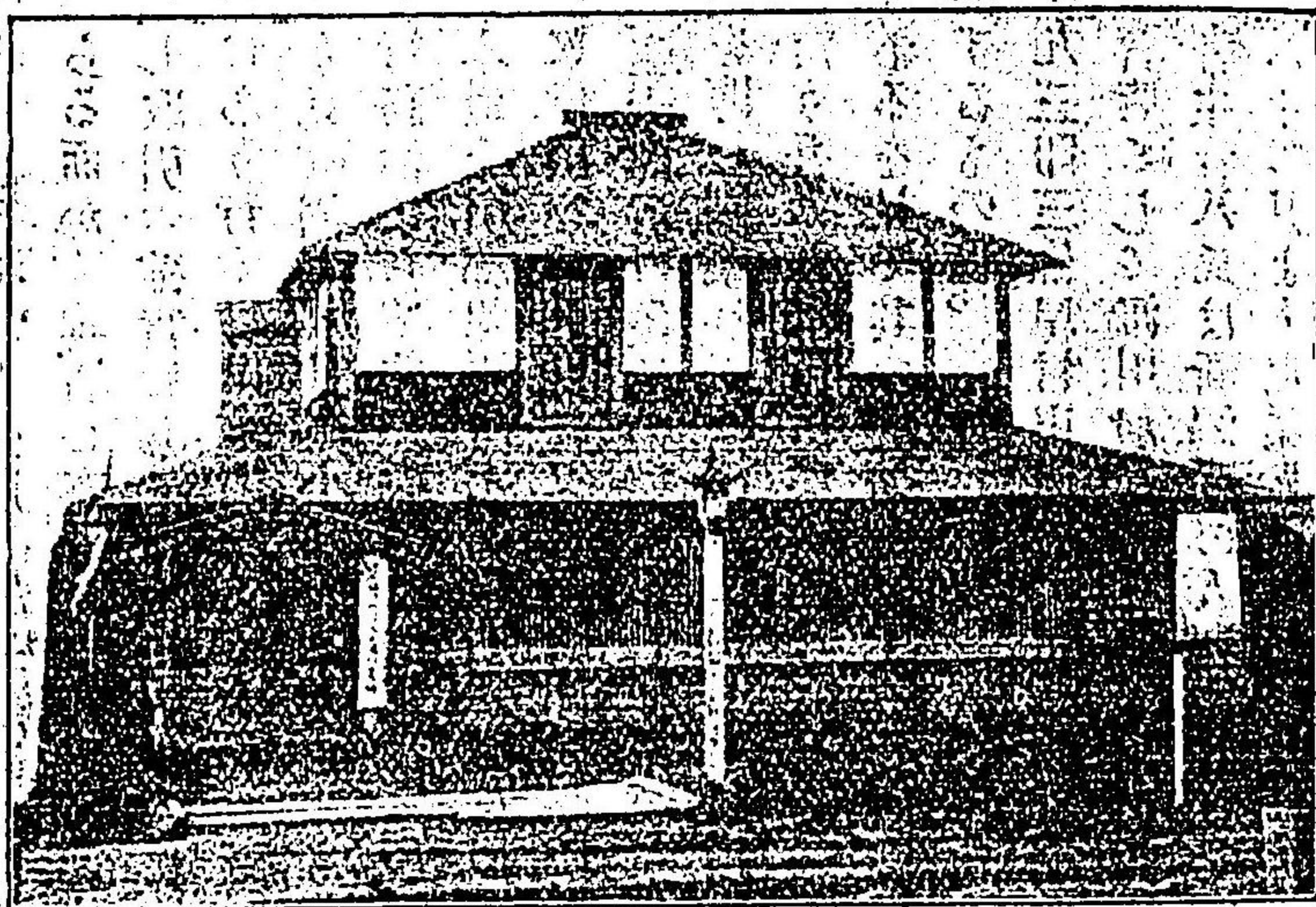
店 商 川 中

九〇八三號番座口金貯替振



◎丸中印中川商店、忍を以て資と爲し誠實を以て行爲と爲し天下に文明的商人たるの模範を示さんとの大抱負を有して瀧川の地に立ちつゝあるを中川商店の店主中川捨三郎氏と爲す同店は教育に關する書畫を初め文房具類其他餘す處なく更に各國産の銘茶茶器一切を取り揃へ顧客の眷顧を受けつゝ是等の物品に關しては如何なる注文と雖も應ぜざるなきを以て有名なり店主中川氏は近江の人明治四年五月を以て滋賀縣東淺井郡大郷村に生る夙に學業を修め尤も新智識に富む少壯四海に意あり近江商人の近江商人たる所以の實を發揮し上は祖宗に酬い下後昆を照さんを欲し本道に航して新天地を開かんを期し慨然渡航し地を瀧川に相して現業を開く自來孜々として經營倦まず所謂忍を以て資とし誠實を以て行爲とし而して現業を營みしかば信用期せずして集り名聲欲せずして江湖に傳へられ在現あるの礎を堅ふせり氏も又偉なる哉。

◎南回漕店、南回漕店は水利運業者として其盛大空知管内第一の稱あり日夕使役する處の水夫六十餘名砂川村字砂利場に支店を設け業務の隆人知らざるなし店主南外吉氏は富山縣の人夙に本道開拓に意あり廿三年本道移住を企て空知郡赤平村に居を定めて開墾に従事す而かも不幸事意の如くならずして成績好良ならず遂に去つて瀧川に轉住し現業を開始す時に明治卅三年たり自來の經營着々功を奉し水運業者として管内隨一の名を歌はるゝの現在を來せり又盛ならずや。



瀧川村

瀧川村絲屋銀行

定期預金年七步五厘  
當座預金日歩一錢五厘  
小口當座預日歩一錢七厘

糸屋銀行旭川支店  
瀧川出張所

- ◎諸貸付及商業手形ノ割引
- ◎荷爲替代金取立爲替
- ◎其他貯蓄銀行代理店事務取扱可  
申候

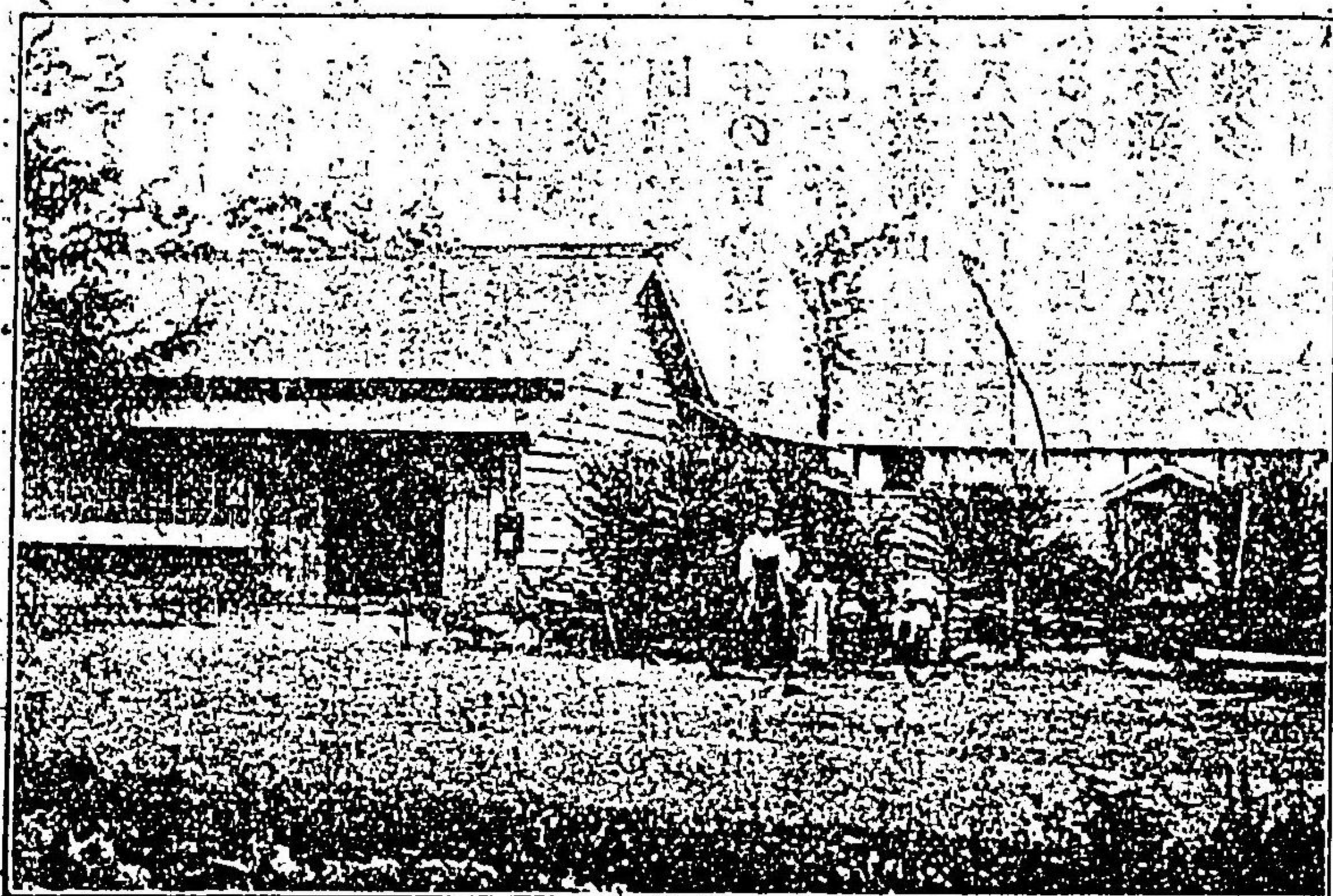


澁川村

百三十四

◎絲屋銀行澁川出張所、絲屋銀行は信用ある銀行なり旭川に深川に澁川に名聲隆々として知らる而かも本店を本道に有するに非ずして名聲高く信用此の如き篤きもの蓋し行務の整頓し取引の確實にして諸事正確なるに依らずんば非ず本店所在地は遠く兵庫縣氷上郡墨井村にあり行主は山本菊藏氏資本金五万圓諸積立金四万圓無限責任の小銀行なり然り銀行界より見れば固より是れ小銀行なりと雖も其の行務の確實にして江湖に信用ある大資本を擁して行務治まらず非難聲裏に信用なき所謂大銀行に優る萬々と云ふべし絲屋銀行や一度支店を本道上川郡旭川町七丁目右六號に設け本山又彌氏を支配人に任じてより行務克く舉り次第に信用を博し更に又澁川村に出張所を設くるの隆を來せり澁川出張所員は柴田作次郎佐藤龜太郎谷口俊治の諸氏にして是等三氏の匪勉にして勵精克く行務に處する忽ち地方の信用を博し創業日尙ほ淺きに拘らず諸預金六万圓諸貸附金七万圓以上に達する好成绩を擧げ得たり吾人は銀行事業の至難なるを知るものなり従つて絲屋銀行出張所の好成绩を擧げつゝあるを見て其の成效を祝すると同時に澁川地方の爲め此の好個の金融機關の存在するを慶するもの也。

◎丸三印三條屋村山商店、諸新聞賣捌所として將た瀬戸物茶諸帳簿塗物類諸紙類學校用品販賣店として澁川村民の三條屋村山商店を知らざるなきもの以て同店の名聲を推知し得べし店主菅八氏は新潟縣の人明治廿三年澁川に移住し大工受負業を營み其の名を知られしも卅八年二月より現業に轉し業務日に隆盛を極めつゝ便利なる商店として知られ又空知便覽賣捌所をも兼ねつゝあり。



澁川村

高木外次郎氏宅

# 氷製造

# 販賣



高木外次郎

砂川村字南空知太



高木販賣出張所

澁川停車場前



○高木製氷所、空知管内地や曠く幾多事業を経ずる人多しと雖も製氷事業に従事し之を専業とするは唯だ高木製氷所あるのみ固製氷所は砂川村宇南空知太にありて販賣店を瀧川停車場前に設け高木外次郎氏の経営主宰する處たり高木氏は福井縣の人夙に本道の事情に注意し渡航に意あり明治十九年意を決して本道に航し小樽に上陸す同地に留る事一ヶ年熟々各地の狀勢を聞き空知管内各地將來の發達を卜し尤も形勝の地砂川に居を定む時に明治二十年たり氏農業に従事するの傍ら製氷事業の必要と有利なることを知り管内未だ製氷所なきを慨し廿二年卒先して斯業を開始す氏の惘眼空しからず夏期の飲用に外用に之が爲めに利便を來せしの人士少なからず然れども之を創始せし當時は需用未だ少なく氏も少なからざる困難を來せしと雖も不撓不屈の精神毫も撓まず銳意之が經營に従事し年々業務を擴張し十年の苦心遂に販賣店を瀧川停車場前要衝の地住に出すの隆盛を來し空知管内と管外とを問はず各地よりの需用夥して今や一ヶ年の製氷高二十五万貫に達し名聲遠く管外に聞へ製氷事業獨占の現在を來せり思ふに製氷事業が本道に於ける都市に企てられたるは殆んど廿七八年戰役以後に屬するに拘らず氏の惘眼僻遠砂川の地に於いて二十二年已に之を創始したるの一事氏が如何なる人格の人なるやを想見するに足るべし氏力を事業に盡すの傍ら公共事業に盡瘁し名聲噴々として高く學務委員に舉られ部長に推され衛生組合長に選ばるゝ等幾多の公職を双肩に擔ひ名望何人も知らざるなし吾人は氏が製氷事業を獨占し空知管内に去嘯せらるゝを慶するものなり氏に倚りて管内製氷事業を見るを得たれば也。

瀧川村

百三十六



瀧川村五徳園搾乳所

**精良**  
**牛乳**  
**販賣**

●朝夕ノ二回ニシテ配達最モ敏速

●端書ニテ御注文被下候

節ハ端書御返戻可致候

瀧川兵村二丁目

**五徳園搾乳所**

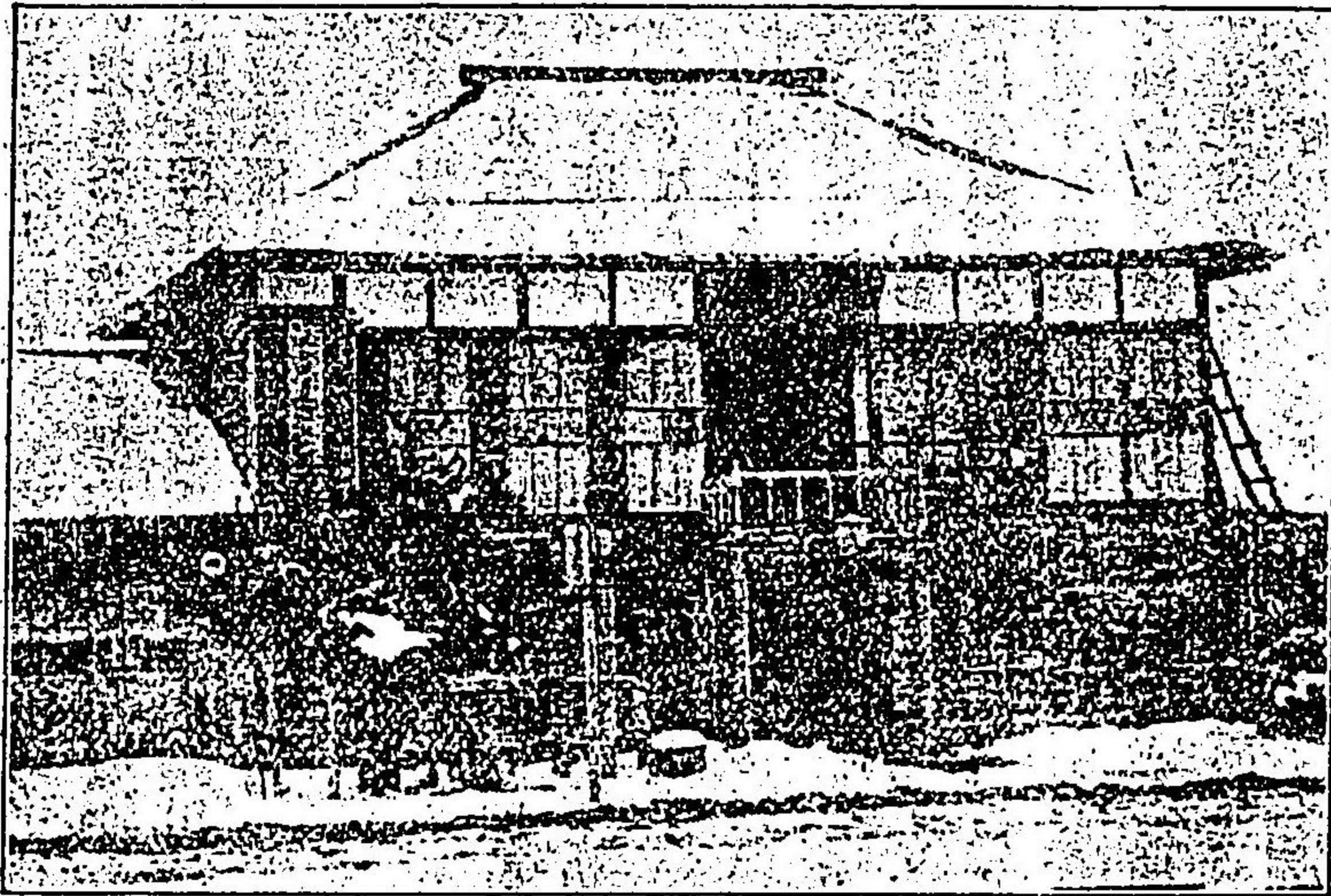
**三輪精一**

瀧川村

百三十七



◎五徳園牛乳搾取所、瀧川兵村を知るものにして五徳園牛乳搾取所を知らざるものはなげん寔に同園の成効に關しては逸すべからざる美談あればなり園主三輪精一氏は山口縣吉敷郡の人廿三年屯田兵の徴に應じて瀧川兵村に移住し孜々として耕耘を勵む廿七年日清の國交破れて事を干戈に訴へ屯田兵又出征するや三輪氏乳牛一頭を令閨に與へ後事を托して出征し武夫已に出征す豈に生還を期せんや令閨決する處あり先妻の一子成輔氏を育し耕耘に従事するの餘力を以て乳牛より搾取する處の牛乳を販賣す當時尙は牛乳の價値を知らざる者多く飲用者少なきも令閨毫も屈せず知らざる者には之を教へ徒歩力行砂川奈井江歌志内瀧川市街地各方面に行商し少しも倦まず衆人皆な氏令閨の黽勉に嘆服し顧客漸やく多きを加ふ令閨の奮勵更に一層を加へ一頭は一頭より乳牛を増加し畜に三輪氏出征中後顧の憂ひなからしめたるのみならず五徳園が今日善良なる乳牛十七頭を飼育し兵村第一の牛乳搾取所たる基礎を爲したるもの一に三輪氏令閨黽勉の賜物たるなり園村三輪氏令閨を頌して婦女の兼鑑と爲すもの故ありと云ふべし五徳園は此の如き美談の許三輪氏令閨の力に依りて成立したる搾取所にして普く名聲の知らるゝのみならず其の乳質の善良なるを以て名聲噴々たりと令息成輔氏此の如き賢母に育せられ札幌農學校を出てより畜産研學の目的を抱いて渡米し目下シカゴにありと云へば五徳園前途の發展大に見るべきものあらんなり。



瀧川上田旅館

實	田	全	上	誠
上	全	田	強	上
<p>瀧川停車場通り</p> <p>全旅 上田文助</p> <p>取扱町重</p> <p>食料新鮮</p>				



瀧川村

百四十

◎山上印上田旅館、空知管内北部の中央市場として人口一万二千四百餘人を抱有する瀧川の地自然の趨勢が好旅館を出すは必然の理なり而して此の必然の理に依りて建てられたるを山上印上田旅館と爲す同館は瀧川隨一の好旅館にして如何なる上流の紳士來り投ずるも之が設備に缺くる處なく其の客室の美麗なる器具の清潔なる殊に其の食膳の美味にして衛生を重じつゝあるは投宿者の何れも悦服する處なり其の建築の如き寫真銅版の説明するが如く宏壯を極むるのみならず設備の文明的なるは喜ぶべきなり館主上田文助氏は福井縣の人嘉永元年十二月を以て丹生郡下岬村に生る夙に意を本道の事情に漑ぎ郷國に踟躕たるを欲せず明治の初年千里の波濤を大和船に蹶破して本道に航し漁業地美國に足を留めしも意の如くならず更に集治監看守を奉職せり然れども是れ蛟龍の雲を得ずして姑らく窟するも明治十九年瀧川の地將來の發達を相し居を同地に定めて運送業を開く氏の烟眼少しも過たず年と共に瀧川の發達し屯田置かれ上川街道要衝の地となるや氏の業務又繁榮を來し得る處少なからず氏益々業務を擴張し上田運送店の名江湖に高し氏瀧川の益々發達し行旅の客往來頻繁なるに拘らず好個の旅館なきを遺憾とし明治卅五年十一月自ら巨資を擲ち停車場通りに現業を開始す自來僅に五星霜なりと雖も氏經營の巧なると旅客に對して親切丁寧を極むるとは忽ち山上旅館の名聲を博し行旅の客旅する必ず宿を同館に求むるの現在を來せり氏尙ほ之れに安んぜず諸事改良を專一とし尤も嶄然たる設備を整へ空知管内第一の旅館たらしめんを欲すと云へば同館が尙ほ一層の隆を來す敢て遠き將來にあらざるべし。



瀧川村照井搾乳所

### 諸肉類卸小賣商

空知郡瀧川

## ㊦ 照井牛乳搾取所

照井謙治

### 精良

●朝夕ノ二回ニシテ配達最モ敏速ナリ

### 牛乳

●搾乳ハ殺菌ノ上販賣スル

### 販賣

ヲ以テ其効用大ナリ



◎照井牛乳搾取所、同所は瀧川第一の牛乳販賣所にして傍ら諸肉の卸小賣業を兼ね所主照井謙治氏は宮城縣の人文久三年を以て同縣登田郡湧谷町に生れ明治二年本道に航して札幌に在留し本道畜産將來の隆を卜して夙に斯業を研鑽し造詣する處頗ぶる深し明治二十六年居を瀧川村に轉じ先づ諸肉販賣業を開始し其の基礎を定めんを期す照井氏専ら薄利を主とし敢へて暴利を貪らざるのみならず克く肉質を糺し精良なる鮮肉をのみ販賣せしかば次第に名聲を高ふし江湖に信用を得半斤の肉と雖も人争ふて之を氏の賣店に需むるの隆を來し經營十餘年素志少しく達するや多年の宿望たる牛乳搾取業を開始せんとし先づ善良なる乳牛十餘頭を購入し其の乳質を糺し完全なる殺菌器械を据へ附け卅九年八月乳牛を發賣す氏が斯業に研鑽を積むと學理に精しきとは尤も完全なる全乳を販賣するを得開業月尙は淺しと雖も噴々たる名聲を江湖に博し衆人争ふて全乳飲用を氏の牛舎に求むるに到れり氏や尙ほ現在に安せず益々乳牛を選択し殺菌器を完全にし尤も善良なる生乳を販賣せんに苦慮しつゝあるは瀧川住民の幸福と云ふべき也。

◎丸ノ印高畑運送店、在留瀧川に久ふして業務確實期日正確を以て知らるゝを高畑運送店と爲す同店は運送業者間に存する一種の弊風なく正直勤勉而して確實毫も依托者の不利不便を醸さいるを營業の本旨として信用を高め目下栗山組代理店運送組代理店運送株式會社代理店丸福組代理店札幌倉庫代理店等幾多の代理店を兼ね業務の隆他に比肩し得るものなし店主高畑宜茂氏は京都府の人明治十九年渡道し瀧川に現業を開いて今日あるに至れり。



瀧川市街木村勝次氏

一 渡道の理由◎清正大神祇之神通  
力を以て神德擴張す

二 現在の狀況

此神ヲ祈リテ祈ノ叶ハザル  
事ナク世ノ病者諸テ全治セ  
ザルナク一切ノ願望成就シ  
我神通力ハ神感明應響ノ物  
ニ應ズル如ク依テ老若男女  
ノ參詣晝夜群ヲナシテ織ル  
ガ如シ

三 希望天下維一神通力

ナ以テ來ル者ニ  
ハ吉凶禍福ト諸  
病ノ根原ヲ示シ  
惡病災難消滅祈  
禱ヲ爲ス



◎清正教會長木村勝次君、木村勝次氏は熊本縣千町村の人明治卅七年九月居を瀧川村に移す氏一度足を瀧川に留るや同村に一の神社なきを慨し清正守護の布教祈禱を執行し自ら發起者となりて諸有志と謀り二月にして三百有餘の信徒を得兵村市街地合同にて瀧川村宇一の坂に敷地を卜し村社を建立し廬殿に清正公大神祇を奉祭し卅九年五月認可せられたり木村氏は名門にして家系實に大職冠鎌足公より出て連綿として絶えず氏の代に及び世々名家として衆庶の尊敬を受くるのみならず氏又清正公祈禱の術に長じ起死回生の手腕驚くべきものあつて存す今贅筆を驅つて之を説明せんより代ふるに左の禮狀を以てせん。

私儀數年來難病に苦み幾多の藥石一として其効なく最早是れまでなりと憂慮致し居り候所計らずも清正大神祇の御祈禱を蒙り其御利益を戴き數年間の難苦を忘れ吾が身に立ち還り難有奉存候先は紙狀を以て此の段御厚禮申上候也。

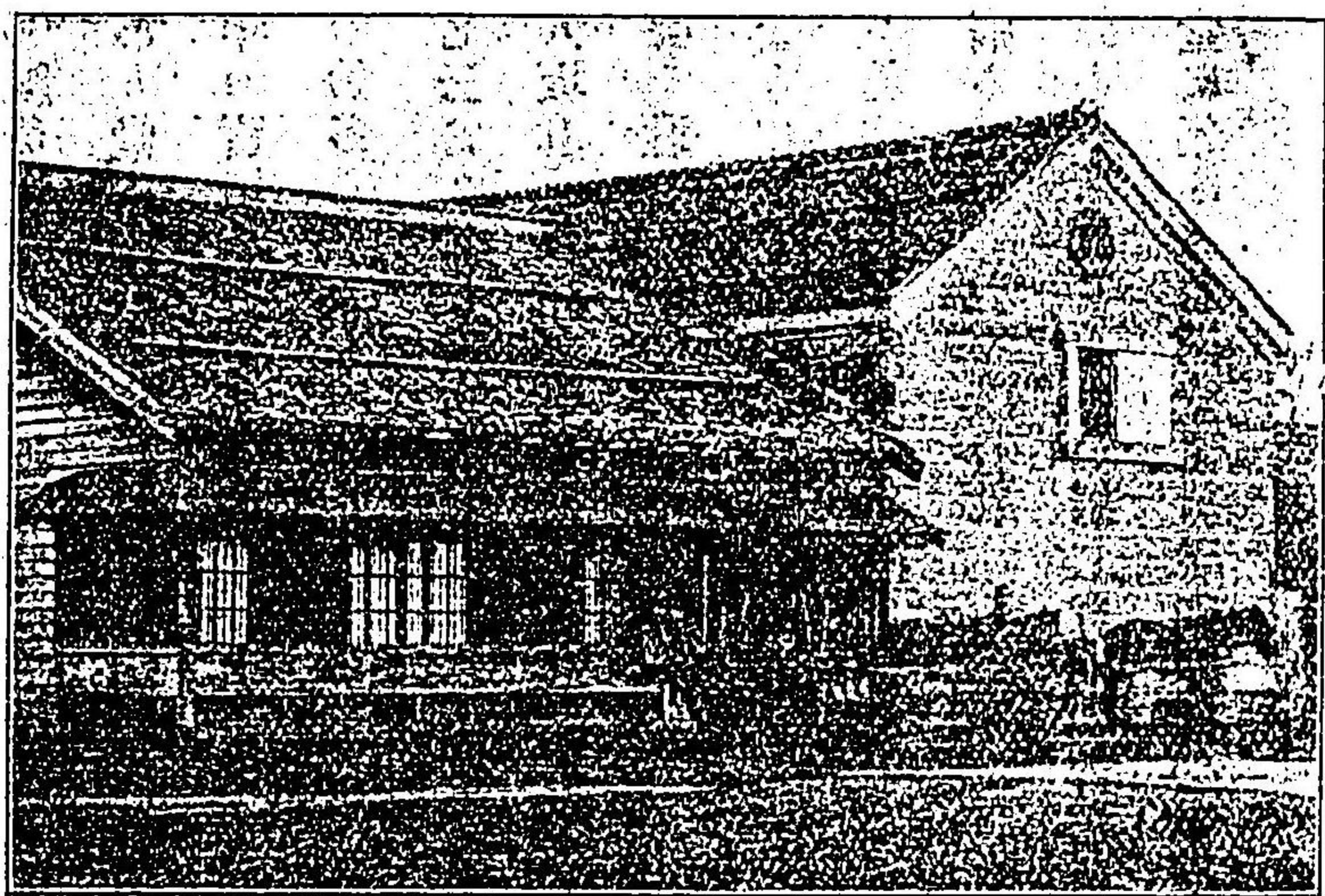
空知郡瀧川村東一丁目三番地

松本吉藏

清正教會長木村勝次殿

拜啓益々御繁榮の段奉賀候御承知の愚娘備幼少の折より足立たず歩行叶はざる身に候處御貴殿の御祈禱に預り度々の御祈禱にて遂に歩行する身体と相成り偏へに神力の御蔭様且つは先生の神力にて全快仕りたる者と存ト親子の喜び此の上も無之候其内參詣御厚禮可申述候先は御通知迄申上候也。 空知郡納内村北五丁目 高橋ゆき

清正教會長木村勝次殿



瀧川市街地共成株式會社支店

◎共成株式會社瀧川支店、同支店は有名なる小樽の共成株式會社の支店にして支店長は石黒權次郎氏なり氏は富山縣の人夙に共成會社々員として勵精し卅一年岩見澤同社支店より轉じて瀧川支店長に昇任し自來今日に至れり氏人となり恭謙篤行克く人を化す従つて衆望氏に歸し卅三年七月自治制施行と共に推れて瀧川村會議員となり卅九年四月まで前後六年其の職に盡したるのみならず事苟くも瀧川の公共に關する事にして氏の手を煩はさるなく衆庶の畏敬を來しつゝあり瀧川支店は明治廿七年六月の設置になり而して卅一年來氏之を監理し年と共に營業の隆を來せるものに之を氏の賜物に歸せざる可らず氏又顧客に接する懇切にして叮嚀を極むるを以て何れも悦服せざるなしと云ふ同支店の隆を盛決して偶然にあらざるなり。



瀧川村  
百四十六  
◎鍼灸醫延命堂、延命堂は鍼灸醫に兼ぬるに藥種商を以てし瀧川地方に名聲を知られつゝ

あり堂主中谷駒市氏は夙に出雲國の大醫鹽田貞禮氏に従ひ鍼灸術の蘊奥を極め加ふるに多年の實驗あるあり斯術

の妙多く及ぶものなし  
と云ふ内地に在りては

大坂其他の開業して名  
聲を馳せ本道に航して

よりは居を瀧川に定め  
鍼灸術を以て幾多の難

病を治し名聲を歌はれ  
聲ある所以ならんか若し難病の苦痛に醫藥其の効なきに泣くものあらば行いて手術を延命

堂に乞ふべし同堂主人手術の妙必ずや患者をして首肯せしむる處あつて存ぜんなり。



瀧川村 中谷駒市氏

つゝあり殊に其の販

賣に係る所の藥品は

即効ある驚くべきも

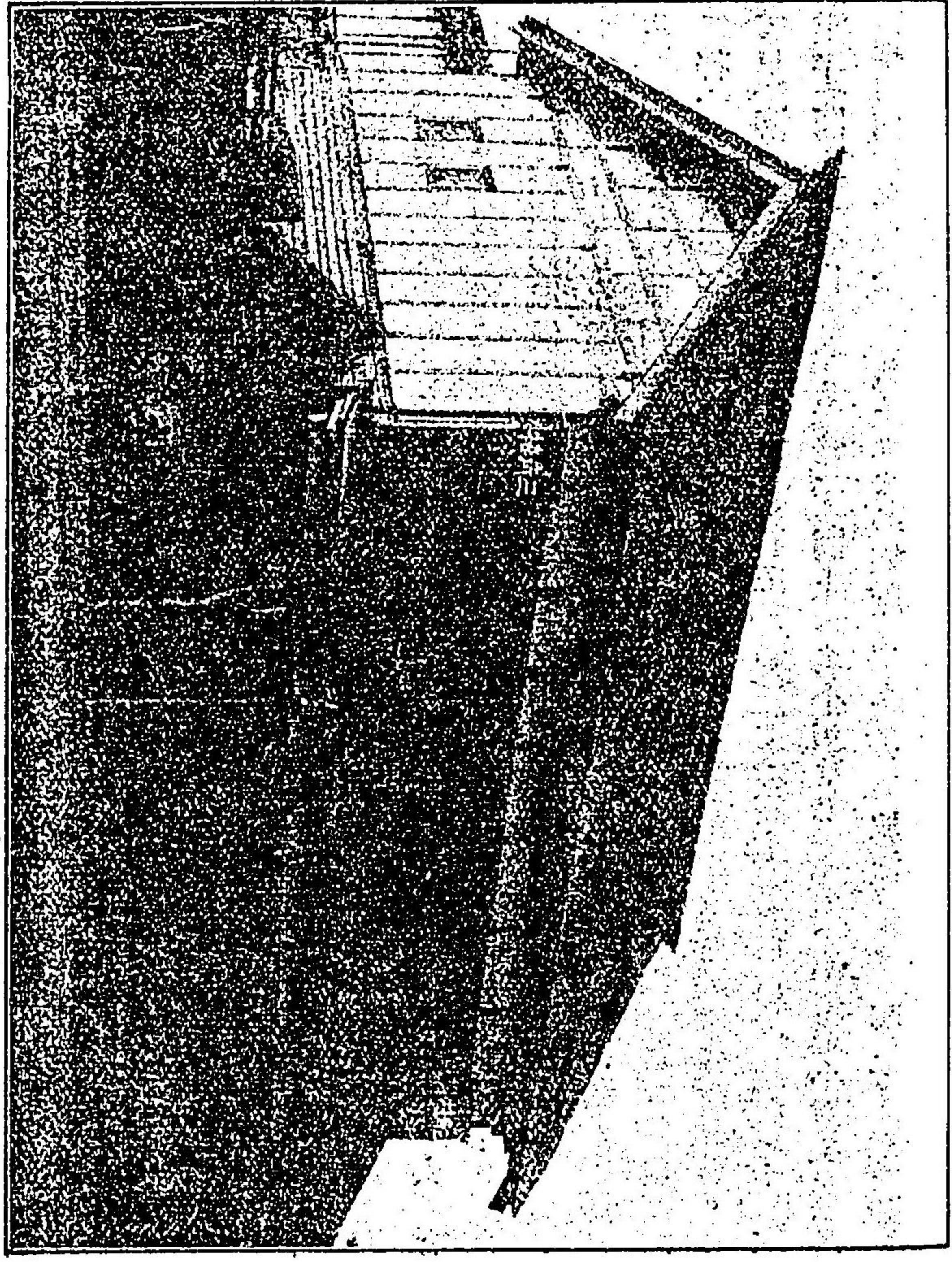
のあつて存す蓋し氏

は出雲大社教の教職

にあるを以て敬神事

に處し鍼灸を施すが

故に手術を過たす名



瀧川村

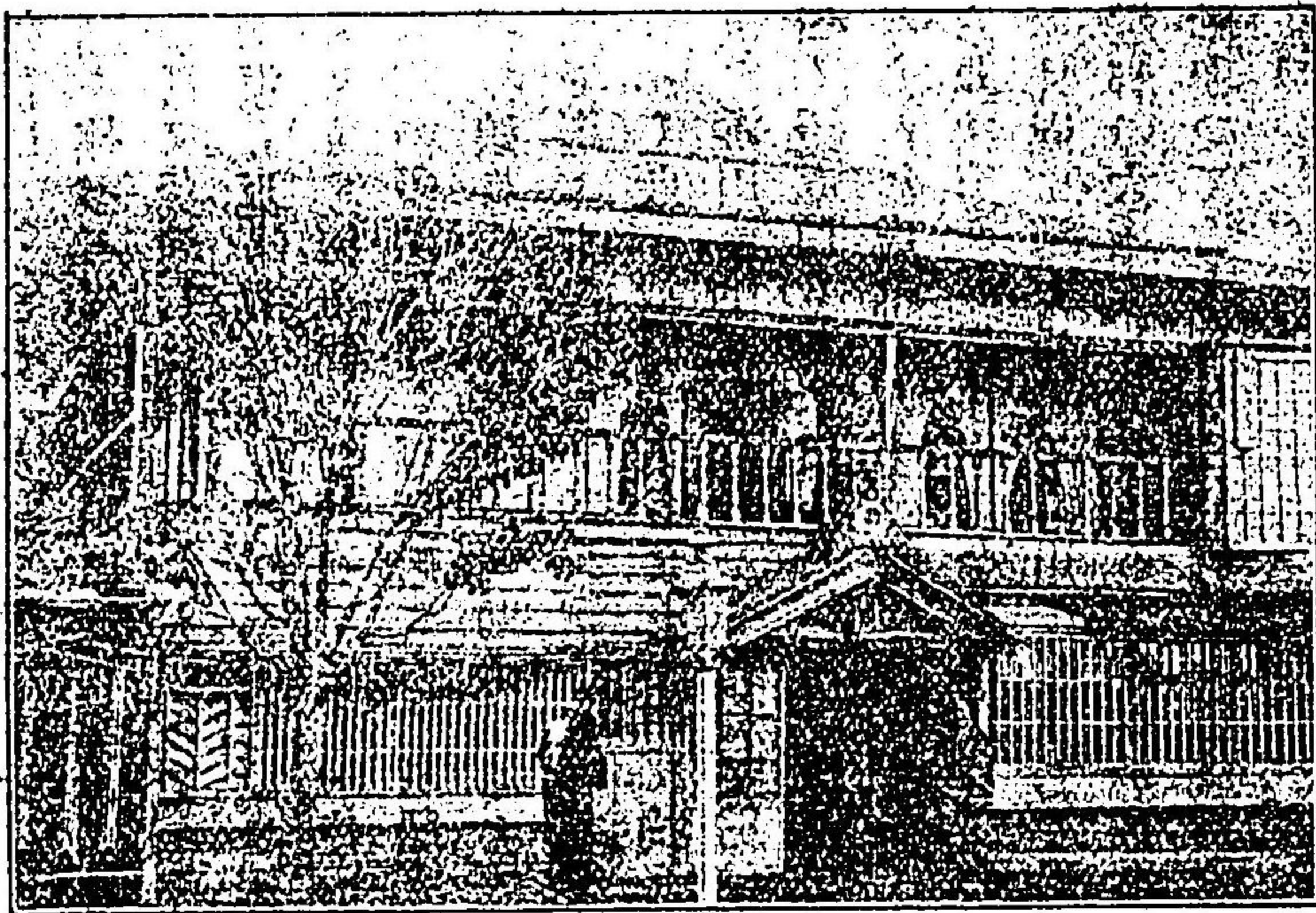
榎角三郎遊村川瀧



◎妓樓△印三角樓、左様なら三角又来て四角なると洒落處にあらぬ全盛に瀧川遊廓一等の大雑と知られたる三角樓名は實の實と云へば何んのなんの此の樓の圓満さ加減小春小登代と呼ぶ歌舞の菩薩の外解語の花の艶を離に競ふ美しの姿も敷ふれば九名の多さ角だつた處は見たくとも見られず浮いたくの喜見の内にも一意薄利を専一とし遊客の利便を計り待遇に懇切を極むる處恐れ入つたものなり去れば幾多同業者と競を並べての營業に此の樓のみは鳥の鳴かぬ日はありとも客足の絶ゆる日とてはなく吳客越郎の眷顧は期せずして全盛となり三角樓の名をして獨り粹名を歌はしむるに到れり樓主中島廣多氏は福島縣の人明治十七年本道に航して足を函館に留め瀧川へ移住せしは廿三年の年とか自來居を同地に定め三十年二月貸座敷設置許可と共に現業を開き今日を來したるものにして氏人となり任俠義を重んじ人の急を救ひ難に赴き其の名望は推されて廓内取締となる等斯業者間に於ける徳望家たり左れば同樓の風儀の善良にして毫も斯界の惡風に染まず遊客をして安んじて遊興を執るを得せしむるなす盡く氏の感化に外ならざるよし風儀已に此の如く善良なるに加へて籬の花の艶麗なるは所謂錦上花を添ゆるものイザヤ一掃野暮天となつて解語の花の戸籍を洗つて粹士參考の資とせんか先づ第一が小仙クン(出生地新潟本名白井いし)次が小澄(同上本名小柳すみ)登喜和(同上本名石田とめ)金太(同上本名里村りせ)妻子(同上齋藤つま)八重子(同上本名山城やゑ)珍子(同上本名小川はな)小稻(出生地小樽本名西川のふ)小常(出生地岩内本名島たか)以上九名の細腰曰く喃々の眞價は當て叩いてから知り賜ふべし



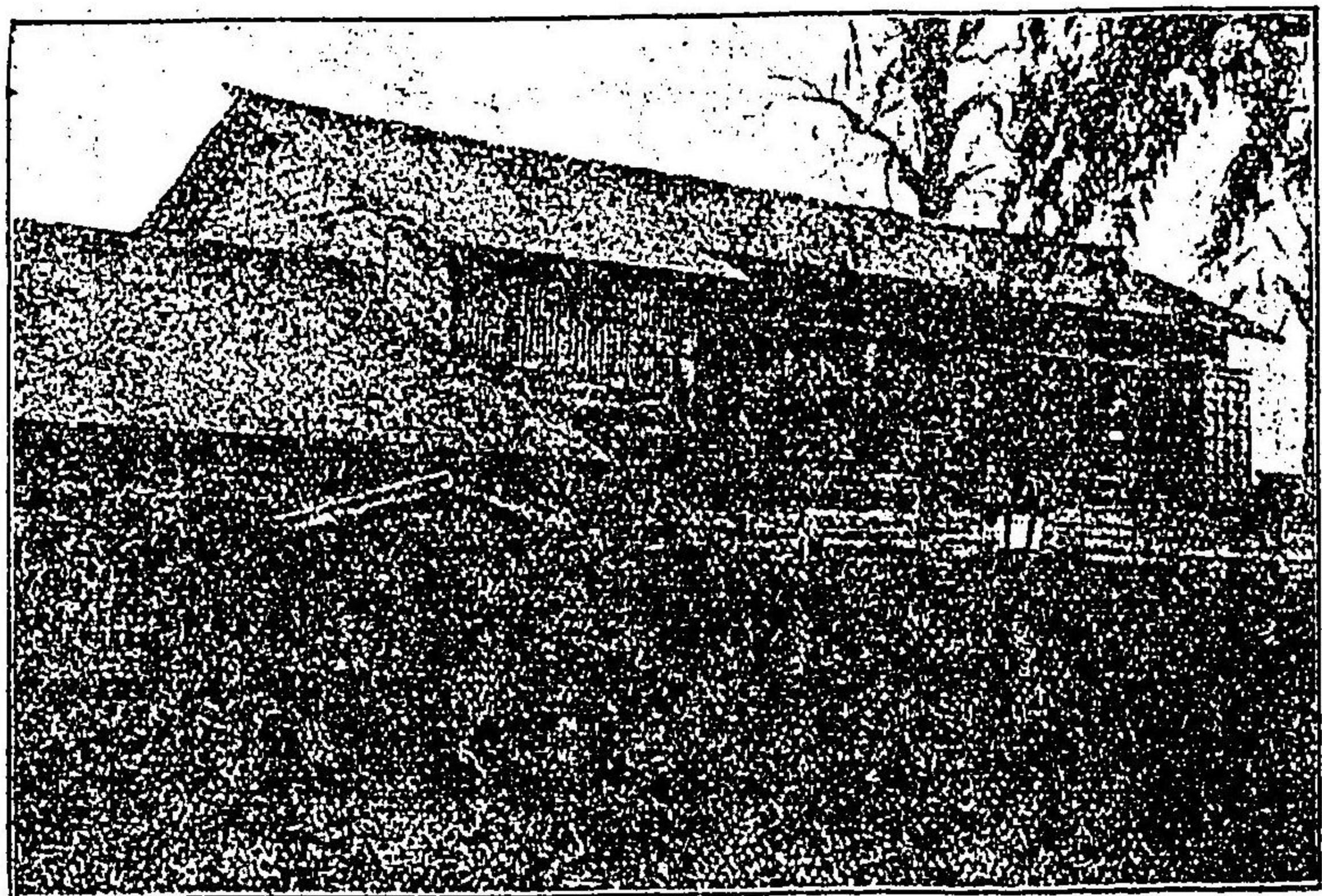
又キ崎岩娘樓壽比惠



樓壽比惠廓遊村川瀧



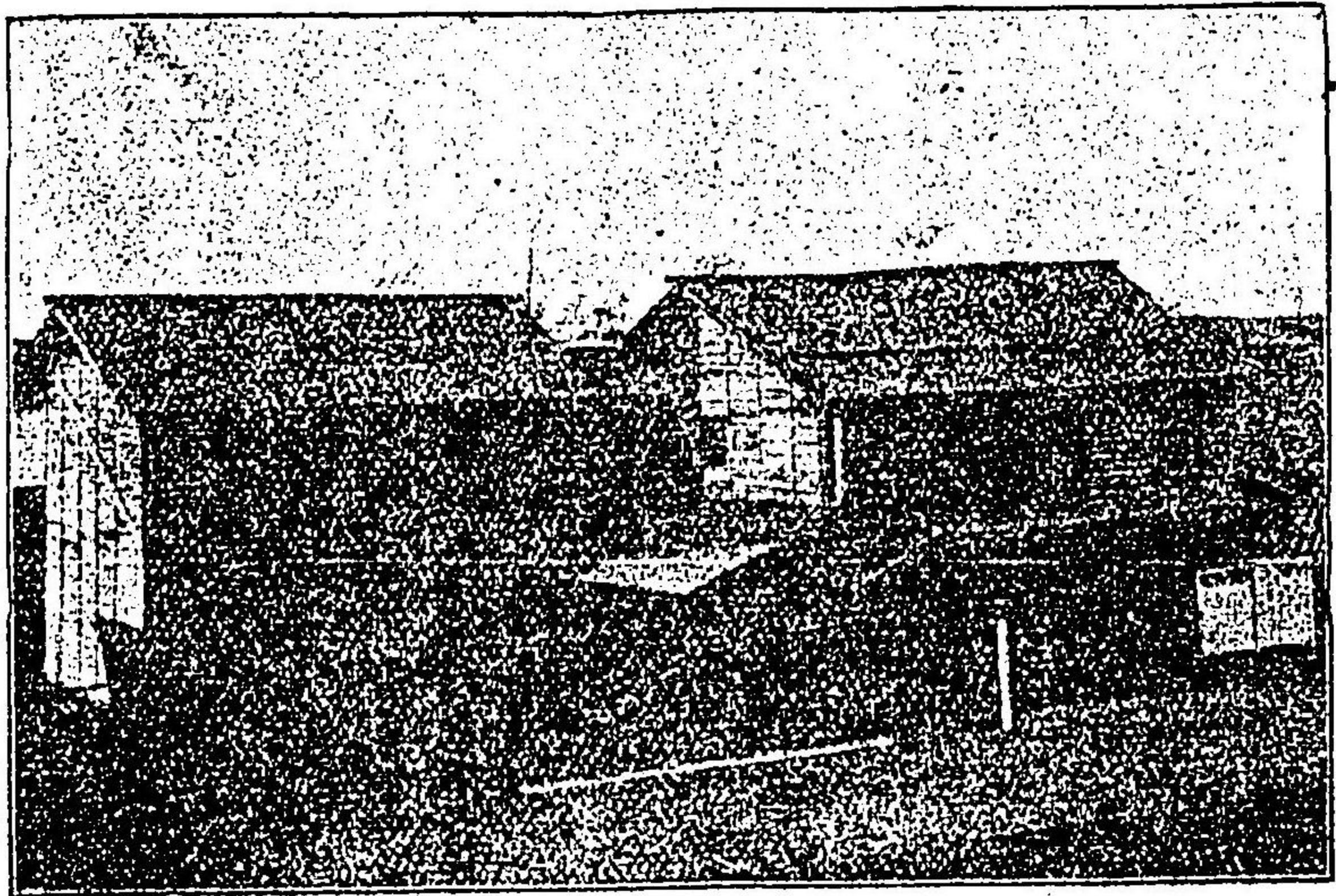
◎妓樓丸上印惠比壽樓、殖民地の娯樂所其の効能はなすと七六ヶ敷き理屈を云はずとも宿日の勞も一夜の春に忘れて是れ計りはと萬人願を撫づる溫柔郷瀧川に此の樓ありと知らるゝ惠比壽樓其の名にちなむなからんか一度此の樓に登樓した粹様何れも醒めても分別ならず明けて後朝の別れにもニコニコ然と惠比壽顔振り返り見返りして歸る不思議さ扱ては讀めたり惠比壽樓の名の依て以て起る處ココなんめりと何も知つた顔せずとも一度いつて見て惠比壽樓の偶然ならざるを知り賜へと肩入れ黨の多き馬なら百駄船なら千石船大變な騒ぎも道理かや先づ此の樓第一の呼びものは同樓の娘にして内藝妓たる助六嬢さん煙管の雨ならぬ數年の引手綱の目よりも多く荷くも瀧川で遊ぶものにして助六嬢さんの美貌を知らざるを恥辱とすと云へば其の全盛の程察知さるべく此の如き美人のましますに拘らず同樓細腰の花と來たら土臭き瀧川にと云へば何に驚と瀧川人士に叱られんも眞實正銘の處瀧川には惜しき程の美人揃ひ曰く小不二曰く小鷹曰く橋立曰く羽衣曰く八橋曰く薄雲曰く瀧川曰く木芽曰く更衣衣曰く松島曰く夕霧ヅラならんた處瀧川人士の我れから落ちて漢の武帝を氣取り楚の襄王たらんを欲するも無理ならぬ次第とか樓主岩崎金次郎氏は新潟縣の人明治十五年本道は追分の名所江差に來り十七年札幌に轉じ廿七年瀧川に移住して現業を開き藝娼妓十四名を抱ゆる現在の隆を來し瀧川遊廓の大籠として知らるゝのみかそもやそも瀧川に遊廓の設置されしもの樓主岩崎氏の運動與つて力大なりとか我れと思はん豪の者は惠比壽樓に一遊して名聲の偶然ならざるを知りぬかし。



瀧川村遊廓松月樓

◎妓樓丸若印松月樓、松に月醉なさばきも疊算待つは憂ひものつらいものなごの眞境を知らまく欲せば此の樓に遊び玉へて野暮な筆者までが松月樓を紹介するものまこと同樓が美人中の美人揃ひなるを知ればなり曰く若吉、瀧川、吉野、榮、八千代、福惠、藤野等何れも東北美人の純なるもの同樓が卅九年四月の開業になり月尚ほ淺きにも拘らず俄然として其の名を知られ同業先進を壓して全盛を極むるは之れが爲めなり樓主は鈴木市太郎氏斯業を開いてより一意其の經營に力を盡き風儀を糺し面白く遊ばせること此の樓に留めを刺すとかや嘘と思召さば試にやつてゴ覽じませ魂を有頂天に飛ばしてコリヤ〜と踊り出すこと受合ひなり加ふるに内藝者鈴吉姐さんなるもの、嬌名を歌はるゝありサア浮いた〜。





瀧川村遊廊東京樓

◎妓樓丸万印東京樓、馬鹿にするない瀧川にも東京があるぞと瀧川人士の肩入れも道理にこそと粹様何れも唾をたらす東京樓離の花の眞價など野暮は云はず瀧川に行かば一度は遊んで見賜ふべし政江敷島五月小春緑雲井千歳初菊八重梅などの解語の花何れも艶を競ふと目迷はん計り況んや奴となん呼ぶ美姫の三味にいかん堅藏もグニヤンコとなるは受け合ひ樓主伊藤範治氏は山口縣の人廿八年瀧川に移住し卅年より斯業を開き其の全盛日夜絃歌に響きを絶えず霜枯れ三月も此の樓ばかりは常時不斷の春籬の花の麗しきに依るとは云へ又樓主經營の巧と云ふべく行旅の客たると土着の人たるを別たす遊ば々東京樓との噂さ管内に響き渡り瀧川人士自慢の名樓イヤ御盛んなりと申し奉るになん。

◎北海道瀧川製絲組合、空知管内は本道隨一の蠶業地なり従つて管内幾多の購買者製絲組合ありと雖も其組織の尤も確實にして基礎堅く業務の隆盛を來しつゝあるものを尋ねれば何人も先づ指を瀧川製絲組合に屈せざるはなし然り同組合や創立年尙ほ淺きも其組織の確實なる資本の豊富なる推して管内隨一と爲す吾人は瀧川の地に此の如き基礎堅き製絲組合あるを見て空知管内蠶業の前途に對し意を強ふするものなり同組合は製絲業者二十二名の團體經營にして明治卅九年六月の創立になり組合員の釜數器械座繰等併せて六十八釜を有す該組合の目的たる組合員の製造したる生糸を一定の場返し及び荷造を爲して共同販賣を爲し組合製造生糸の聲價を保たん主旨なるを以て普く養蠶家及び仲買人の送荷を歓迎するのみならず送荷を受けたる繭は日々組合事務所に於いて組合員に覽賣し其代金發送の如き銀行郵便電信何れにても送荷者の希望に従ひ送附するを以て委託者の便や大なり加ふるに組合員の業務に勵精なる農會若しくは生産者に於いて繭の共同販賣を爲さんとするの時其の販賣豫定石數及び月日を同組合に通知せば同組合は如何なる遠隔の地と雖も組合員を出張せしめ販賣者の利便を醸すと云ふ又同組合の希望は遠隔の地にして生繭送荷困難なる場合は生繭百匁の量を凡そ六十匁乃至六十五匁に殺蛹乾燥し小包便にて送附せられんと欲すると繭乾燥の巧拙は製糸上至大の關係を有するものなれば賣買不便利の土地の人は北海道廳農務課より示されたる輕便乾燥器を裝置し適度の乾燥を欲するの是れ同組合が業務に忠實なる繭質を損せず賣買双方の利益を來さんとする意に外ならず加之ならず同組合は製絲



の統一を計る目的を以て製絲上優良と認むる蠶種を組合に於て選擇製造を委託し原價を以て配布するのみならず製絲工場に於て工女募集の際の如きは器械座繰何れにても希望者の希望に従ふ由なれば希望者の便大なるべし之を要するに同組合は薄利を専一とし一に製糸の聲價を保ち斯業に忠實ならんを期するものにして彼の新聞廣告を利用し徒に名聲を銜はんとする者等と日を同ふして談ずべきに非ず組合長は石澤泉太郎氏理事は湧井善松足立光藏郷田佐平南雲源太郎石川惣平の諸氏にして從來六十八釜を有し一柵九貫目とし四十二柵を製造したるも四十年より組合員を卅二名とし百二十餘釜と爲し八十柵以上の製造を爲す準備中なりと吾人は本道蠶絲組合界の爲め同組合の健全を祈るものなり。

◎丸中印今商店、瀧川商界の傑物として瀧川有數の人物として知らるゝ今百太郎氏の販賣店は本町通り五丁目あり氏は清酒醸造本店を字空知太に設け醸造銘酒多喜川今泉等の良酒を販賣し更に米穀農産物澱粉類雜貨荒物類を販賣し取引盛大業務隆盛瀧川有數の商店として知られつゝあり今氏は明治二十七年瀧川村後藤合名會社支店主張として出張したるの人卅三年同支店を譲り受け開業したるものにして其經營の巧なる次第に業務を擴張し現時清酒のみにて一ヶ年九百石以上を醸造し尙ほ且つ米穀農産物販賣に餘力を出し綽々として餘豫あるのみならず農産物澱粉委託問屋を小樽色内町八番地の要街に出して支店と爲す等其の計畫の大にして規模の廣き瀧川商界克く氏に比肩するもの少なし氏年齒不惑を越ゆる僅に四而して成効此の如きあり蓋し異數と云ふべきなり況んや力を公共事業に盡し瀧川

の發達に貢獻したる尠なからざるに於いて氏の如きは眞に文明的模範商人と可謂也。

◎吉田商店、瀧川全村を通じ澱粉販賣の尤も盛大なるを吉田商店と爲す蓋し同店は農産物販賣店として起ちつゝあるも澱粉を遠く東京横濱大坂京都名古屋の各要地に輸出し其の取引の盛大なる十二貫目一箱とし一ヶ年の輸出額四万箱に達するの一事抑も同店澱粉販賣の隆を察知し得べし店主吉田伊太郎氏は香川縣の人志を抱いて廿六年本道に航し各地を踏破し瀧川村の石狩北部の中央市場たるべき將來を相し廿七年居を瀧川に定め現業を開始してより次第に隆を來すと共に力を本道産澱粉の販賣に盡し屢々身親しく内地に出張して販路を擴張し遂に内地各要地殆んど輸出せざるなきの現在を來し澱粉商として管内有數の商家として知らるゝに到れり氏澱粉の品質鑑定に巧に氏商店販賣の澱粉其の品質の善良を以て噴々傳へらる隆盛今日あるもの蓋し偶然にあらざるなり。

◎進藤商店、瀧川村一の坂の本通りなる要街に居を占め醤油味噌醸造店として名あるを進藤商店と爲す店主進藤孝氏は山梨縣北巨摩郡小淵澤村の人少壯夙に斯業に身を委ね十三歳より二十五歳に至るまで十有餘年間信州上諏訪郡上諏訪町宮坂醤油酢味噌醸造店に於いて醸造術を研鑽し啓發する處少なからず卅六年瀧川に渡道すると共に現業を開始す氏已に醸造術に熟達する手腕あり従つて氏の醸造する不二山印松印竹印梅印の醤油は噴々として名聲を博し需用者多く又櫻印味噌甘味を以て好評を博し忽ちにして其の名を知らるゝに到れり氏益々匪勉更に桃製造を爲し又米穀販賣に従事して遂に現在の隆を來せり壯齡を以て此



の成効あり後に事を爲さんとするもの須らく氏に鑑みて可なり。

◎丸上星村上商店、同店は瀧川村廣小路十丁目にありて農産物米穀荒物雜貨商として名あり店主村上定省氏は伊豫の人明治十一年十一月を以て愛媛縣宇摩郡松柏村に生る氏幼にして數奇十一歳父に別れ十三歳にして又慈母に別る而かも家に一物なく三弟に尙ほ幼なるあり數奇困厄備に嘗め盡して困憊に泣く數年然れども氏が巍然たる志は之が爲に屈せず新天地に航し大飛躍を爲し人生到る處樂土ありを事實にせんを期し幼弟は之を親戚に托し僅に渡航賃のみを携へ慨然として本道に航し小樽に上陸す地や是れ未見の地人や是れ未知の人唯だ氏伯母の上川郡旭川に居住するを信じ辛ふじて行いて之を糾せば伯母歸國してあらず而して伯父又多く氏を顧みず困厄更に困厄を重ね殆んど前途を誤らんとせしのみならず伯父氏を農夫たらしめんとす而かも氏の志は商業界にあり厄困襲尋常人たらんには素志屈し空しく人の徳德に従はんも氏屹然として屈せず僅に伯父より五十錢を得て家を出で自ら身を處せんとし瀧川に出づ幸いにして今醸造店に見習ひ小僧として入る事を得たり時に明治卅年十一月たり斯くして氏の今醸造店に勤むるや勵精乘込秀で須臾にして氏が尋常の器にあらざるを知らしめたり幼少數奇困厄の間に素志を屈せざりし勇氣は堅忍となり自重となり勤儉となり辛勞七星霜にして獨立し得るの資を得たり即ち今商店を辭し卅八年十一月現住所に現業を開始し其匪勉其の奮勵遂に克く今日あるの隆を來せり噫數奇なる運命而して今日の隆運吾人は村上氏に感謝するものなり如何なる困厄不幸も素志を失はず匪勉自らを

處せば成効の彼岸にあるを氏に依りて教訓せられたればなり氏も又傑物なる哉。

◎岩田醫院、同院は瀧川村字二の阪にあり出張所を本通四丁目元大隊本部跡に設け名聲あり院長は岩田博士少壯志を刀圭界に寄せ學成りて本道に航し門を瀧川の地に張り次いで瀧川村醫となり現に其の職にありて地方衛生に盡瘁令聞を博しつゝあり、

◎明治病院、瀧川に於ける病院を問はゞ唯だ此の明治病院あるのみ院長は尾形碧氏夙に外科に長ずるを以て知らる明治十四年四月函館に醫術開業してより本道各地の病院長を歴任し卅七年六月瀧川に私立明治病院を開き以て現在に至り令聞空知管内に高し。

◎芳武林木店、開店月尙ほ淺きも芳武木材店は信用ある店舗として取引盛大なり店主新吾氏は肥後熊本の人廿三年屯田兵として瀧川に移住し其の材木店は卅九年三月に開きしもの別に建築受負業を營み信用高し。

◎山田商店、同店は瀧川村字空知通り南四丁目にあり米穀荒物業を營む店主徳太郎氏は秋田縣の人明治二十八年小樽に航し留る事一年翌廿八年瀧川に移住し現業を開きてより經營の妙着々信用を博し次第に家業の隆盛を來し以て現在あるの地位を爲せり。

◎杉本呉服商店、杉本呉服太物洋物古着商店は瀧川に於ける有名なる商店なり呉服太物類を求めんとせば之を同店に求めよ如何なる種類と雖も備はらざるはなく殊に廉價に販賣しつゝあるは顧客の一驚する處蓋し一意薄利を主とし顧客の利便を專一とすれば也。

◎丸越印細越金物店、瀧川村に於ける金物商の巨なる物を問はゞ何人も指を細越商店に屈



せざるはなし然り同店は金物商として空知管内北部に於ける隨一の商店なり基礎堅く取引廣きを以て如何なる金物と雖も備はらざるはなく名聲噴々たり店主細越政右衛門氏は廣島縣安藝郡の人夙に斯業に熟達す明治廿四年瀧川將來の發達を看破し居を同村に定め斯業を開いてより自來十有六年孜々として經營の衝に當り遂に瀧川隨一たるの名を博せり同店は又振替貯金口座に加入し番號參貳七七を有するを以て如何なる遠隔の地よりも購賣するを得至大なる利便を顧客に與へつゝあり。

◎金コ印淺生商店、同店は瀧川廣小路にありて靴馬具商として知らる店主淺生清吉氏は三重縣安濃郡の人明治十九年札幌に渡道し廿四年瀧川に移すると共に現業を開き勵精克く信用を博し殊に約束期日の正確なる同店の一特色として江湖に稱せられつゝあり。

◎山大越後屋松澤商店、越後屋松澤商店は米穀荒物雜貨店として瀧川村に名ある商店なり同店は販賣品を精選し品質の善良なるをのみ備へ一意薄利を主として顧客に接するを以て幾多同業者間に介在しなから信用嶄然として篤く稀有の繁榮を來しつゝあり店主松澤治郎吉氏は越後の人安政五年戊午十二月を以て南蒲原郡中之島村に生れ本道に渡航せしは明治卅年四月たり卅二年九月現所に現業を開いてより正直は最上の商略なりと云へる格言を固守し専心銳意顧客の利便を計り次第に信用を得て現時の隆盛を來せり。

◎岡本鋸製造販賣店、同店は瀧川に於ける鋸商の大なるものなり店主岡本仙太郎氏は高知縣の人明治二十九年本道に航し幾多の事業を試み遂に鋸製造業を開始したるもの氏の炯眼

本道森林に着眼し木材業前途の隆盛を看破したるに依る卅七年居を瀧川に定め盛んに業務を營み雨龍郡秩父別村一條通り二丁目鋸製造部を設け職工二十餘名を使役す氏製造の鋸堅牢善良なるを以て上川方面より室蘭方面より遠く俱知安方面に販賣され名聲あり別に土佐鎌の一切販賣を爲し何れも堅牢を以て知られ現在の隆を來せり。

◎鍼灸醫愛命堂、同堂は鍼灸の妙を以て瀧川地方に知られつゝあり堂主一木保次氏は福岡縣の人嘉永七年八月を以て久留米市に産る明治廿七年本道に航し居を瀧川筋違ひ通二丁目に定め鍼灸術を以て其の門を張る氏手術の妙と依頼者に對する親切とは忽ちにして名聲を博し年と共に隆を來し遂に今日あるに至れり。

◎丸太印渡邊商店、渡邊商店は材木及び建築受負業柱屋根板製造販賣店として知られ又傍ら金魚鯉魚等を飼養販賣するを以て名あり店主渡邊市太郎氏は山形縣の人明治廿五年瀧川兵村に移住し卅五年より現業を開始し次第に其の隆を來し任職人木挽等十有餘人を使役し將來益々發展せんを畫しつゝありと云ふ。

◎丸文印野瀬商店、瀬戸物類、茶類、和洋小間物類、和洋種物類、下駄類斯く幾多の營業を手廣く營みて有あるを野瀬商店と爲す同店は瀧川村廣小路五丁目にあり店主は野瀬文吉氏卅四年より現業を開き殊に種子類の品質善良精選され居るを以て知らる。

◎貝谷菓子舖、菓子掛物類の美味を以て鳴るを瀧川村五丁目貝谷菓子舖と爲す同舖主人は貝谷正三郎幼少より斯業に熟達し自ら製造に従事して黽勉せし結果今日の盛大を來したる



ものにしてカチカ印と云は、全村氏の菓子舗たるを知らざるものなし。

◎山印小西商店、海産商に兼ねるに荒物雜貨を以てして顧客の利便を來しつゝある小西商店は瀧川村本通り北三丁目にあり店主與三吉氏は石川縣江沼郡瀬越村の人明治十年小樽に航し廿九年居を瀧川に轉じ現業を開き價格の廉品質の良を以て名聲全村に知らる。

◎瀧川早達組、同組は瀧川停車場前にあり運送業者として早達組の名に背かず傍ら上川倉庫株式會社瀧川代理店を兼ね取扱ひ町噺を以て知らる店主相澤武治氏は山形縣の人明治二十二年本道に航して居を瀧川に定め運送業を營んで遂に今日の基礎を爲せり。

◎二葉醸造店、旭印醬油醸造元として瀧川に知らるを二葉醸造店と爲す店主二葉榮三郎氏夙に農業に成功し自家の收穫物を以て醬油味噌を醸造し販賣するを以て他に比し尤も廉價に而して品質の良なるを以て名聲高く遠近よりの顧客縋るが如き有様なり。

◎佐々木果實店、瀧川停車場に着する人は瀧川名物錦餅及び果物の呼び聲を爲す者を見ん佐々木商店は是等呼び賣人の本家なり餅の美味果物の精良流石は瀧川名物の名に背かず店主佐々木榮治氏は福山の入卅一年現業を開いてより遂に瀧川名物の名を博するに至れり。

◎犬飼商店、瀧川本町五丁目に於ける犬飼商店は靴及び馬具製造商として瀧川に於ける老舗なり明治二十九年居を瀧川に定め現業を開いてより其製品の堅牢と技術の巧を以て知られ年と共に繁榮し推して瀧川隨一と稱せらるゝの現在を來せり。

◎高井理髮店、高井理髮店は榮床と稱し瀧川に於ける老舗として名あり店主高井善七氏は

吳服太物商  
洋小間物下駄

空知郡瀧川市街地  
三 柿島商店

電話(カ)文(カ)カ

空知郡

内科  
外科  
明治病院

瀧川村

入院隨意

院長 尾形 碧



ものにしてカチカ印と云はい、全村氏の菓子舗たるを知らざるものなし。

◎山コ印小西商店、海産商に兼ねるに荒物雜貨を以てして顧客の利便を來しつゝある小西商店は瀧川村本通り北三丁目にあり店主與三吉氏は石川縣江沼郡瀬越村の人明治十年小樽に航し廿九年居を瀧川に轉じ現業を開き價格の廉品質の良を以て名聲全村に知らる。

◎瀧川早達組、同組は瀧川停車場前にあり運送業者として早達組の名に背かず傍ら上川倉庫株式會社瀧川代理店を兼ね取扱ひ町噺を以て知らる店主相澤武治氏は山形縣の人明治二十二年本道に航して居を瀧川に定め運送業を營んで遂に今日の基礎を爲せり。

◎二葉醸造店、旭印醬油醸造元として瀧川に知らるを二葉醸造店と爲す店主二葉榮三郎氏夙に農業に成功し自家の收穫物を以て醬油味噌を醸造し販賣するを以て他に比し尤も廉價に而して品質の良なるを以て名聲高く遠近よりの顧客纏るが如き有様なり。

◎佐々木果實店、瀧川停車場に着する人は瀧川名物錦餅及び果物の呼び聲を爲す者を見ん佐々木商店は是等呼び賣人の本家なり餅の美味果物の精良流石は瀧川名物の名に背かず店主佐々木榮治氏は福山の人卅一年現業を開いてより遂に瀧川名物の名を博するに至れり。

◎犬飼商店、瀧川本町五丁目に於ける犬飼商店は靴及び馬具製造商として瀧川に於ける老舗なり明治二十九年居を瀧川に定め現業を開いてより其製品の堅牢と技術の巧を以て知られ年と共に繁榮し推して瀧川隨一と稱せらるゝの現在を來せり。

◎高井理髮店、高井理髮店は榮床と稱し瀧川に於ける老舗として名あり店主高井善七氏は

# 吳服太物 洋小間物下駄商

## 三 柿島商店

空知郡瀧川市街地

電略(カ)又ハ(カキ)

# 内科 外科 明治病院

空知郡

瀧川村

## ●入院隨意

院長 尾形 碧



旭印醬油  
味噌釀造  
販賣

瀧川兵村東二丁目

二葉榮二郎

理髮師

瀧川村

榮床 高井善七

材木通り北三丁目

各線鐵道  
貨販取扱

①上川倉庫株式會社代理店

瀧川村停車場前

早達組

相澤武治

錦餅  
林檎

瀧川

佐々木商店

停車場前

其他水菓子類

海產

空知郡瀧川

荒物 今小西商店

電略(ヤマコ)又(ハコ)

雜貨

馬具

空知郡

靴製 類造 子清生商店

瀧川廣小路

販賣

菓子

空知郡

掛物 力貝谷商店

瀧川五丁目

卸小賣

●茶●紙●筆墨●瀨戶物

●和洋小間物●下駄類

●和洋種物 各種

瀧川村廣小路

野瀨商店

電略(ノセ)



和洋御料理

櫻壽司

仕出し

並

植物花園

櫻壽司事

花王園

澁川本町北三丁目

和洋

空知郡

御料理

全万字家

仕出し

澁川

吳服太物

澁川村廣小路

洋反物

尖杉本商店

古着類

電略(スキ)又ハ(ス)

木材販賣

空知郡

芳武新吾

建築請負

澁川村番外地

荒物生魚

吳服太物

金物瀬戸物

日用品各種

寄更澤米吉

空知江部乙市街地

電略(ラケ)



吳服太物  
米穀荒物  
清酒生魚  
各國藥種  
各種肥料  
其他雜貨

カ

石丸由五郎

空知郡江部乙市街地

電信略號(イシ〇)又(ハイ)

空知郡江部乙

山崎醫院

院主 山崎司城

農產商  
木材

空知郡江部乙市街地

余芦田末三郎

電略(ア)



和洋御料理  
仕出し  
壽し  
辨當  
きば  
うとろん

濰川

惠比壽屋

停車場前

内科  
外科

濰川

岩田醫院

一ノ坂

院主 岩田 博

出張所  
本通り四丁目  
元大塚本部跡

御料理  
仕出し  
きそぼ

濰川

一力亭

材木通り

諸靴  
馬具  
製造販賣

空知郡濰川

舎犬飼商店

米雜穀  
肥料食鹽  
商

雨龍郡深川

黒田商店

電略(シロ)又(ハシ)

米穀  
荒産物  
陸産物  
賣買

雨龍郡深川

大北田三之助

電略(キタ)



米穀荒物

生繭カンソ才所

雨龍郡妹脊牛村

今山本商店

電略(ヤマヨ)

陸海貨物取扱

●札幌倉庫株式會社代理店

●鐵道貨物運送株式會社代理店

雨龍郡妹脊牛村

木村運送店

雜穀專業

商



號

米穀肥料

石狩國雨龍郡妹脊牛

魚谷彌一郎商店

電信略號(〇ヤ)

石狩國雨龍郡雨龍橋詰

魚谷彌一郎支店

電信略號(〇ノ)



春蠶種  
秋蠶種  
風穴蠶種  
桑苗各種

製造販賣

石狩國雨龍郡深川村

佐藤柅太郎

餛飩

素麵

製造

販賣

雨龍郡深川

河野製麵所

電略(コノ)又ハ(コ)

陸海  
貨物取扱



古田運送店

雨龍郡妹脊牛停車場前

電略(ヨシ)又ハ(ヨ)

●北海道早達組代理店

●上川倉庫株式會社代理店

●丸福合資會社代理店

●内國通運會社代理店

●札幌共同運送組代理店

●共立栗山組代理店

●早達組代理店



內科  
外科

雨龍郡妹脊牛停車場通

妹脊牛醫院

院長 山田忠常

和洋馬具  
靴製造 販賣

石狩國雨龍郡妹脊牛

芝崎丈助

天鹽國上川郡風蓮

芝崎支店

和洋御料理

仕出 志

雨龍郡妹脊牛市街地

藤 喜樂亭

待合所

旅人宿

業

雨脊郡妹脊牛停車場雨

力高橋君太郎

和洋菓子

製造卸小賣

商

雨龍郡妹脊牛村

廣瀨福太郎

和洋菓子

製造卸小賣

盛柳澤源治郎

雨龍郡妹脊牛村



美術寫真業

雨龍郡深川本町七丁目

深盛寫真館

小泉義範

期日速成

いなか

まんぢう

四季果物

洋たばこ

深川停車場前

和待合所

木崎金二

陸海取扱 谷口運送店

石狩國雨龍郡深川停車場前

- 内國通運株式會社取引店
- 早達組代理店
- 栗山組代理店
- 上川倉庫株式會社代理店
- 北都組代理店

- 運送株式會社代理店
  - 運送組代理店
  - 札幌倉庫代理店
  - 丸福合資會社代理店
  - 日本海上運送保險會社代理店
- 并ニ各新聞賣捌取次所

電略(タニ)又(ハ)ク



美術寫真業

雨龍郡深川本町七丁目

深盛寫真館

小泉義範

期日速成

いなか

まんぢう

四季果物

洋たばこ

深川停車場前

木待合所

木崎金二

陸海取扱 谷口運送店

石狩國雨龍郡深川停車場前

電略(タニ)又(ハ)タ

- 内國通運株式會社取引店 ●早達組代理店 ●栗山組代理店
  - 上川倉庫株式會社代理店 ●北都組代理店
  - 運送株式會社代理店 ●運送組代理店 ●札幌倉庫代理店
  - 丸福合資會社代理店 ●日本海上運送保險會社代理店
- 并ニ各新聞賣捌取次所



# 鐵道貨物取扱

栗山組代理店  
運送組代理店  
運送株式會社代理店  
丸福組代理店  
札幌倉庫運送部代理店

瀧川驛停車場前

## 高畑運送店

電畧(タカ)又マ

材木販賣  
建築請負  
板販賣

並ニ  
鯉金魚養成販賣ス

## 渡邊商店

空知郡  
瀧川一ノ坂

眞

# 販賣品概畧

和洋酒罐詰四季果實乾物漬物海陸物  
産乾糧魚食糧荒物雜貨農産種物農具  
穀通し一式  
曲物カ鉢桶類茶傘油紙合羽和洋紙煙  
草洋燈石鹼香油魚釣具麻糸細莖叭草  
履草鞋片栗類コンニヤク粉  
総ラ卸マ小賣

## 大越後屋 松澤商店

瀧川本町五丁目  
電信略號「二五ヤ」

### 特約販賣品

北海製網會社白絞油  
北海製麻會社製網モノ七類  
庄内大山路酒清正  
旭川(井)今井醬油旭川(井)内味噌

簿

利

童

實

價

眞

勉

強

欺

- 漆器●瀬戸物●茶
- 諸帳簿●和洋紙
- 學校用品各種
- 諸新聞大賣捌所

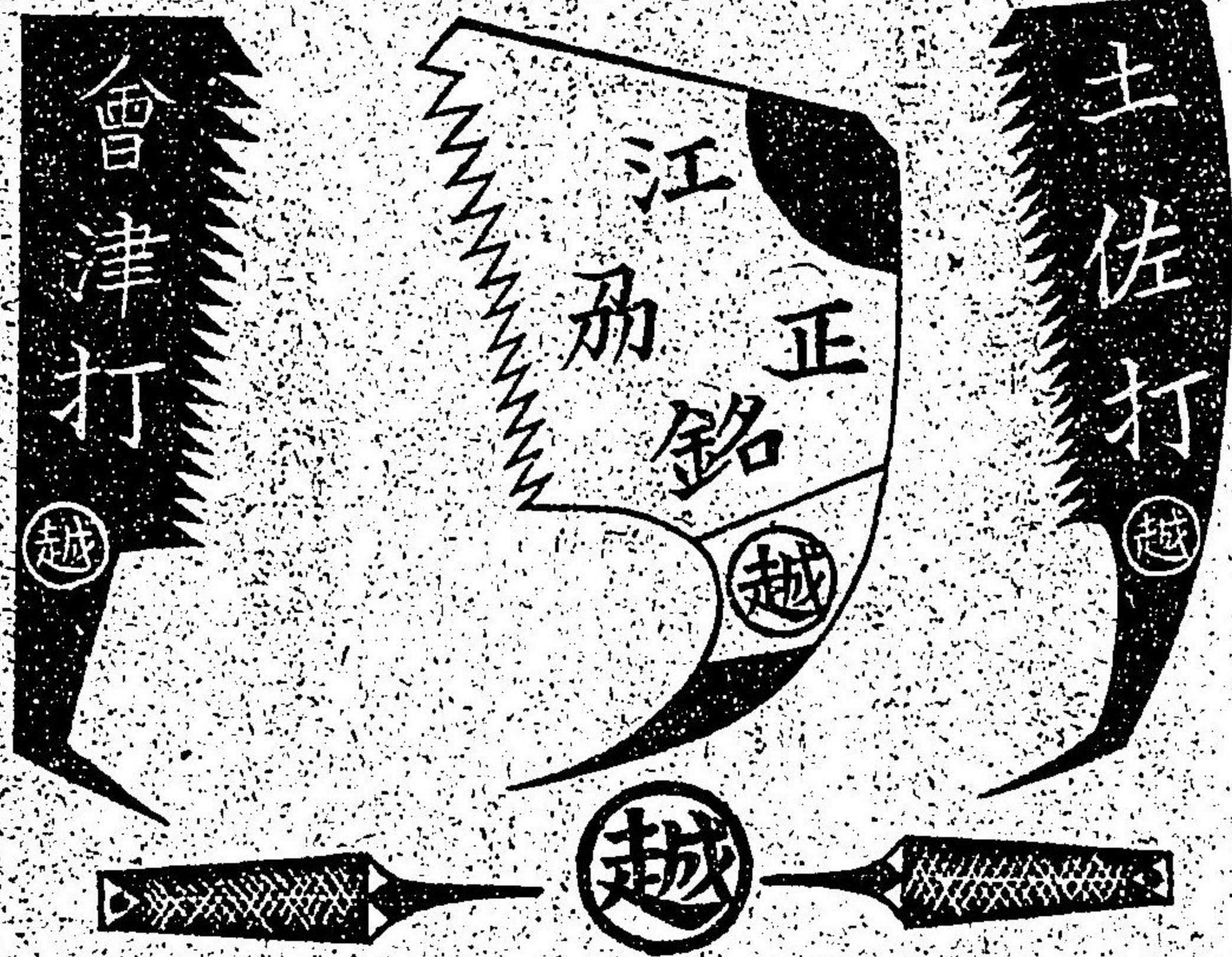
瀧川本町四丁目

## 三條屋村山商店

電略(ムラ)又ハ(ム)



諸國鋸鑪問屋



空知郡瀧川本町

細越商店

電話號(タキマ)又ハ(マ)  
振替貯金口座番號參貳七七

旭川一條通八丁目

細越支店

電話〇コシ

灸

◎ゆだんすな病は人のかたきなり

◎肺病	諸病根切灸	しき	◎
◎病	特効胃	リンピヨ	
◎脹	しんげい脳病	シヨカチ	
◎満	ちうかかん	小兒	
◎患	中風眼病	むかしん	
◎者	たんぜんそく	重症も一回にて	
◎キ	はなじかこり	なをる	
◎ク	痔下けつ	施術料	
◎レ	リウマサス	大人廿錢	
◎ヨ	はのいたみ	小人十錢	
	かしのけ	石狩國空知郡	
	ちのけ	瀧川番外地	
	ちのふれ	一木保次	
	つちのふ		

治

◎このなんの人の○いら



土佐會津鋸各種  
製造販賣

瀧川本町三丁目  
製鋸販賣部

全町三丁目  
鋸製造部



和洋御料理

會席仕出し

澁川本町三丁目

△朝日庵

澁川本町三丁目

劇場蛭子座主

藤田才市

和洋御料理

仕出し

さるば



澁川村明神通り

叶明進樓

醬油醸造

別製 翁印

松印

竹印

梅印

● 糶製造

● 味噌醸造櫻印

米穀 販賣

空知郡澁川村

可進藤醸造

大通り一ノ坂



農 産

片 栗 粉

空知郡瀧川本町一丁目

吉田伊太郎

電略(ヨシタ)又ハ(ヨ)

富山縣の人幼少より斯業を研鑽し明治廿八年札幌に渡道し卅年瀧川に轉じ斯業を開始してより其技術の巧と顧客に對し懇切を極むるとは遂に今日の聲名を博するに到れり。

◎金△印朝日庵、旭輝く朝日庵抑も吾れはと名乗りを揚げずとも瀧川に朝日庵ありと粹様何れも先刻御承知なれば野暮な筆者の云はずともなれと同庵調理の和洋料理の甘さ加減と來たら蓋し瀧川隨一田舎にも此の江戸式の板前へありとは恐れ入つた者なり庵主藤田才平氏は越前の人廿五年渡道するや直に瀧川に現業を開きて庵名を斯界に知られ又劇場蛭子座の所有主として知られつゝあり蛭子座は固と町内の有志株式を以て明治廿六年に建築したる劇場なりしも卅八年遂に藤田氏の有に歸せり氏や朝日庵を經營するの傍ら更に蛭子座存主の衝に當り同座の名をして高からしむる物如何に氏が手腕の人たるかを知るに足らん。

◎旗亭明進樓、西洋料理の美味と日本料理の調理よろしきのみか簡便に藝者の顔も見れると云ふ餘り懐中合ひの充分ならぬ時にも面白く遊へると云ふか呼び物となつて明進樓の繁昌さ加減蓋し樓主の思ひつきが好い爲めなり誰れも彼れも有り餘つた金で遊ぶものでなければ御安直が何よりの手段なり樓内小金濱子島吉など呼ぶ一騎當分の剛の物の控ゆるありろばなんばんが何んぞて一寸と嬌聲を聞かんとするものは足を白樓に向けるべし其の安直で面白い事筆者キツト受け合ひ申す。

◎一力亭、一寸と御手輕にパイ一杯きこし召すには此の亭に限ると噂さるゝも道理御手輕料理にろばやを兼ね廉價を專一として諸事客の意にまかす處輕便此の上もなく開業以來其



農 産

片 栗 粉

空知郡滝川本町二丁目

吉田伊太郎

電話(ヨシマ)又(一三)

富山縣の人幼少より斯業を研鑽し明治廿八年札幌に渡道し卅年滝川に轉じ斯業を開始してより其技術の巧と顧客に對し懇切を極むるとは遂に今日の聲名を博するに到れり。

◎金△印朝日庵、旭輝く朝日庵抑も吾れはと名乗りを揚げずとも滝川に朝日庵ありと粹様何れも先刻御承知なれば野暮な筆者の云はずともなれと同庵調理の和洋料理の甘さ加減と來たら蓋し滝川隨一田舎にも此の江戸式の板前へありとは恐れ入つた者なり庵主藤田才平氏は越前の人廿五年渡道するや直に滝川に現業を開きて庵名を斯界に知られ又劇場蛭子座の所有主として知られつゝあり蛭子座は固と町内の有志株式を以て明治廿六年に建築したる劇場なりしも卅八年遂に藤田氏の有に歸せり氏や朝日庵を經營するの傍ら更に蛭子座存主の衝に當り同座の名をして高からしむる物如何に氏が手腕の人たるかを知るに足らん。

◎旗亭明進樓、西洋料理の美味と日本料理の調理よろしきのみか簡便に藝者の顔も見れると云ふ餘り懐中合ひの充分ならぬ時にも面白く遊へると云ふか呼び物となつて明進樓の繁昌さ加減蓋し樓主の思ひつきが好い爲めなり誰れも彼れも有り餘つた金で遊ぶものでなければ御安直が何よりの手段なり樓内小金濱子島吉なんと呼ぶ一騎當分の剛の物の控ゆるありろばなんばんが何んぞて一寸と嬌聲を聞かんとするものは足を白樓に向けるべし其の安直で面白い事筆者キツト受け合ひ申す。

◎一方亭、一寸と御手輕にハイ一杯きこし召すには此の亭に限ると噂さるゝも道理御手輕料理にうばやを兼ね廉價を專一として諸事客の意にまかす處輕便此の上もなく開業以來其



の名を知らるゝもの樓主熊崎徳重氏經營の巧みなるに因るものと知るべし。

◎惠比壽屋待合所、瀧川停車場幾多待合所中尤も名ある待合を惠比壽屋と爲す同所は從來叶屋と稱せしを卅九年十月より廣部彌助氏之を譲り受け惠比壽屋と改稱せし物にして和洋料理壽し辨當仕出しさうばうどんの美味善良を以て名を博しつゝあり。

◎猿蓑料理店、和洋御料理櫻壽しと銘打つたる看板からして何んとなく風流のいたるも其の等料理店の傍ら植木草花商をも兼ねるが猿蓑料亭の特色目を樂ましめにも樂ましむるとはナト贅澤の様なれど此の一舉兩得の樂を得んとは同料亭に限るとか進め申す者なり。

◎旗亭万字家、如才内儀の愛嬌が呼び物と爲つてひいきの客万家巴と雪の降る程多いとは結構の事なりそれで万字家だとはナト詮素が過ぎる様なれど兎に角千客万來の繁昌に家業隆盛とは開業日尙は淺きにも拘らず客の意をそらさぬ女將の働さなるべし。

瀧川村字江部乙

瀧川村字江部乙は瀧川村の北東に位し瀧川市街地を去る二里餘地味肥沃にして尤も農耕に適し明治廿九年屯田豫定地と決せられ同年四月四百四十戸の屯田兵移住してより開拓の實漸やく其端緒を得次いで上川鐵道開通さるゝに當り停車場を設置せられてより運輸交通の便至便に年と共に發達し今や停車場を中央として五六十戸の商家相ひ隣次し市街地の觀を爲せり今同地に於ける重なる商家其他を紹介すれば左の如し。



瀧川村

空知郡江部乙市街地 小杉商店

吳服太物  
米穀荒物  
各種肥料  
其他雜貨

空知郡江部乙市街地

◎ 小杉善之助

電略(コスキ)又ハ(コ)



◎丸ヨ印小杉商店、米穀荒物雜貨販賣に兼ぬるに吳服太物類を以てし更に各種肥料を販賣し其取引の大其業務の隆推して江部乙第一と稱せらるゝを丸ヨ印小杉商店と爲す店主小杉善之助氏は江州の人明治三年を以て同國神崎郡北五ヶ莊村字小幡に生る少壯夙に四海に志あり所謂近江商人たる真髓を延へて名を爲し産を興さん欲し眼を北海の新天地に濺き飛躍を畫し同國の巨商石橋産三郎氏の本道小樽の地に一大醬油店を經營し名聲あるを知り同氏を力として本道小樽に上陸し同店に入る時に明治二十七年たり自來氏は同店に見習ひ奉公を爲し諸般の商機を見習ひ實驗を積む五星霜氏となり勤勉にして克己心に富み又極めて堅忍にして自重の概あり石橋氏深く氏の性格を愛し氏をして獨立せしめんが爲めに幾多の盡力を爲し卅一年現住地に獨立して現業を營ましむ氏深く之を徳とし家號を丸ヨと稱し長く其の好意を忘却せざらん料とす蓋し石橋氏丸ヨを家號とし丸ヨ醬油の名江湖に噴々たればなり斯くして小杉氏一度獨立するや一意貫直誠實を旨とし賣品は品質の善良なるを精選し而して價格は勉強廉價を主とせしかは顧客忽ち其の利便に浴し來つて物品を氏商店に求め暮年ならずして信用江湖に高く名聲老舗を厭して江部乙第一の商店たる礎を爲せり氏愈々銳意奮勵し苦心經營の功を進め焦慮業務を擴張し十年の星霜米穀荒物業に吳服太物業に着々成効し更に各種肥料販賣を爲すのみならず力を公共事業に盡し推されて村會議員となり業務の隆に添ゆるに徳望を以てし江部乙兵村氏の名を知らざるなき現在を來せり氏年齒尙は壯而して此の成効あり前途の隆眞に測り知るべからざるなり。

◎石丸商店、石丸商店は吳服太物米穀荒物清酒各國雜種生魚其他雜貨類を販賣し江部乙兵村草分けの老舗として知らるゝのみならず賣品の善良なるを以て名聲を馳せ取引の確實なるを以て信用高し店主石丸由五郎氏に山口縣の人慶應元年を以て同縣下周防國佐波郡中山村に生る明治二十五年本道に航し空知郡瀧川村に移住して荒物商店を開き兼ぬるに農産物賣買を以てす二十七年江部乙の地屯由兵移住し來り開拓の實漸やく端緒を開かんとせしも如何せん地僻にして未だ移住屯田兵に日用品を供需すべき商店あるなし瀧川屯田大隊本部深く之を愛へ即ち氏として江部乙に移住し商店を開かしむ氏命に應し二十七年江部乙に轉住す當時此の如き事情よりして氏の移住を見しかは商店として存するもの只た氏商店のあるのみ而かも氏の誠實なる之が爲に奇利を博するなく一意正直を旨とし顧客の需用に應せしかは暮年ならずして氏は名聲を馳はれ信用高く自來十有餘年の經營年々隆盛を來すのみにして本店は十三丁目支店を十五丁目設くる現時の隆を來し江部乙第一の老舗として何人も知らざるなきに到れり堅忍今日の成効あるに於て石丸氏も又尋常人士に非ざる也。

◎金吉印更澤商店、江部乙兵村幾多商店ありと雖も徒手空拳より身を挺し幾多の辛酸に耐へ困難に忍び零細の資を積んで遂に今日の願境を來したるに於いて更澤店主更澤米吉氏に比肩し得るもの少なからんなり然り更澤氏今日成効の跡を叙せんか殆んど一冊の立志篇を爲すを得んなり而かも氏の謙讓なる毫も之を語らざるに於いて其の一般を記さんか氏文久三年六月を以て鳥取縣東伯郡東郷村字久見村に生る明治卅年二月空知郡奈井江に渡航し



居を同地に定め徹々たる生魚行商を開始し更に瀧川村に轉住し豆腐業を兼ねて生魚を行商す而かも得る處なし去つて北見國利尻に航し幾多の辛慘に耐へ焦慮苦心し零細の資を貯へ更に又現住地江部乙に轉し生魚行商に兼ねるに豆腐賣を以てし卅三年五月漸やく現業たる吳服太物類金物類瀬戸物類其他雜貨販賣に兼ねるに生魚を以てする商店を創立し自來の勵精次第に順境を來し遂に今日の盛大を招致したるものにして氏の堅忍眞に特筆すべきなり然れども此の間克く内助の難に耐へ氏をして今日あらしめたる令闔の功勞偉大なるを没却すべからず夫妻相敬し相援けて今日あるに於いて双對の美談と云はざる可らず。

◎山崎醫院、山崎醫院は村醫たる山崎司城氏の主宰する處にして診察の妙と患者に對する親切とを以て江部乙住氏の信頼を來し令名噴々たり山崎氏は三重縣山田の人夙に刀圭界に名を爲さんを期し少壯學卒るや大坂興醫會に學を磨き更に東都に出で有名なる佐藤博士の順天堂病院並に櫻村博士の山龍堂病院に於いて實地の經驗を爲し明治卅四年本道に航し江部乙に居を下して門戸を張り今日に到りたる者にして江部乙幾百の住民枕を高ふして業を勵むもの氏の手腕に信頼する處あるか爲めなりと云ふ偉なる哉。

◎芦田商店、米穀農産販賣を主とし兼ねるに木材業を以てし山太印と云は、江部乙兵村其の芦田商店たるを知らざるものなし店主芦田末三郎氏八ヶ年の苦心勵精此の名聲を來したるものなり氏明治九年美作國眞庭郡天津村に生れ廿七年本道に航し江部乙兵村に居を定め卅三年現業を開いて今日を來したるものにして其業務に勵精なる商機を算するに巧なる願

客に接する懇切なる衆庶氏を目して商人の模範と爲す年壯此の成效を來す芦田氏も又偉なりと云はざる可らず。

音江村

音江村は元と瀧川村附屬の一部分に過ぎざりしも漸次住民の増加と戸數の増加とに連れ明治三十二年分離獨立し同年七月音江村と名稱し戸長役場を設けらる地勢東北は川上郡に界し西南瀧川村と相隣し石狩川を狭む深川村一巳村と相對す延長七里幅長二里東南一帯は山岳連續するも中間は平坦にして地味肥沃尤も農耕に適す戸數六百二十餘戸人口は三千餘人戸長役場制度の下にありと雖も村民克く親睦し一般農耕に努力しつゝあり。

深川村

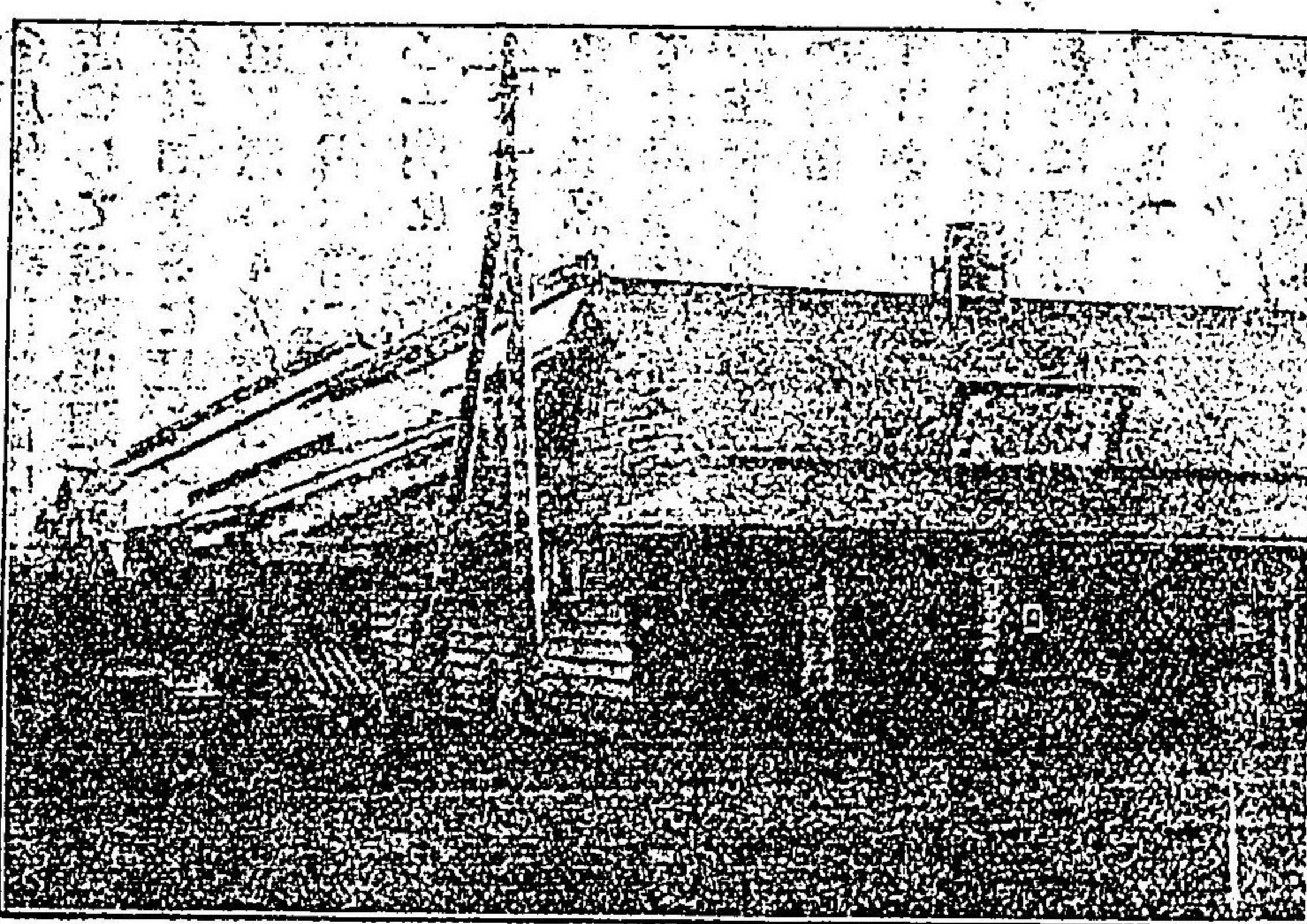
深川村は雨龍郡に於ける大農村にして戸數一千四百餘戸人口六千四百餘人妹脊牛深川兩市街地を抱轄し空知管内北部の重鎮たり由來雨龍郡は開發比較的遅く其の實測に着手せしは明治十九年たりしなり明治廿二年三條公爵蜂須賀侯爵菊亭侯爵等組合を組織し雨龍原野を選み一大農場を經營し依て以て大農組織の範を示さんるを期し組合華族農場を起し雨龍郡全部約一億五千万坪の貸下を受け事務所を現今の雨龍村に置き農學士町村金彌氏を場長に任命し直接其の衝に當らしめ農法は萬事はれを米國式に則り農具牛馬都て之を米國より購入し全然大農的を以て經營せられ諸般の施設見るべきものあり將に一部の成功を見んとする際廿四年不幸にして三條公の物故せられてより俄然頓挫を來し場長の更迭となり萬事悲



観的に流れて豫期の計畫を遂行する能はず偶々政府雨龍郡に屯田兵を移すの議決せしかば廿六年斷然組合農場を解散し蜂須賀菊亭兩侯大谷伯戸田子爵等各々其一部分を分割獨立經營する處に決し同村に雨龍郡の北端に北龍村を設置し本願寺農場其大部分を占め他移民を合して一村を組織し當地に深川村なる村名を附し小字妹脊牛一已納内秩父別ポロカナイを合して一村を爲せり内一已納内秩父別に屯田兵制を布き明治廿七年八年の兩年を以て屯田兵を移住せしめられたり而して他メム、妹脊牛、及び一已の一部分は菊亭侯爵農場の分割經營する處となり一般移民を招致して開墾せしめしかば陸續移民の來るあり屯田兵の移住する等侵々たる發達は忽ち市街地の必要を來し現深川市街地は實に其の當時建設せられたるなり明治卅年空知太より旭川に通ずる鐵道完成し交通の便更に一層を加へ同時に妹脊牛に市街地を區劃して商家の移住を歓迎し自來移民の移住する者陸續として絶えず闔村の發達日に月に進み卅五年四月二級町村制を施かれ翌卅六年深川村より一已以北の地及び納内を割きて一已村を置き秩父別を獨立せしめて一村を爲し殘部を深川村に於いて管轄し依て以て町村の進歩を計り遂に現時の深川村を爲せり今各市街地に於ける重なる商家を紹介すれば左の如し。

深川村

百六十八



深川村

店商繁辰村川深

米 雜 穀  
肥 料 商

雨龍郡深川  
**廣 辰 繁 商 店**

電略(タツ)又(タ)

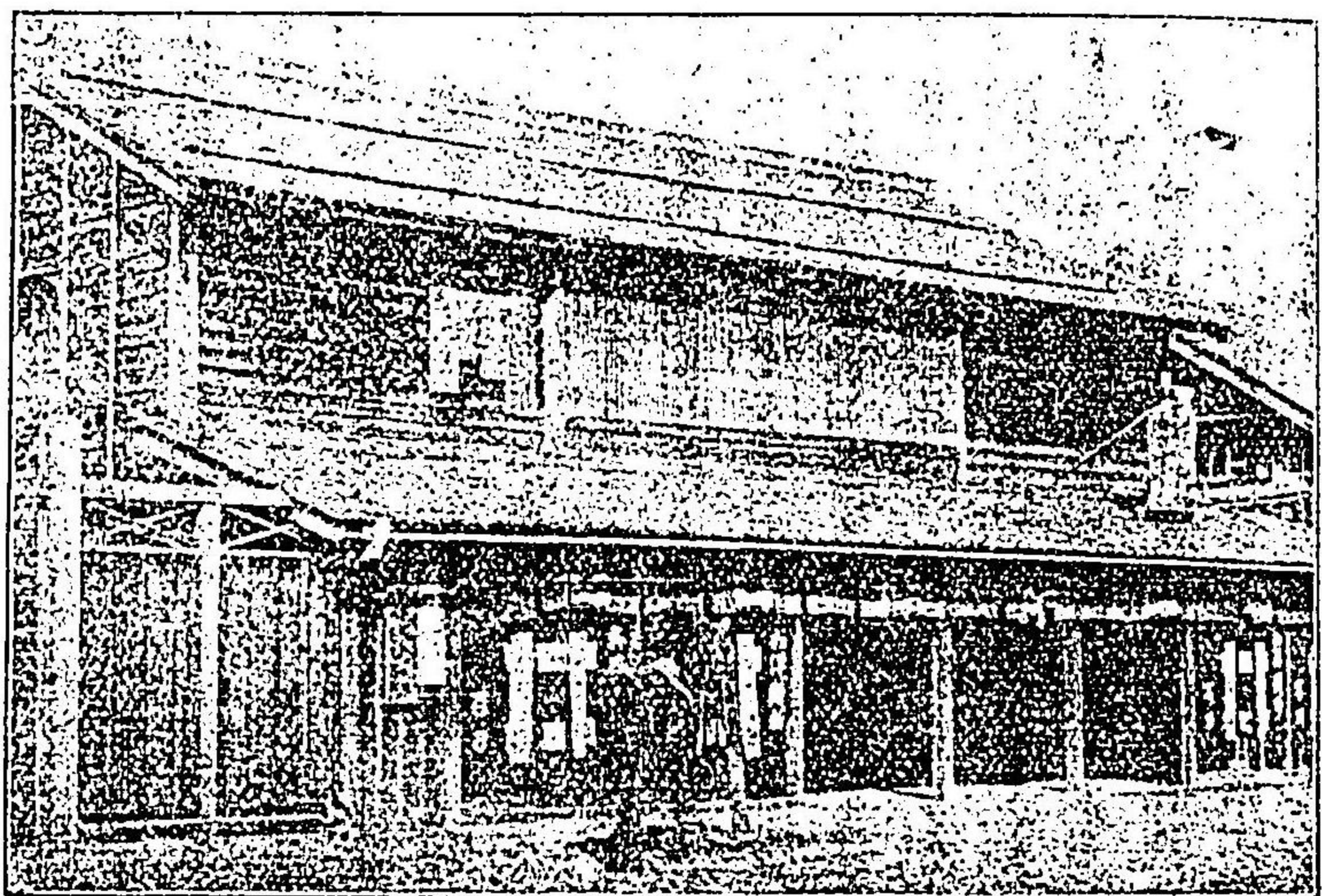
百六十九



◎辰繁雜穀肥料商店、辰繁商店は米雜穀肥料販賣店として深川市街地に名を知られたる商店にして雜穀出廻り當時に於いては購買高雨龍全郡第一と稱せらるゝの一事同店營業の隆を推知するに足るべし店主助市氏は廣島縣豐田郡戸野村の人家世々商を以て立つ氏夙に本道に意あり先航者の勸誘に應じ明治十八年渡道し根室に居を定めて雜貨荒物業を營む經營五星霜次第に業務の隆を來し素志漸やく達せんとするの時不幸祝融の災に見舞れ多年の苦心一朝にして烏有に歸し中止の止むなきに到れり氏乃ち意を決して函館に出で海産仲買を爲す一ヶ年なりしも數奇尙ほ去らず不幸にして又失敗を來し殆んど策の出づべきなし然れども堅忍なる氏毫も屈せず更に小樽に出で札幌に來り諸般の狀況を査し空知郡瀧川に住して木材業を開き傍ら農産物販賣に従事し辛苦困憊に耐ゆる三星霜時偶々雨龍郡に屯田兵を移住せしめ一般移民又陸續移住するあり而かも日用品販賣店の存するなし爛眼なる氏何をか躊躇せん直に深川市街地將來の發達を相し決然移住を斷行す時に明治廿八年にして般賑今日を爲す深川市街地も當時氏を合して僅に數戸に過ぎざりしと云ふ自來雨龍原野の開發に伴ひ雜穀賣買に従事し氏の勵精は茲に始めて幸運を開き經營畫策一も過たず着々効を奏し遂に現時の隆大とを來し深川農村産出の雜穀其の大半は同店の手に因りて輸出さるゝの現況を來せり氏や幾多の困難辛苦に耐へ遂に今日の成效を博し得たるも毫も其功に誇るの色なく孜孜として餘力を公共事業に盡し其の徳望は氏をして村會議員たらしめ現に其の職にあり氏の如きは眞に商界の模範的人物と云ふべきなり。

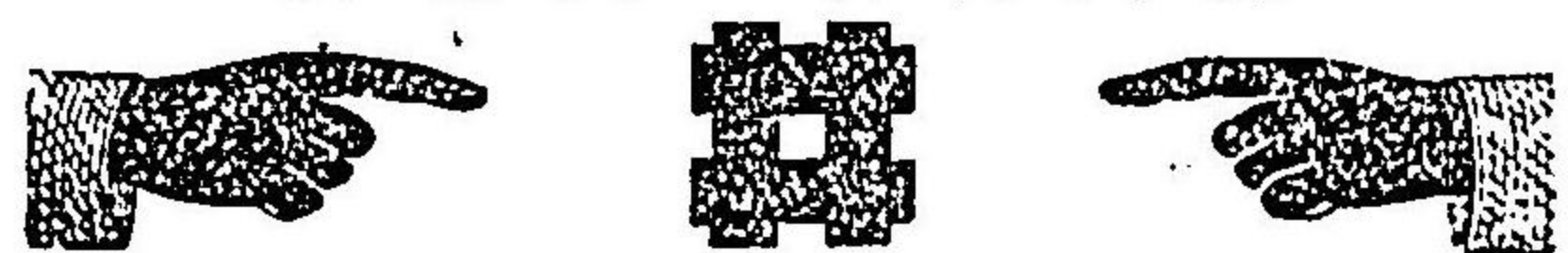
深川村

百七十



深川村

深川村石田吳服店



吳服太物、洋織物  
御誂仕立物調進  
洋小間物、洋傘  
和煙草

御用伺

和洋酒罐詰各種  
和洋紙筆墨類  
御誂印袴天、手拭  
御印入風呂敷類

石狩國雨龍郡深川市街地

石田商店

石田勇次郎

電話 略號 (ニ井)

百七十一



◎石田吳服店、石田商店は深川市街地に於ける吳服商の大買なり店主石田勇次郎氏は越後南蒲原郡今町の人夙に本道の開發に眼を濺ぎ志を商業經營に抱き明治十九年札幌に移住し廿一年石田洋物店の新設せらるゝや分家として同店を主宰し業務の隆洵に見るに足る成績を來せしも卅五年に於る有名なる札幌の大火に當り不幸類焼し多年の辛勞一朝烏有に歸す堅忍なる石田氏毫も之が爲に挫折せず更に勇を鼓し薄資を提げ小樽に出で徐ろに機を熟するを窺ひつゝ古着商を營む薄資固より發展を期すべからず偶々雨龍原野に屯田兵移住の舉あり一般移民又踵を接して移住する趨勢を見炯眼なる氏何をか躊躇せん直に立つて雨龍全郡を視察す時に明治廿八年たり氏深川市街地將來の發達を卜して移住に決し卅年一家を携へて深川に轉し吳服太物業を開始す當時資の未だ充分ならざるあり加ふるに或る特種の方面より甚たしき迫害を受け營業の困難なる始んと言語に絶するものありしも堅忍豪氣なる氏之が爲に屈せず益々勇氣を鼓舞し曰く觸れざる可らざるの雨は如何に激甚なるも觸れざる可らず踏まざる可らざるの燒角は痛苦堪へ難きも踏まざる可らずと斯くして不撓不屈の精神以て事に當り勵精勸勉以て業務を見困憊に堪へ難きに忍び一意薄利を主とし顧客の利便を計りしかば名聲次第に高く年と共に信用を博し遂に深川市街地に於ける大買として知らるゝの現時に及べり吾人は石田氏成効の跡を査し其の堅忍不拔の意氣に嘆服すると共に彼の薄志弱行の徒が氏に鑑みて悟る處あらんを勸告するものなり噫石田氏頓挫に屈せず迫害に屈せず十年の星霜遂に今日を來す氏や眞に是れ立志篇中の人物と云ふべき也。



深川村堀江頼信

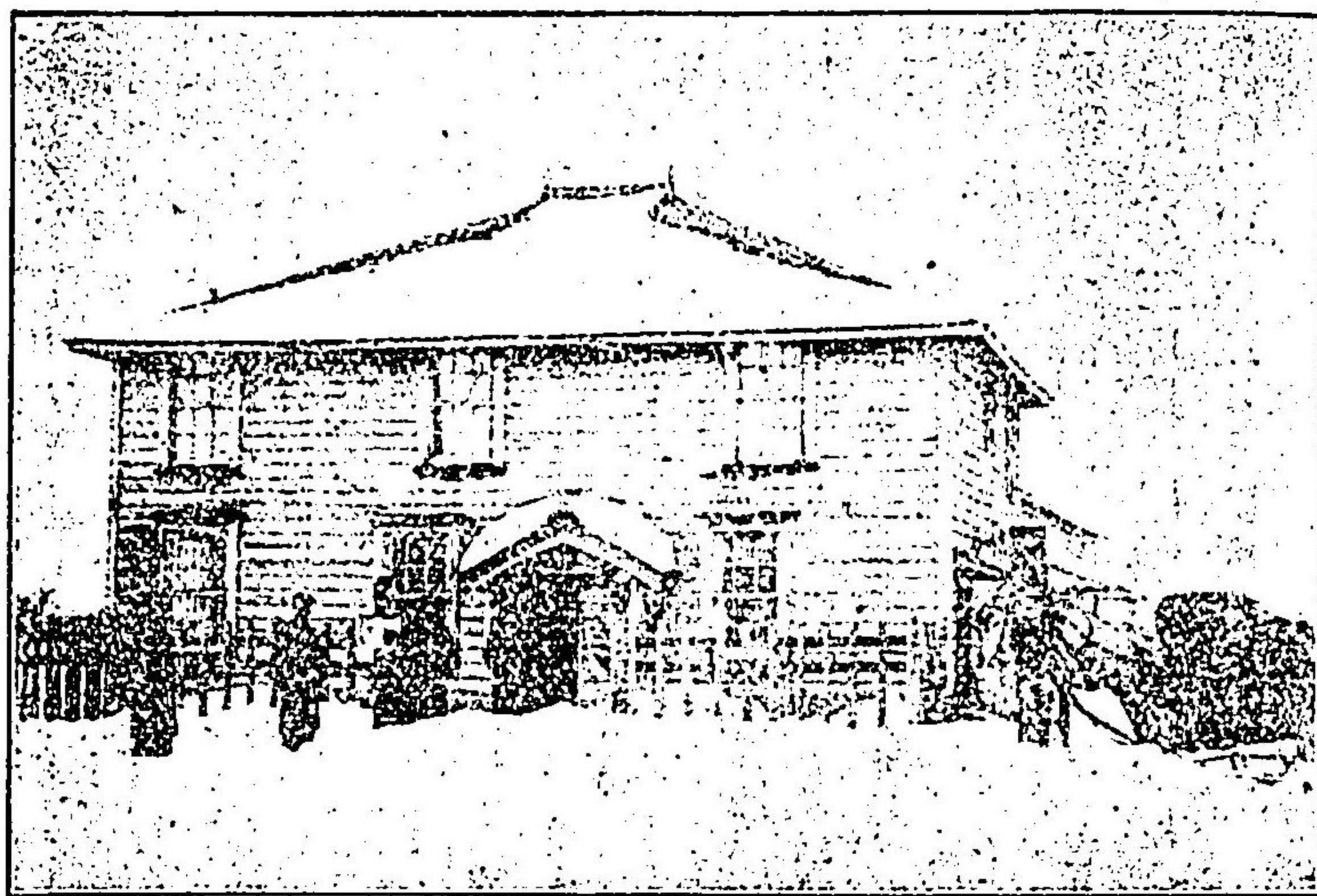


◎深川醫院、深川市街地渡邊診療院と相ひ併稱せられて名聲噴々たるを深川醫院と爲す院長は堀江頼信氏讃州九龜藩奉行堀江權左衛門氏の三男なり夙に身を刀圭界に投し濟民の偉業に名を爲さんを得し少壯醫學を松山の醫學に修め業卒ゆるの後更に笈を東都に負ひ各科専門の大家に就き日夜研讀を怠らざる數星霜業益々進み學愈々深きに達して職を陸軍々醫に奉し日清の役軍に従ひて遼東の野臺灣の燒煙蠻雨裏親しく醫療に従事し日露の國交破ぶる、に當り又軍に従ひ旅順の要塞戰に奉天の會戰に彈雨を犯して治療に従ひ累進一等軍醫の榮職を拜せしも平和克復と共に職を辭し居を雨龍の野に卜して業を深川醫院に創し氏親しく患者に接し内外科診察に従事せらる氏已に此の如き經歷あり而して年齒不惑を越ゆる將さに二是れ尤も醫家として手腕を發揮し得るの時其の起死回生の診斷は大に深川住民の信頼を來し門前來り診を乞ふもの織るか如く盛況比なしと云ふ。

◎黒田商店、同店は米穀肥料食鹽販賣店として開業久しからざるも名聲噴々として知らるる商店なり店主黒田喜私造氏は讃州の人慶應三年八月を以て三豊郡柞田村に生る長ずるに及んで區々郷國に去來するを欲せず別天地を波濤千里の地に開かんを欲し明治廿八年三月本道に航す資の固より氏を援くるあるなし即ち吳服太物の行商を企て親しく全道各地を跋渉し零細の利を積み風雨星霜に堪ゆる十ヶ年斯くして其の貯ふる資を舉げて雨龍郡深川に一商舖を開き米雜穀肥料食鹽を販賣す時に廿七年五月たり自來着々信用を博し現時の隆を來したるに於いて氏も又立志傳中の一人物と云ふべき也。

深川村

百七十四



絲屋銀行深川出張所

深川村

銀行一般ノ業

定期預金	六ヶ月以上	年七分五厘
當座預金	百圓ニ付日歩	一錢五厘
小口當座預金	全	一錢七厘

預金利息



無限責任  
 石狩國雨龍郡深川市街地  
 糸屋銀行 旭川支店 深川出張所

務取扱可申候

諸貸附金商茶手形ノ割引荷爲替  
 代金取立送金爲替等ハ精々抵歩  
 ヲ以テ便宜取扱可申候

百七十五



◎絲屋銀行深川出張所、深川市街地の發達と商業取引の頻繁とは茲に金融機關の必要を來し此の必要に促されて出張所を深川に出したるを絲屋銀行と爲す同行は兵庫縣氷上郡黒井村に本店を有し行主は山本菊藏氏一度支店を本道上川郡旭川町二條通り七丁目設置してより成績良好にして行務能く舉り其の名聲と信用とは出張所を空知郡瀧川村に出し雨龍郡深川に出すの隆盛を來さしめたり當出張所は明治三十七年十一月十一日の創業に懸り出張所員杉浦由松米道彌太郎檜垣朝義三谷寛平等諸氏の職務に誠實なる大に深川人士の信頼を博し預金多く貸出し確實にして至大なる利便を雨龍全郡人士に與へつゝあり。

◎山森印森永商店、金網類と云は、如何なる種類の品と雖も備はらざるなく且つ農具類の堅牢精良なるを販賣するを以て深川に知らるるを森市商店と爲す同店は如何なる種類の金網と雖も盡く店主の苦心より成り品質の善良と價格の低廉とを以て知らる店主多三郎氏は越前の人明治二年を以て吉田郡吉野村字上吉野に生れ其の本道に航したるは明治廿七年にして親しく各地の状況を視察し見聞を富す事四星霜卅一年居を深川に定め現業を開始す自來其の勵精と黽勉とは年と共に名聲を博し其の販路遠く天鹽雨龍空知樺戸石狩夕張俱知安の各郡に及び信用隆々として高く以て現時の盛大を來せり蓋し同店此の如き盛大を來せしもの店主多三郎氏の黽勉に倚る勿論なりと雖も又同氏の發明心に富み幾多の改良を加へて賣品の堅牢精良なるに因ると云ふ。



深 川 村 越 後 屋 吳 服 店

- |        |        |        |       |       |
|--------|--------|--------|-------|-------|
| ○吳服太物類 | ○洋織物各種 | ○御詠物一切 | ○洋小間物 | ○筆墨紙類 |
|--------|--------|--------|-------|-------|

雨 龍 郡 深 川 市 街 地

越 後 屋 板 垣 規 一 郎

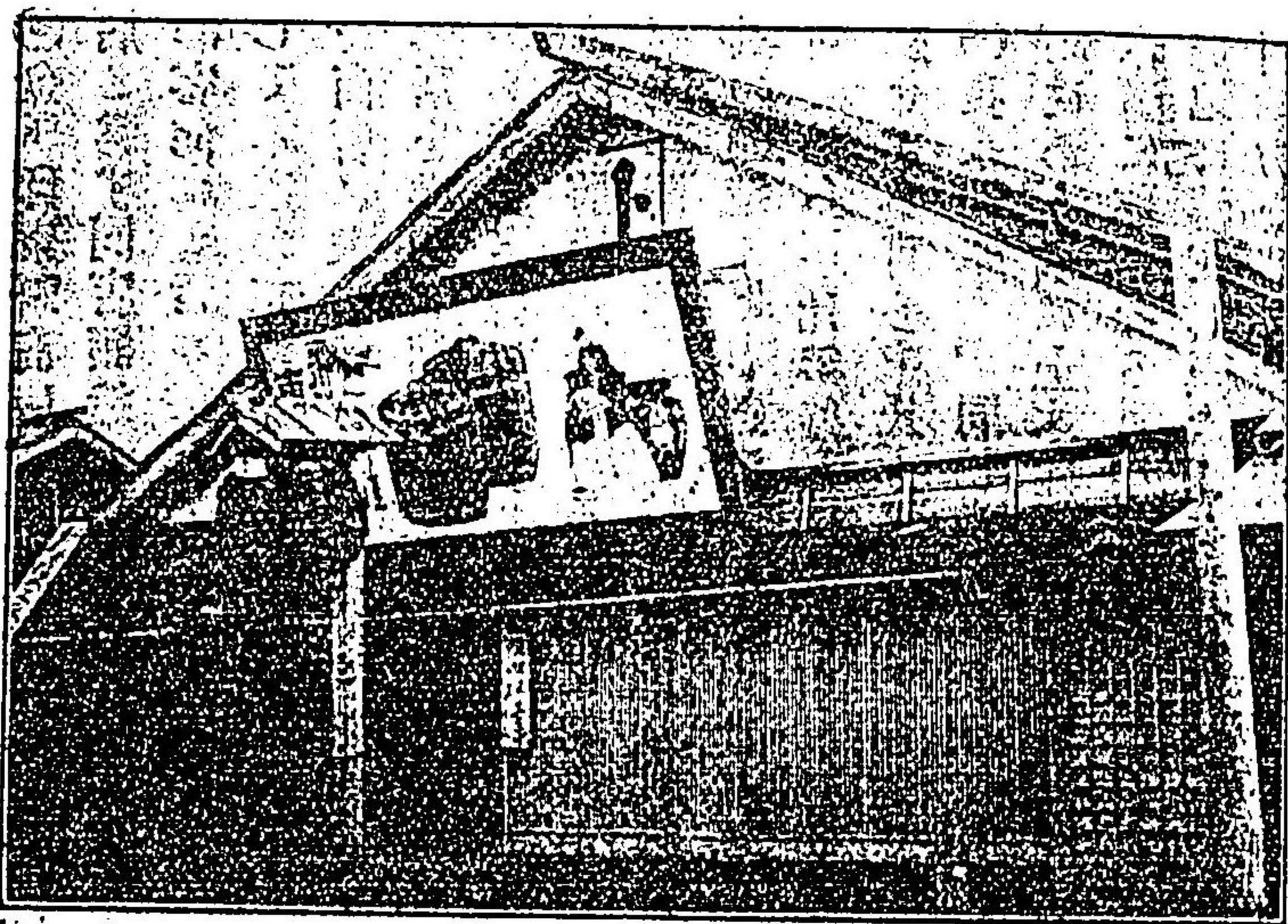
電 信 略 語 (一〇)

有隣生命保險株式會社代理店



◎一印越後屋吳服店、深川市街地に於ける丸井と呼ばれ吳服太物洋物雜貨を販賣して名聲を全村に知らるるを○一印越後屋吳服店と爲す店主板垣規一郎氏は越後の人明治六年八月を以て南蒲原郡大面村に生る夙に志を商業に抱き家運恢復に意あり蓋し同氏の家世々資産を以て聞へしも數奇屢々家門を見舞ひ氏幼少の際其の極に達したればなり氏深く之れを遺憾なりと爲し北海に航し新天地を開拓し産を興し名を爲し依て以て祖業を發揮し家門の隆を來さんを期し明治十九年本道に航し札幌に於ける有名なる大賈今井合名會社に入り見習ひ小僧として勵精す氏や幼少と雖も心家門の恢復を期するあり匪勉衆に越へ嶄然頭角を顯はす斯くして氏今井商店にありて商機を見習ひ商算を案するに習ふ事前後十有餘年此の間已を奉ずる節約に蓄財又少なからず即ち獨立自營を畫し明治卅一年深川市街地本町に現業を開く自來氏や焦慮經營の衝に當り拮据勵精一意業務の發展を畫し良品を廉價に販賣し専心顧客の利便を計りしかは信用期せずして集り名聲欲せずして高く衆庶氏の商店より購入せざるを愚なりとするの有様となり盛況地に比肩するもの少なき現在を來せり少壯志を抱き家門の恢復を期し此の成效あり氏を推して立志傳中の人物なりと云ふも斷して過稱にあらざるなり。

◎丸ウ印植木商店、同店は深川市街地本町七丁目にありて靴製造馬具製造を以て名を知らる店主植木清一氏は廣嶋縣の人明治廿六年本道に航し廿八年深川に移住し現業を開いてより少壯の身を以てして克く經營の難に堪へ深今日を來し益々發展を畫しつあり。



深川村東野醸造店

銘酒

●入川  
●東川  
醸造元

雨龍郡深川

下東野商店

電話(カチト)又ハ(ヒ)

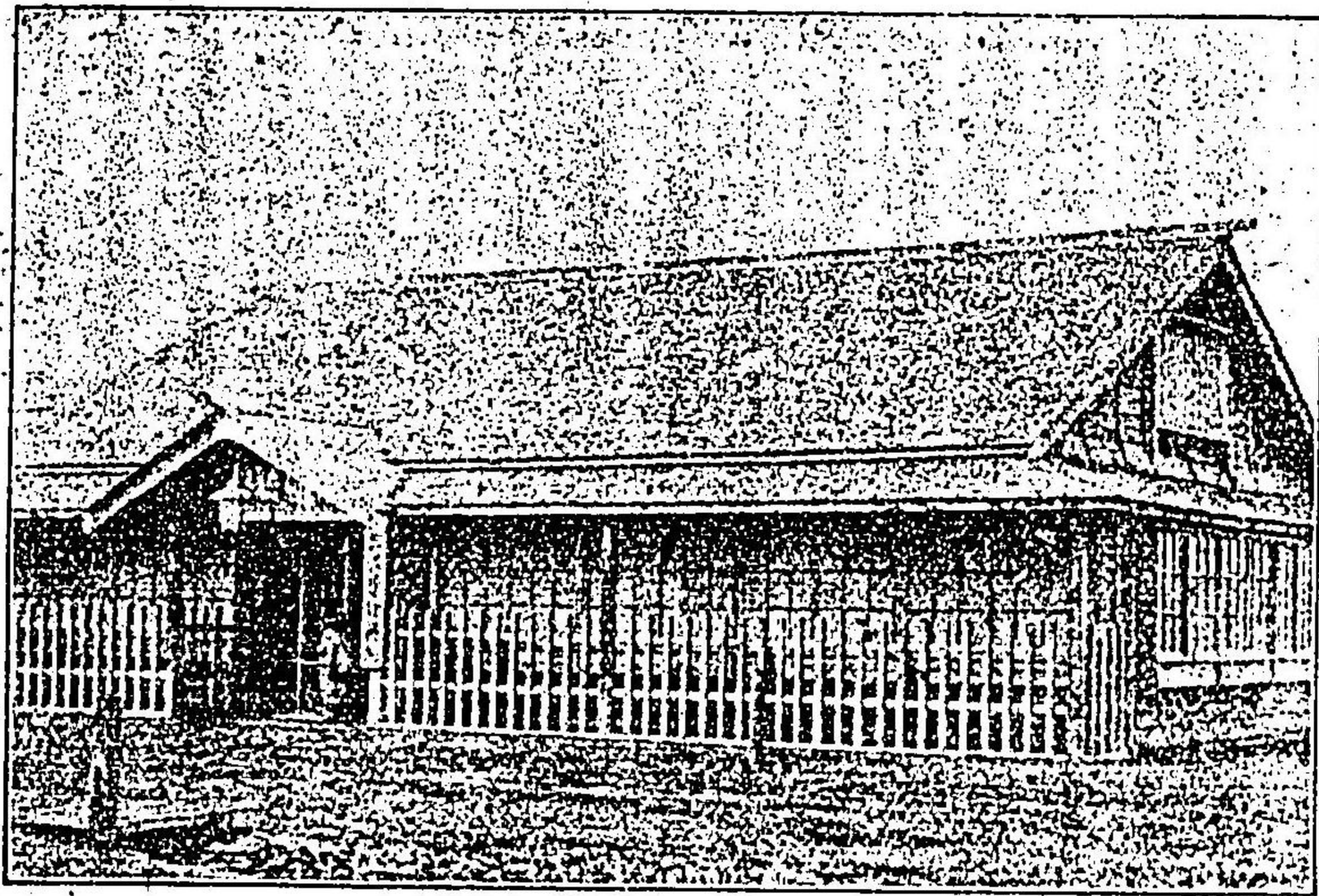


深 川 村

百八十一

◎金ト印東野商店、清酒醸造店として深川市街地に名を馳せ幾多酒客に知らるるを東野商店と爲す同店醸造の銘酒入川東川の二銘酒は醇味芳香價格に比し遙に大坂酒を凌ぐを以て酒客何れも舌を鼓して珍重せざるなし店主東野虎吉氏は石川縣の人先進渡道者の談話に徴して本道の形勢を熟知し少壯の身を提して本道小樽に航す時に明治十三年たり或る時は仕を商店に求め或る時は獨立する等幾多經營する處ありしも天未だ成效を與へず明治三十一年居を砂川に轉じ米穀雜貨並ひに農産物販賣店を開き家運漸やく順境に向ひ利する處少なからず其名聲は組長に選舉さるる等信用次第に高かりしも氏一度深川の地を視察するに當り深川將來の發達寧ろ砂川に勝るあるを看破し卅五年意を決して深川市街地本町六丁目に轉住し清酒醸造業を開始す氏が醸造に熱心なる克く元料を精選し誠意を以て醸造せしかば其の醸造になる銘酒入川東川は品質の良芳香の醇敢へて大坂上酒に譲らず忽ち名を酒客の間に知られ比年盛大に赴き現時の隆するに到れり蓋し氏の成效したる一に之を誠實の徳に歸せざる可らず氏も又偉なるかな。

◎長永精米所、同精米所は長永二郎氏の深川村音江通りに於いて經營する處同氏本店は片町にあり夙に土木建築請負業を以て知らる氏明治三年を以て石川縣石川郡野々市村に生れ本道に航したるは明治廿七年三月たりしなり初め居を濰川村に定めしも卅一年三月深川市街地に轉住し土木受負業を開始し次第に信用を博し産を興し名を爲すに到れり卅九年十一月餘力を以て精米所を音江通りに創立し其の經營に巧なる二業何れも隆盛を極めつつあり



深 川 渡 邊 診 療 院

内 科  
外 科

雨 龍 郡

渡 邊 診 療 院

深 川 市 街 地

深 川 村

百八十一

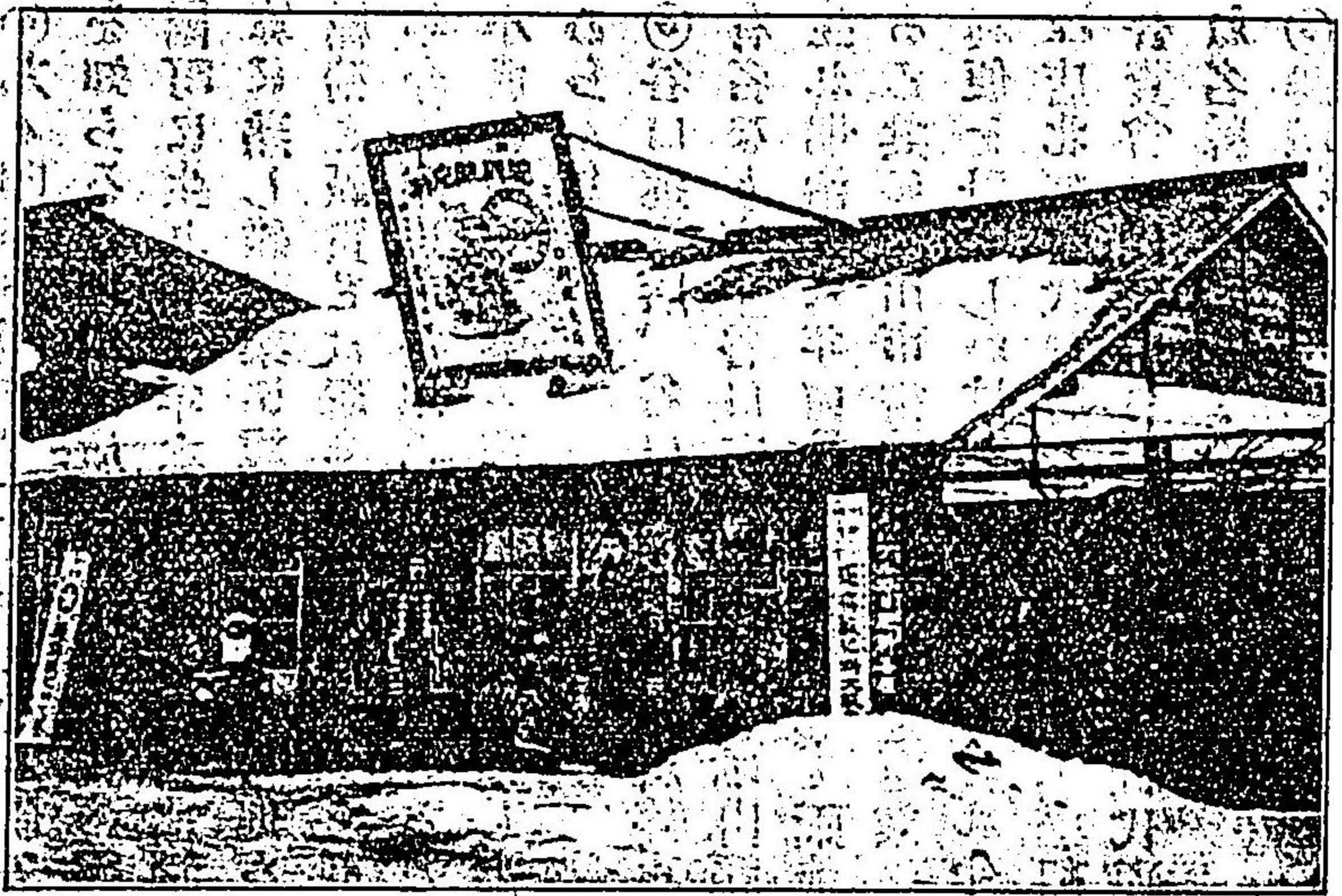


深 川 村

百八十二

◎渡邊診療院、同診療院は深川市街地に於ける唯一名聲あり信用ある醫院にして開院月尙は淺きに拘らず遠近來り集つて診を乞ふもの多く盛大を極めつつあり院長渡邊貞佳氏は山形縣鶴岡の人夙に志を刀圭界に寄せ刻苦研讀學成り業卒へ醫術開業試験に登第するや直に本道に航し札幌北辰病院に聘せられ醫療に従事す時に明治廿年たり北辰病院は外科術に於いて有名なる關場醫學士の主幹する處渡邊氏が特に外科術に長ずるは當時に於ける研究と實驗に因る處多しと云ふ後ち札幌驅梅院々長に聘せられ名聲を馳す深川市街地に開業せられたるは明治卅九年四月たり自來獨得の手腕を揮つて内外科一般診察に従事し傍ら深川警察醫を兼ね現時に及びり氏内科の診察外科の手術に長ずるのみならず醫は仁術なりとの主旨を解し貴賤貧富を分たず一見白仁依て以て診察に従事するを以て患者何れも悦服せざるなし將來病院組織を爲すの計畚あるは深川住民の爲め喜ぶべきなり。

◎佐藤蠶種製造販賣店、春蠶種秋蠶種風亢蠶種桑苗各種の製造販賣を爲し其名を知らるるを深川村に於ける佐藤柳太郎氏と爲す氏丹波の人蠶業家の家に生れて斯業に達し廿三年農商務省蠶業試験場蠶事部に入り卒業後福島縣を歴遊して斯業先覺者の門を叩きて研鑽し造詣する處頗ふる深し卅年本道を漫遊し意を移住に決し卅一年家族を携へて深川村に居を定め道廳蠶種検査員の職を奉じ孜孜として本道に於ける斯業の發達に貢獻し桑園の改良に簡易養蠶傳習所の監督に氏の盡力眞に傳ふべきものあり名聲の隆偶然に非ざるなり。



深 川 村

店 商 田 坪 村 川 深

米 穀 農 産

肥 料 販 賣

雨 龍 郡  
 ◎ 坪 田 商 店

深川市街地

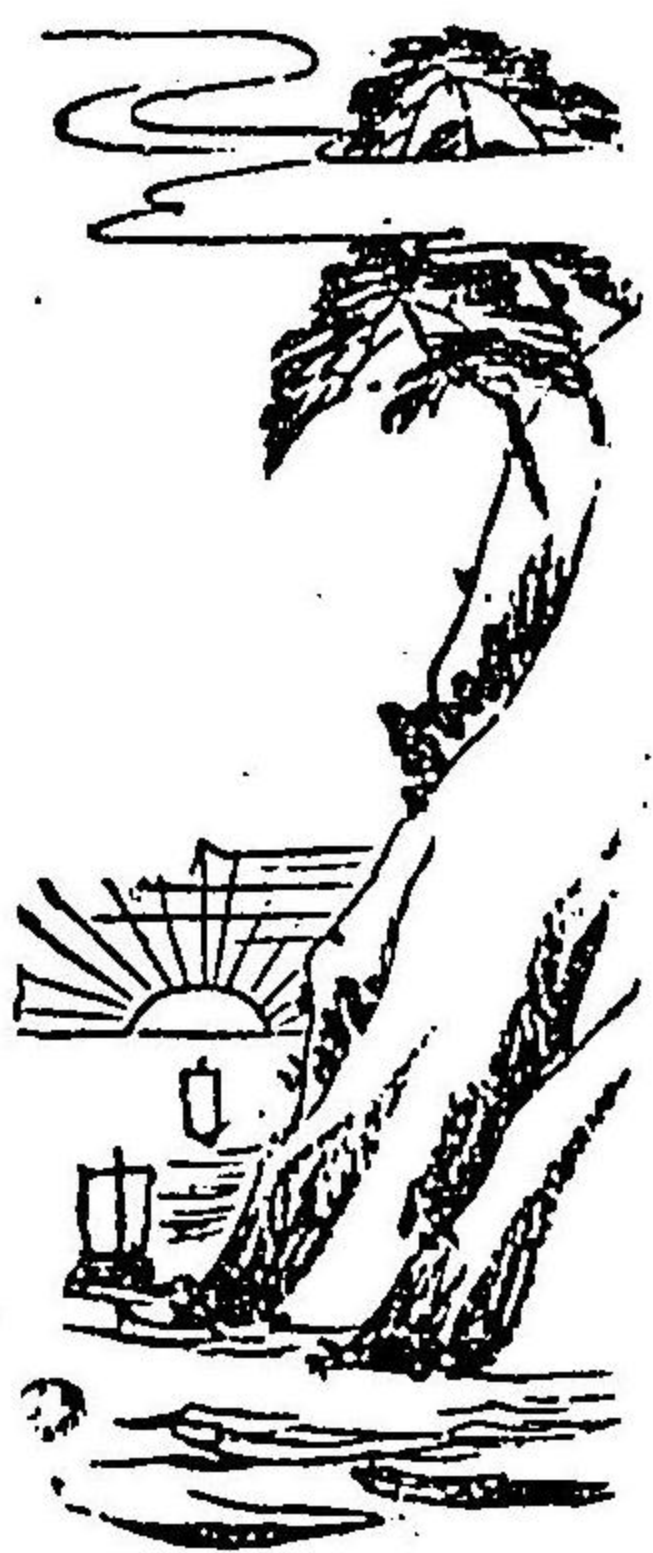
百八十三



◎丸イ印坪田商店、深川市街地本町五丁目にありて米穀農産物及び肥料販賣を爲し其の名を知らるる坪田商店は坪田留吉氏の經營主宰する處たり同氏は越前の入明治十年阪井郡三國町に生れ廿三年本道に航し空知郡滝川の大買坪田商店に入り商機を習ふ事前後八ヶ年商算に熟し雜穀業に經驗を積む即ち地を深川に相し明治三十年現業を深川市街地に開く氏の勵精と誠實とは忽ち名を江湖に知られ信用年と共に加はり少壯の身を以てして經營茲に十年今や深川市街地氏の名を知らざるなき成效を博し家業隆々として盛大を極むるも氏毫も小成に安ぜず益々前途の發展を期し畫策怠らざるあり氏將來の成效刮目して見るべきものあらんなり。

◎谷口運送店、谷口運送店は深川停車場前の好位置にありて信用高く業務隆盛なるを以て有名なり店主谷口宗太郎氏は和歌山縣の人明治十年四月三日を以て同縣下年妻郡三舞村に生れ明治廿八年四月屯田兵として雨龍郡一巳村に移住し克く其の任に堪へ卅四年現役を終ると共に深川市街地に出でて運送業に従事し熱心經營の衝に當り迅速丁寧を以て委託者の利便を計りしかは忽ち名聲を知られ今や内國通運會社取引店早達組代理店上川倉庫會社代理店北都組代理店栗山組代理店運送組代理店運送株式會社代理店札幌倉庫會社代理店九福合資會社代理店日本海上保險會社代理店等幾多の代理店を兼ね更に各新聞賣捌取次店を兼ね名聲隆々として全郡に知らる。

◎神職柏山義一氏、同氏は和歌山縣の人祖宗より十一代氏に至るまで世々神職を勤め神官たり氏屯田兵として移住し居を深川市街地仲町に卜し一巳村大國神社外三ヶ村神社の神官を兼ね篤校篤行克く神官たるの面目を保ち令名雨龍全郡に高し。





空 知 便 覽



深川村川上翁助

米穀 荒物 農産 賣買  
和洋 小間物 洋酒 罐詰  
諸紙 帳簿 其他 各種

ワシントン號  
旭ホーション號

自轉車特約販賣

附屬品一切

佐渡物産 蔦草 籠草 履笊 旭竹 輪竹  
提灯竹

追而佐渡物産ハ産地直仕入ニ付特別大勉強

卸小賣共大勉強

雨龍郡深川市街地

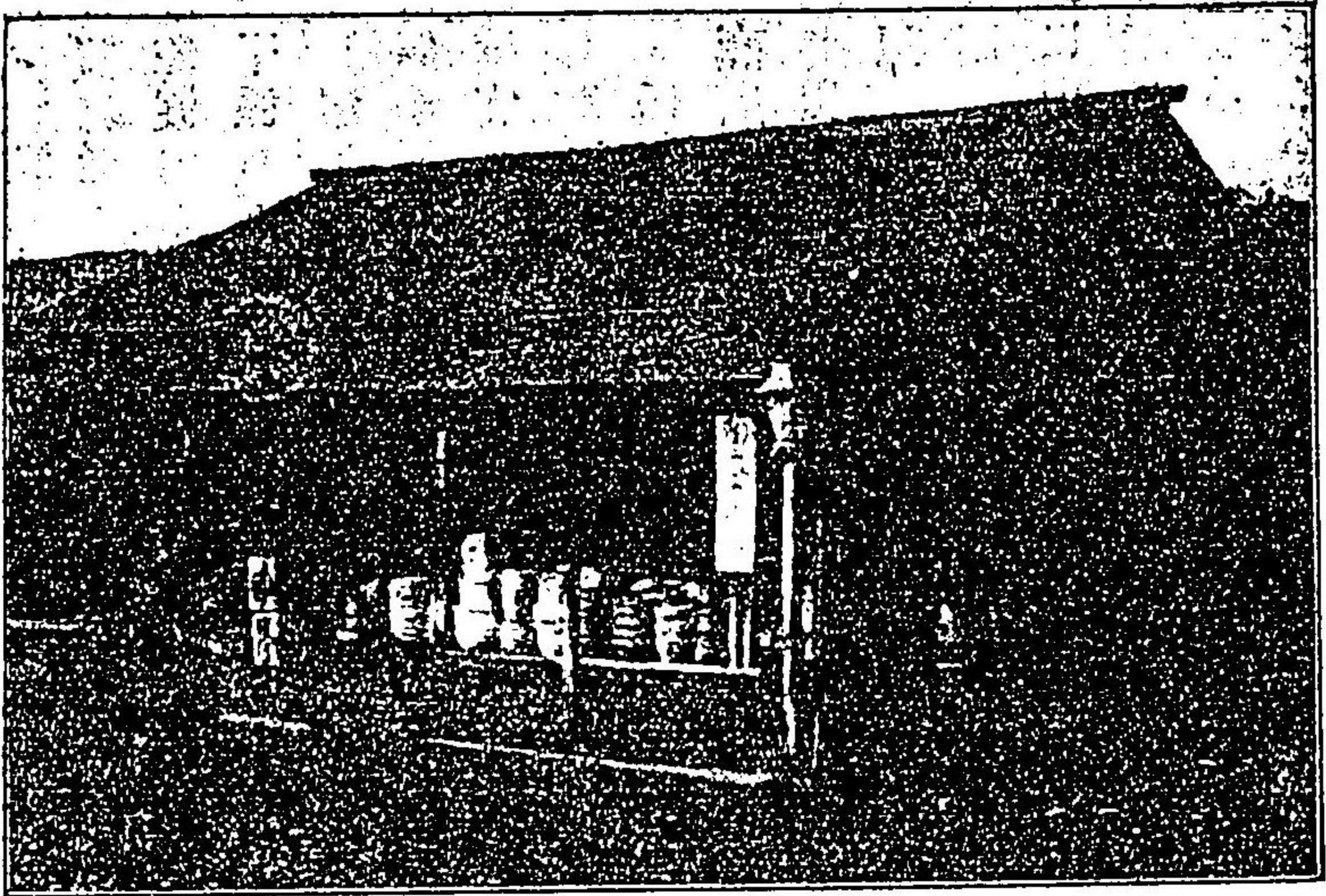
川上翁助商店

空 知 便 覽

◎九大印川上商店、深川市街地幾多同業者間に介在し米穀雜貨荒物類を販賣し更に農産物  
賣買に従事して取引の盛大業務の隆盛を以て其名を知らる、を川上商店と爲す店主翁助氏  
は佐渡の人明治八年二月を以て小木町に生る波上の孤島佐渡の地や由來本道各地と特籍  
の干係あり従つて氏夙に本道の事情を精査し意を新天地の開拓に決し明治二十七年本道に  
航し居を空知郡美唄に定め書策する處ありしも深川の地の寧ろ向上發展に至便多きを了し  
卅四年四月居を深川市街地に轉じ現住所に現業を開く當時深川の發展倏々として氏開店の  
時機宜しきを得しかば忽ち業務の隆盛を來したると氏が家業に熱心にして良品を薄利に販  
賣し顧客の利便を計りしとは氏商店の名聲を噴甚ならしめ遂に今日の礎を堅ふせり氏人と  
なり任俠能く人の危急に赴き名望又甚て高しと云ふ因に空知便覽雨龍郡一手販賣は之を氏  
の商店に爲しつゝあり。

◎井出商店、銅鐵刃物金物類を販賣し更に度量衡器類の販賣を兼ね取引盛大業務隆盛なる  
を以て深川市街地に知らる、を井上商店と爲す店主井出橋平氏は山梨縣北巨摩郡清秦村の  
人明治廿六年本道に航し親しく各地の状況を視察し卅年現業を雨龍郡深川市街地に開く思  
ふに山梨の人由來氣豪に膽太而して本道に航する甲州人士多くは金物業を營て産を興し名  
を爲さざるはなし氏又甲州人として金物店を開き經營已に十年取引の確實なると賣品の精  
良なるとは次第に業務の隆を來し少壯の身を以てして克く今日の成效を來せり偉なりと云  
はざるを得ず。





深川村井澤商店

陶 ● 洋燈塗器

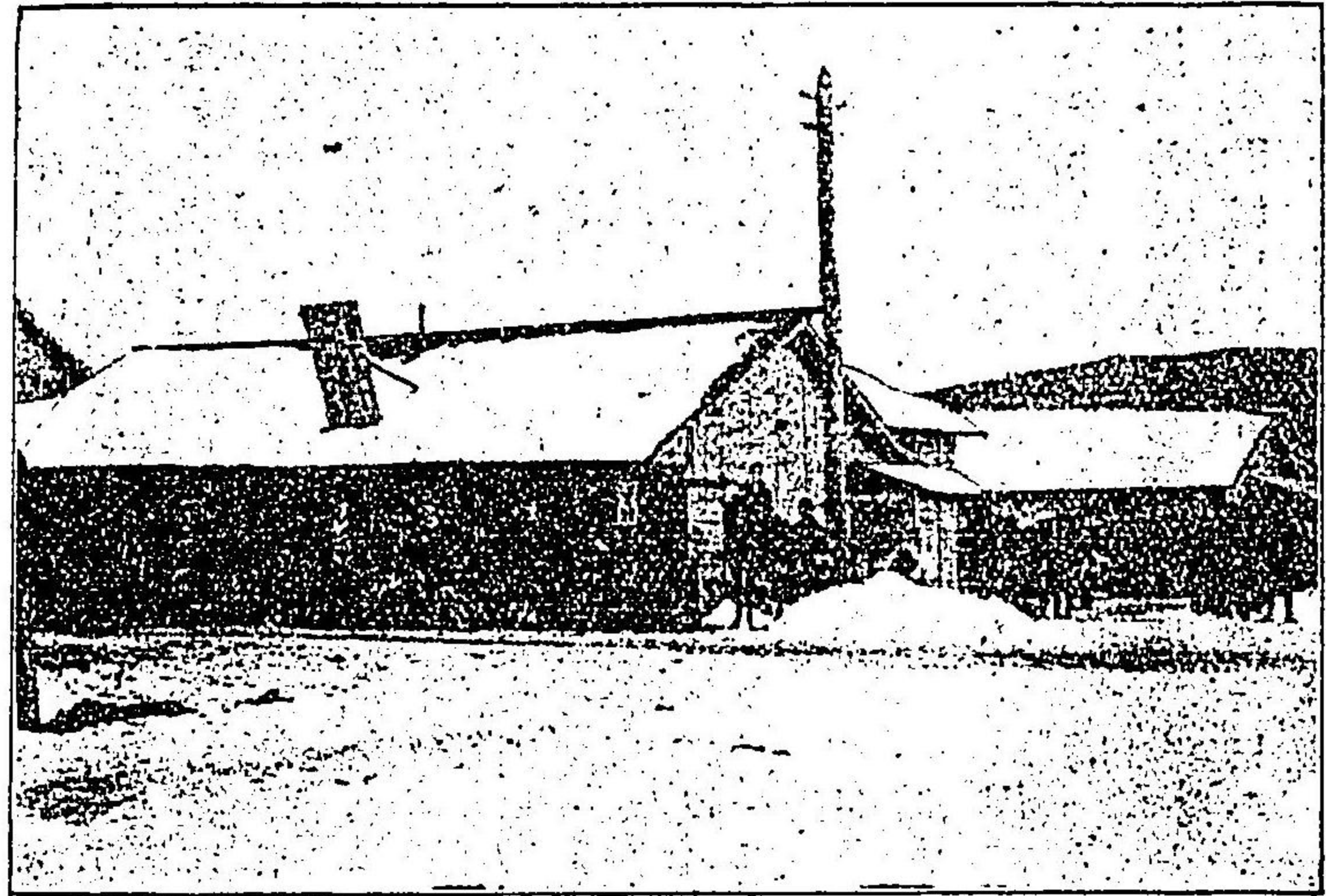
磁 ● 井澤商店

雨龍郡深川本町

器 ● 諸國銘茶

◎丸井印井澤商店、深川市街地本町の要街に商店を開き陶磁器洋燈塗物諸國銘茶を販賣し名聲あるを井澤商店と爲す店主莊三郎氏は岐阜縣多治見町の人明治十五年獨立陶器業を開き孜孜として經營の衝に當り年と共に隆盛を來し營業の基礎漸やく定まらんとするの時日清の國交破れ事を干戈に訴ふるや東海鐵道線貨車不廻の爲め氏等陶器業者は一大打撃を受け氏も又破産の止むなきあり剛氣なる氏は爲めに屈せず人生到る處青山あるを吟じ慨然本道に航し徒手空拳より起つて資産を恢復せんを欲し廿九年本道に航し石狩河畔に微々たる小作人として其の日を消し徐ろに時機の來り見舞んを俟つ而かも幸運來らず天は更に氏に與ふるに卅一年の大洪水を以てし一家殆んど死に垂んとするの厄災に逢ふ尋常人たらんには膽落ち氣阻し又再舉の勇なからんも氏の氏たる所以は一難を經一難來る毎に益々發揮され翌卅二年十一月深川に出で少資を以て舊業即ち陶器業を開き漸を以て素志を達せんとす其の不撓不屈の精神眞に人をして嘆服に堪へざらしむ斯くして氏は黽勉以て家業を宰し節約以て已を持し零碎の利を蓄へ一利あれば直に發展の資に投じ經營の慘毒策の苦辛ひにして次第に隆を來し十年の苦心遂に現時の盛大を輸し得たり令息元吉氏又夙に斯業に身を投し幼少より有名なる小樽の陶器店一丸林店に商機を見習ひ幾年の辛勞商算に熟し歸來父業を援くるに當りて家業益々盛大を極め現時斯業に於いて深川第一と稱せらる幾多の災厄幾多の失敗に處し來り井澤氏の今日あるもの偏に氏の不撓不屈の精神と事に當りて誠實熱心なる結果に外ならず後に事を爲さんとするもの氏に鑑みる處なからざる可らず。





深 川 村 蚊 野 商 店

米 穀 荒 物  
肥 料 農 産 商

雨 龍 郡 深 川  
蚊 野 商 店

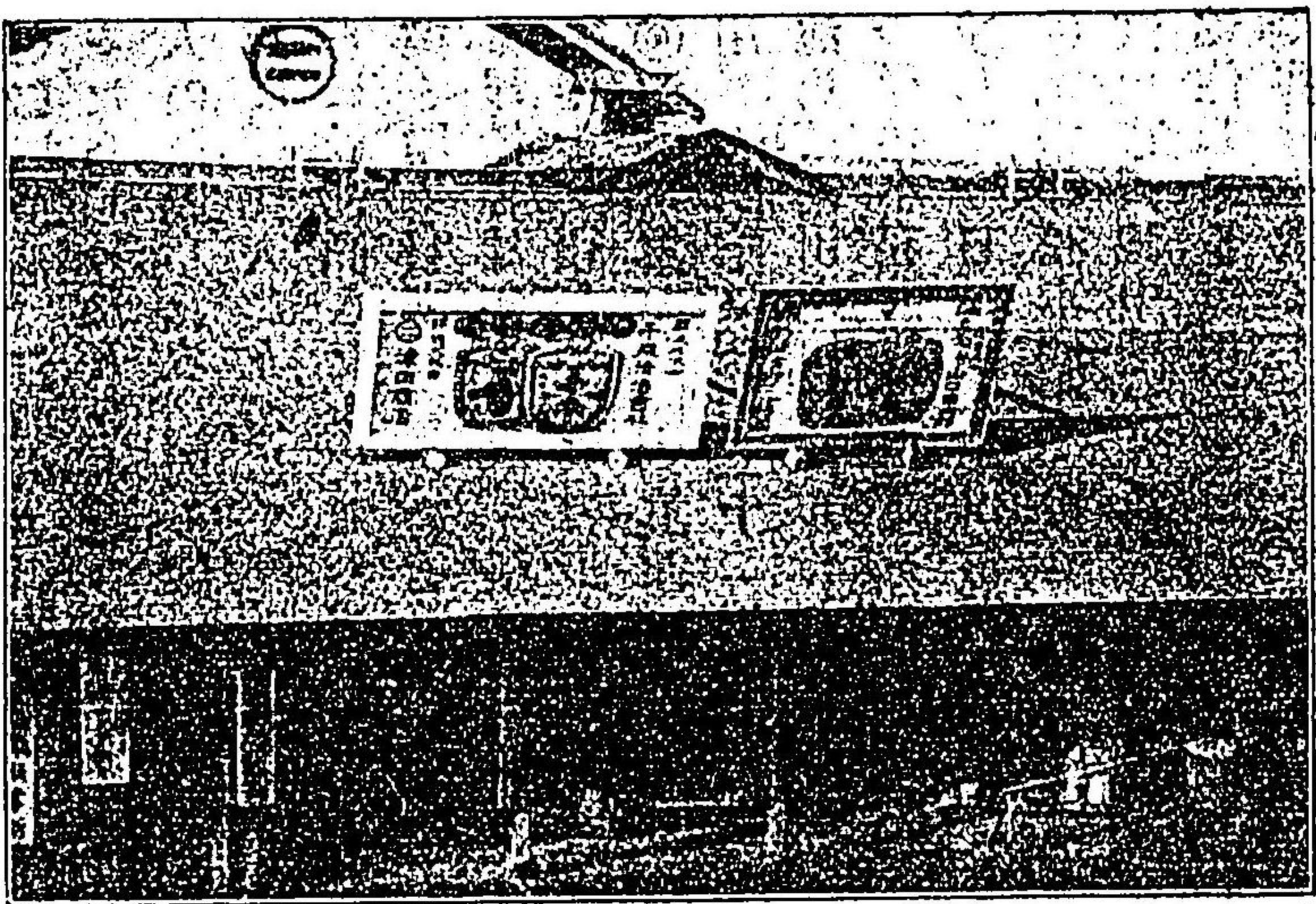
電 零 (〇 カ) 又 (ハ カ)

◎蚊野商店、江州の人由來氣豪に膽大に封建當時已に四海を踏破し所謂近江商人の名を噴々たらしめたりき本道の地又近江人士の各地に成効したるもの多き又此の氣風に依り近江人の奮勵したるに因る深川市街地の米雜穀荒物肥料農産販賣商として知らるゝ蚊野藤三郎氏は近江人なり而して深川に成効したる人なり年齒尙は壯にして深川に成効したるもの流石に近江商人たるに耻ぢずと云ふべし氏明治三十四年本道に航し直に深川に居を定めて現業を開く自來經營の妙次第に其の隆を來し顧客に對し懇切なると他店に比し廉價に販賣せし艱勉とは年々基礎を堅ふして遂に今日あるに到れり氏や尙ほ前途の發展を畫し孜孜として倦まず頻りに經營の歩を進め焦慮寧日なし前途の隆誰れか識者を要せんや。

◎深盛寫真館、同寫真館は深川市街地隨一の寫真館にして技術巧妙約束正確なるを以て信用あり同館は明治三十二年小池市三郎氏之を創立し年と共に撮影者多く盛大となりしも小池氏は瀧川屯田兵たりしを以て日露の役從軍し名譽の戦死を遂げられしかば小池氏未亡人の從弟小泉義範氏遺業を繼承し技術の巧新式の撮影術を採り毫も同館の名聲を失墜せしめずして今日に到り深川市街地隨一たる寫真館と稱せられつゝあり。

◎丸松印松本商店、家具一切古物建具塗物佛壇佛具類を販賣して精良の物品に富む商店は深川市街地中唯だ丸松印松本商店あるのみ店主千代藏氏は和歌山縣の人明治廿八年本道に移住し居を深川に定めたるは明治三十年なり卅六年九月現業を開いてより經營宜しきを得て些の失敗なく年と共に隆を極めて今日あるに到れり。





深 川 村 津 田 商 店

雨 龍 郡  
● 津 田 商 店  
深 川 市 街 地

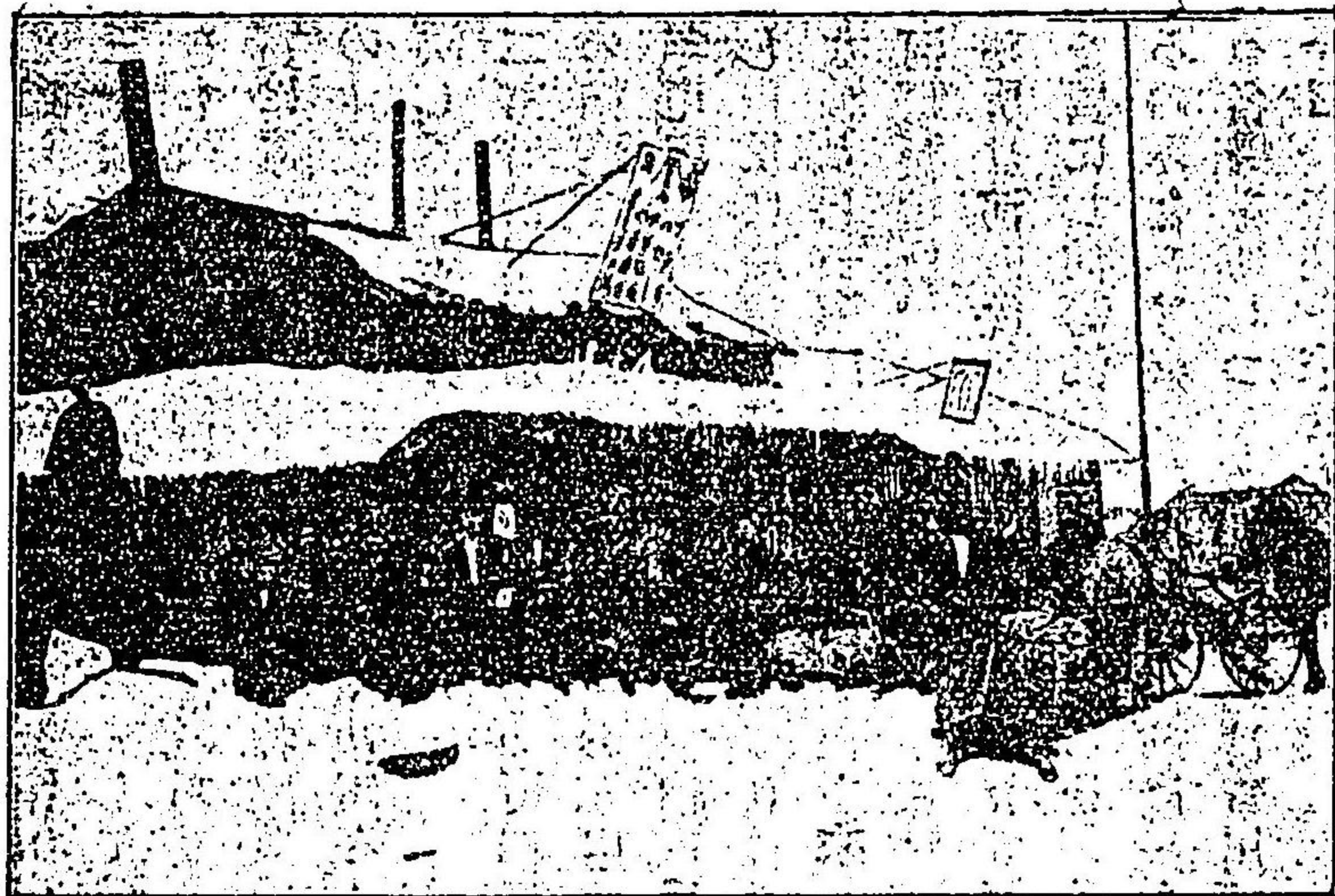
- 千 歲 酒 ● 麥 粉 ● 石 油 ● 三 田 尻 塩
- 岩 泉 清 酒 ● 肥 料 ● 白 米
- 砂 糖 類 ● 繩 蔴 叭 類

○津田商店、米穀の良産物の精選農産物買の確實と肥料販賣の隆とを以て深川市街地何人と雖も其の名を知らざるなきを津田商店と爲す同店は津田源衛氏の經營する處になり明治三十六年十二月開業せしものにして營業必すしも久しきにあらずと雖も名聲の隆信用の篤きもの一に店主源兵衛氏經營の巧なるに歸せずんは非す蓋し源兵衛氏一意營業の方針を確實に置き販賣品を精選し農産物買の如き低利を主として委託者を利せしは漸を以て進むの主義は次第に其の名聲を高め現在を來したるものにして人稱して商人の模範と爲すもの決して偶然に非るなり。

○二宮時計眼鏡店、同店は深川市街地に於ける唯一の時計眼鏡店にして時計類の廉價眼鏡類の精良なるを以て知られつゝあり店主二宮惟一氏は愛媛縣の人明治七年松山市に生れ卅一年屯田兵の徵募に應じて雨龍郡納内兵村に移住し同年十月深川市街地に出で現業を開く蓋し氏夙に斯業に造詣する處深ければなり自來克く家業に勵精し市街地に斯の種の營業者少なかりし一事は大に住民の利便を來し遂に現時の隆を來せり。

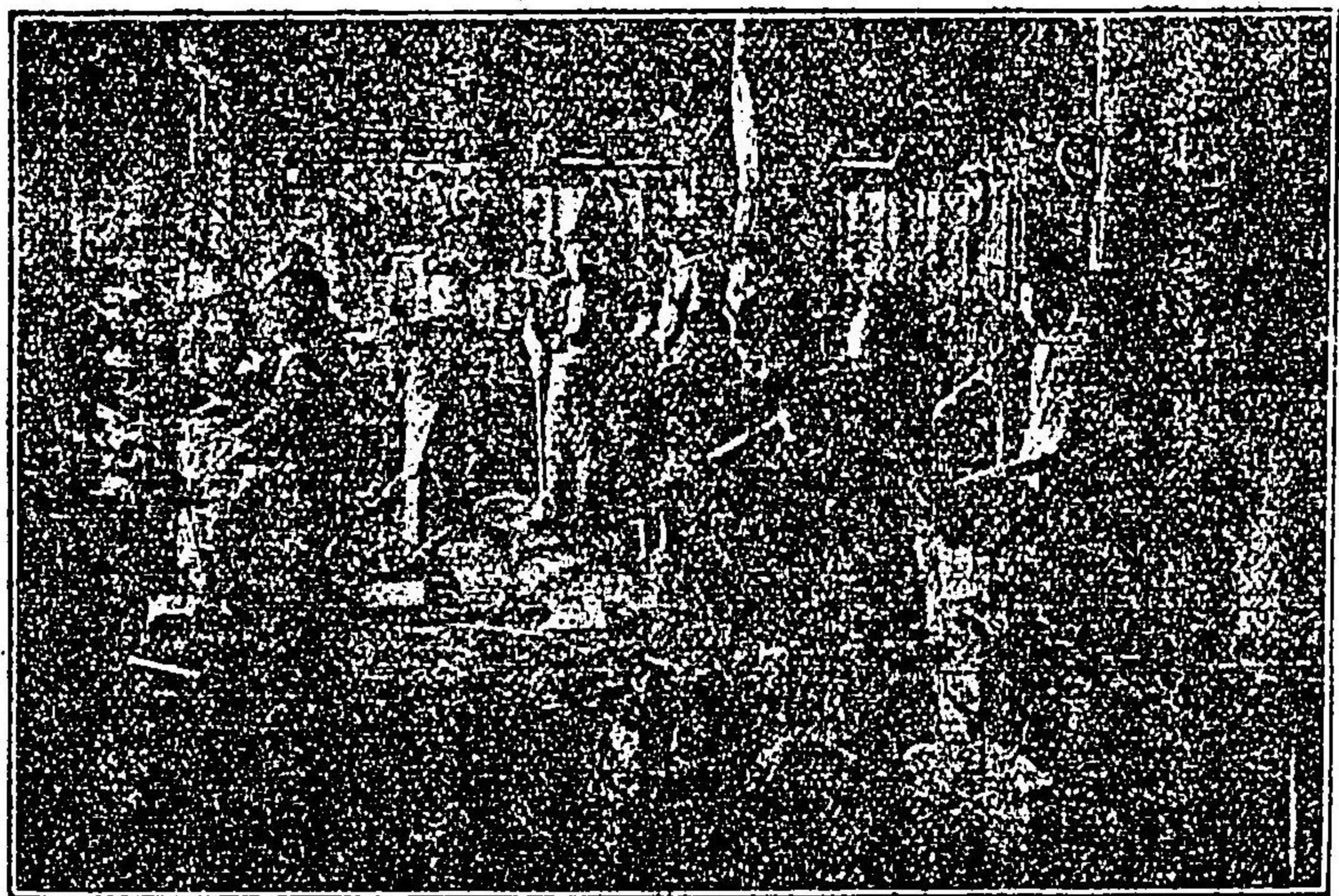
○河野製麵所、雨龍原野に生産する精良なる小麦を以て製麵業に従事し名聲隆々たる河野製麵所は河野佐平氏の主宰する處たり同所製造○類は内地各縣に産する手製油入素○と製法を異にし何等油類を混入せざるを以て性分の純潔にして風味の淡白なる他に其の比を見ざるのみならず病人病後將た産前産後を別たす如何なる人の食料にも供し得るを以て噴々たる名聲を博しつゝあり河野氏は香川縣の人明治卅二年深川に移住してより斯業に従ひ遂に今日の隆盛を來せり。





場 工 鐵 見 藤 村 川 深

深 川 村



内 場 工 鐵 上 同

百 九 十 四

◎藤見蹄鐵工場・藤見蹄鐵工場は深川村唯一の大蹄鐵工場にして而して農具製造所なり年々二百臺の除草器三百臺のプラシーナを製造販賣し職工十有五名を使役するの一事如何に藤見工場の盛大なるかを知るに足らん場主藤見鐵次氏は熊本縣の人慶應元年六月八代郡種山村字西原村に生る家世々鐵工を業とし已に六代間繼續したる鐵工家たり従つて氏は幼少より鐵工に従事し造詣頗る深し明治廿四年四月本道に航し札幌に鍛冶業を開き傍ら畜産學を研究し得る處少ならず後ち製糖會社に入り鐵工に従事し更に夕張炭山に赴き鐵工所を經營し利する處少ならずも餘儀なき事情に制せられて一時歸國し廿六年再び本道に航し瀧川村丸本鍛冶屋にて勞働する一ヶ年去つて音江村に獨立開業し廿八年四月現住所深川に居を定め鐵工場を開いてより三ヶ年間同業者なかりし一事は氏の鐵工場をして隆盛の極に達せしめたるのみならず氏の鐵工術に堪能なる其製作になる除草器は實用新案にして登録番號二八二五號の專賣にして蹄鐵と共に名聲を博し遂に深川隨一と稱せらるゝ現在を來せり之を要するに氏の如きは所謂腕一本より叩き上げたる成効者にして薄志弱行の徒の須らく鑑みざる可らざる處たらんなり。

◎若林商店、深川市街地に於ける若林商店は建築受負業並に木材商として名ある商店なり店主若林乙吉氏斯業を經營してより其直截明快なる資性は一諾千金の概を重んじ又毫も利益の前に聲揚ならざりしかは名聲期せずして集り信用欲せずして高く遂に今日あるの隆盛を來せり偉なりと云ふべきなり。

深 川 村

百 九 十 五





深川停車場前高野旅館

# 太 館旅

雨龍郡深川停車場前

さ つ ま や

高野 十太郎

- 食料新鮮
- 取扱町重
- 誠實勉強
- 停車場前旅客便利

◎山太印さつまや旅館、同館は深川停車場前の好位置に在りて其建築の宏壯美麗なるは寫眞銅版の示す如くにして其の客室の多く設備の完全なる推して深川随一と稱せらるゝのみならず旅客に對する待遇の懇切なる此の不自由を感じしめずサナガラ我が家にあるの思ひあらしむるを以て名聲益々高し蓋し同館の開業以來忽ちにして名聲を馳せ深川随一の旅館なりと稱せられしに到りたるもの洵に館主高野十太郎氏の夙に斯業に身を委ね所謂旅館の番頭なるものより身を起し長短克く補ひ彼の粹を執り彼の雅を拉し現館を創したると巧に客の意を迎へて其の待遇に些の手落ちなきに因る思ふに旅館の設備如何に完全を爲し器具に客室に清潔美麗を極むるとも待遇の一事に全力を濺ぎたるは多年の経験に因るとは云へべからず館を高野氏が主として待遇の一事に全力を濺ぎたるは多年の経験に因るとは云へべ氏の炯眼なるに倚らずんば非ず氏明治元年を以て鹿兒島縣に生る明治廿二年本道に航して札幌に移し一時東上せしも卅三年再び本道に航し居を深川に定め卑職を顧みず某旅館に入り番頭を爲し夕べに客を迎へ朝に客を送り此の間客の待遇に關し考慮する所少なからず卅五年立つて現旅館を創立し郷國を思ふの情を表してさつま屋と稱してより位置は好位置なり設備は完全なり器具は清潔なり加ふるに氏が多年考慮したる待遇の懇切なる旅館として一も缺くる處なかりしかば次第に名聲を知られ下婢番頭に到るまで使用人一同又克く氏の意を体し一意待遇に懇切を極めしかば一宿の客も再宿を爲しさつま屋の名隆々として行旅の客に知られ深川に來るもの皆な宿を同館に求めて隆盛比なき現在を來せり。

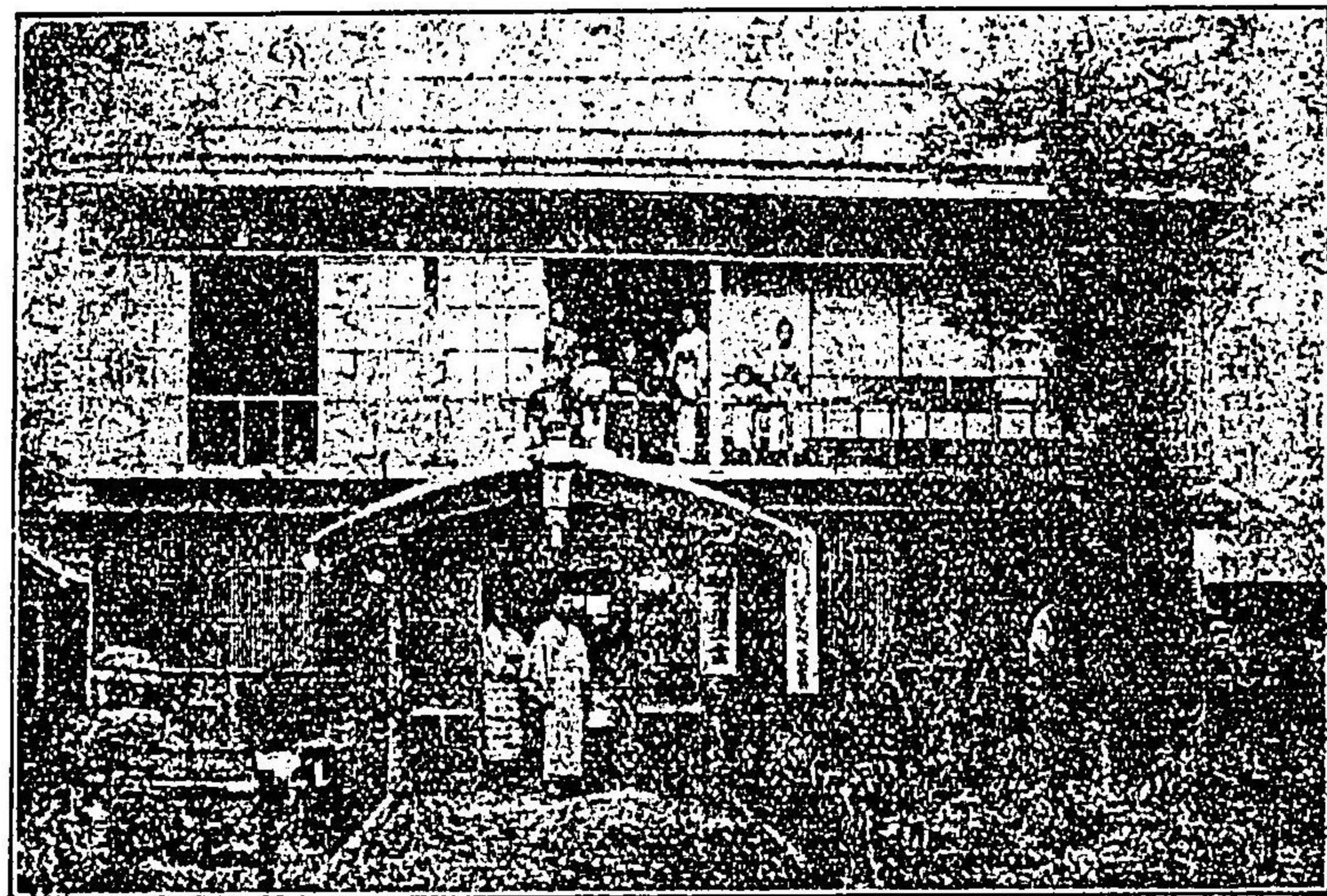




深川村

深川大印新木鐵工場

◎大〇印新木鐵工場、深川市街地本町四丁目にありて日夜鐵錘の響き絶えず尤も盛大を極むる鐵工場を新木中吉氏の鐵工場と爲す同鐵工場製作になる農具類其他何れも堅牢にして永久使用に堪ゆるを以て名譽高し場主中吉氏は石川縣の人明治八年加賀國山中村に生幼少の當時即ち明治十七年本道小樽に航し十七歳より鐵工業に従事し自分職工となりて日夕斯業に鍛練し技術を研鑽する年あり斯くして斯業に精通し獨立するを得るに到りて地を深川に相し鐵工場を創立す時に明治三十年たり自來氏や匪勉經營の郷に當り奮勵家業を督し期日を重んじ一意顧客の約に背かざると技術精巧にして製作品の堅牢なるとは忽ち其の名を知られ業務年に盛大に遂に職工十有餘人を有する現状の隆を來せり。

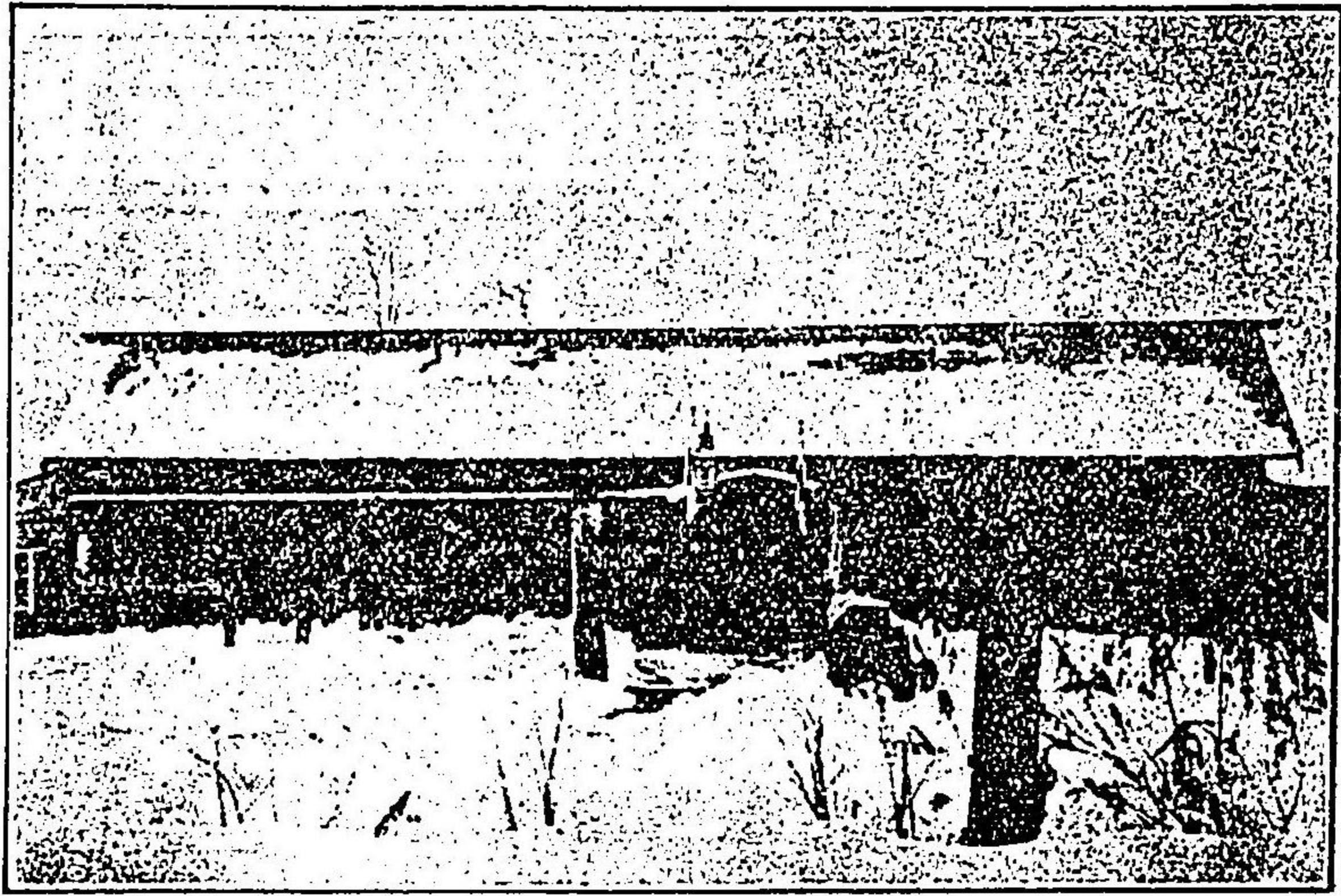


深川村

深川村川旅館

◎山大印川村旅館、深川市街地に於ける幾多旅館中客室の美麗なると待遇の懇切なるを以て行旅の人に其名を知られ名聲噴々たるを山大印川村旅館と爲す同館は尤も文明的設備に富み器具清淨食膳又衛生を重んじ調理に美味を極むるを以て投宿の客日夕絶にざるの盛況を呈しつゝあり館主川村常吉氏は秋田縣の人慶應二年を以て生れ其の本道に航し深川市街地に移住せしは明治二十九年たり移住當時種々なる難苦に見舞れしも屹然として屈せず不撓の精神克く事に當り卅二年現業を開いてより經營其の宜しきを得たと氏の客に對する待遇の懇切とは遂に今日あるに至らしめたり而かも氏尙ほ安せず自ら親しく毎年都市に於ける大旅館に就き其の待遇設備食膳等を視察し改良を加へつゝありと云ふ。





深川遊廓西岡樓

和洋御料理  
仕出し

雨龍郡深川停車場通り

西料理店



深川西料理店内系八

◎妓樓丸西印西岡樓、草深い深川も溫柔郷裏の別天地は又格別西岡樓とし云は、誰れ知らぬものなき斯界の大籬紅黃紫白廿四番の春風洋々として如何なる石部金吉の堅藏も我れから酔ふて恍惚たりとか嘘と思召さばなすと云はずとも名聲斯界に轟けるにても察せらるべしいでや籬の花の面や野暮天ながら紹介せんに曰く玄花(本名藤井つね)曰く小錦(本名中井めつ)曰く北進(本名中西よね)曰く小柳(本名伊藤てつ)曰く小濱(本名秋本はぎ)是等細腰の美姬何れも艶を競ひ姿色を争ふの風情之れが熊の住むと聞く深川あたりの美人かどアツト驚くも道理何れも美人の本場東北よりの來向と知つては隨喜の涙一しほなるべし樓主西岡嘉右衛門氏は富山縣の人明治卅一年八月深川の地に來り兼ねて斯業の經驗ある事とて直に料理店を開き包丁の粹調理の美に來客の舌を鼓さしめ忽ち西岡樓の名を斯道の達人等に知られ進んで内藝妓を置きて來客の興を援けしむるに及んで益々繁昌し往き來るさの人先づは西岡樓かと云ふ程の名を博し遂に卅九年九月料理店の外貸座敷業を營みて、現在の盛大を來せり、去れば兩店とも何れ劣らぬ繁昌にして就中料亭の内藝者せつ子糸八なんぞと呼ぶ阿嬌連諸藝達せざるなく客を外らさぬ愛嬌御望みとあらば春雨ても踊るかどふかは知らねとも何にしる客を満足させぬ事なしとの大愛嬌に君が一笑には囊中の紙幣も物かはどの肩入れ連來るは夜盡なしの大繁昌料亭は之れ等兩妓がしよつて立ち妓樓は五名の細腰腕を揮つての大勉強加ふるに樓主嘉右衛門の遊客に待する叮嚀とは兩々相俟つてココ西岡樓の大繁昌を來し遊んで面目さは此の樓に限るとのサア評判じや評判じや。



和洋

御料理

仕出し

空知便覧

雨龍郡深川村仲町

上寶軒



吉春 内軒寶村川深

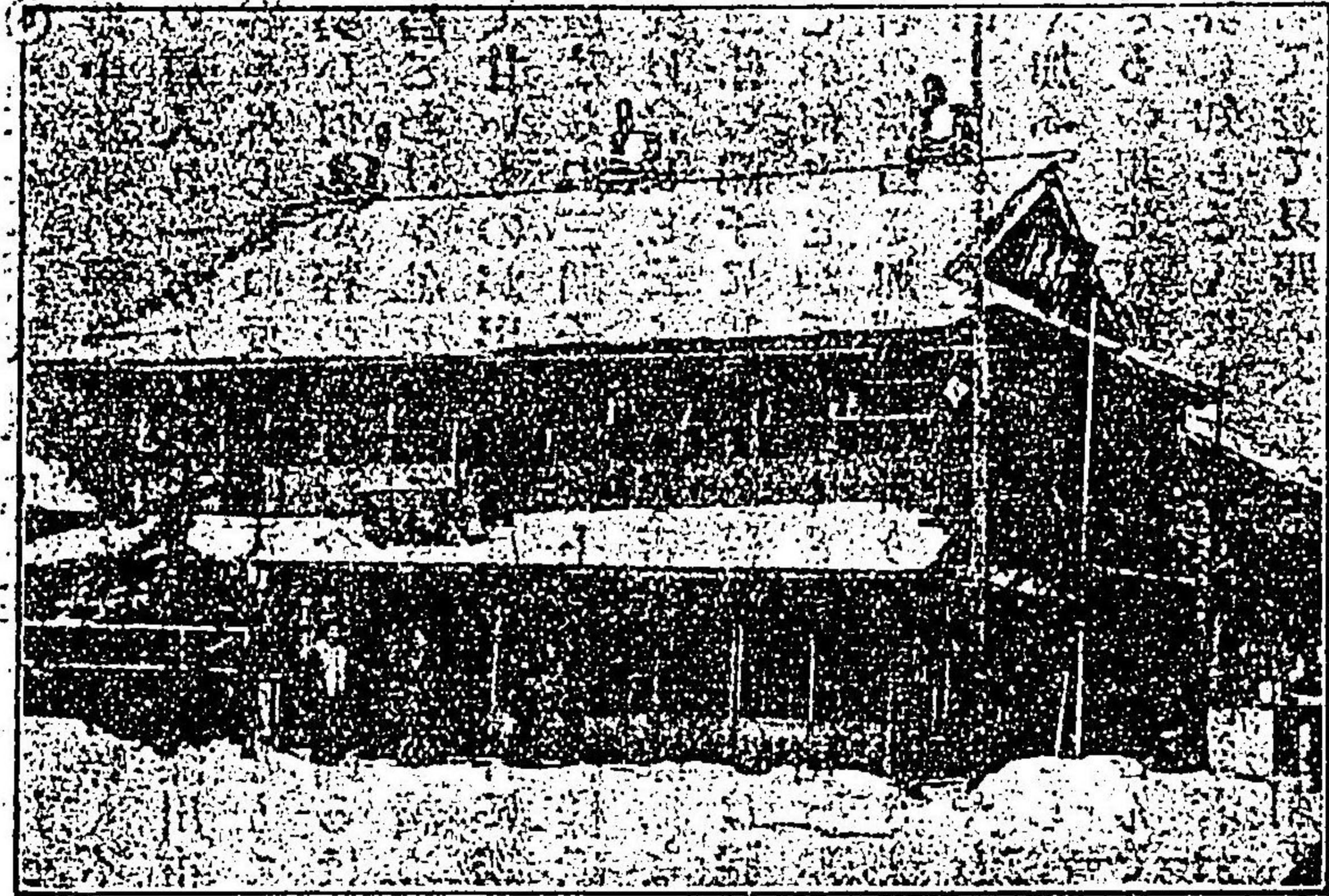


んさと 内軒寶村川深

空知便覧

◎旗亭金上印寶軒、思ひ深川色の途春は深香にうづもれても常時不斷の春はこゝぞと二六時中絃歌の響き絶にざる大繁昌稗も不稗も一度は寶軒に遊ばねば肩身がせまいと深川人士の肩入れ一方ならぬ料亭寶軒は深川市街地仲町にありて和洋御料理の看板に女將きよ子の客を外らさぬ愛嬌が呼びひものとなりて開業日尙ほ淺きに拘らず繁昌をさく、他店を凌がんと勢ひ何れか粹の道飲む食ふ歌ふ踊るほれたはれたに異りなき苦なるに寶軒のみ何に故に繁昌とわけを糺せば扱ても讀めたり讀めたりな先づ第一が客あしらいの町噺第二が價が安くて甘いものが出る果ては包丁の粹に調理の見事ささふしても深川あたり草深い田舎の料理屋ならぬ三調子揃ふた上に粹の神様歌舞の菩薩一笑傾むとまで行かすとも傾家位いまでは受け合ひと云ふ美人春吉小さん雖助なんぞと云ふ細腰連が今晚はと顯はれたが最後乗るは三味の調子に我れから落ちて果ては膝枕位いては承知が出来ぬ三更月を踏ますともそれろこが何れとか手取早くと浮かれ出さぬ客なしとはナト景容に過ぐるかは知らぬを兎に角寶軒の繁昌さ加減驚く計り女將村川きよ子は新潟縣佐渡の生れ明治元年と云へは本年とつて四十の姥櫻なから殘んの色香失せやらぬ愛嬌に内藝者の指揮其他方般の施設に五分の隙なく加ふるに一意遊客の利便を主とし注文以外の品は一品たりとも出さず懇切を專一に暴利ざるの規定は幾多の遊客をして喜んで興を同軒に執らしめ開業月尙ほ淺ふして其の名を斯界に知らるゝに到れるなり何を筆者が入らざる肩入なすと思はるゝ面々は是非とも一度同軒で遊て見賜ふべし色は寶に留め刺すなど、洒れらるゝは受け合ひなり。

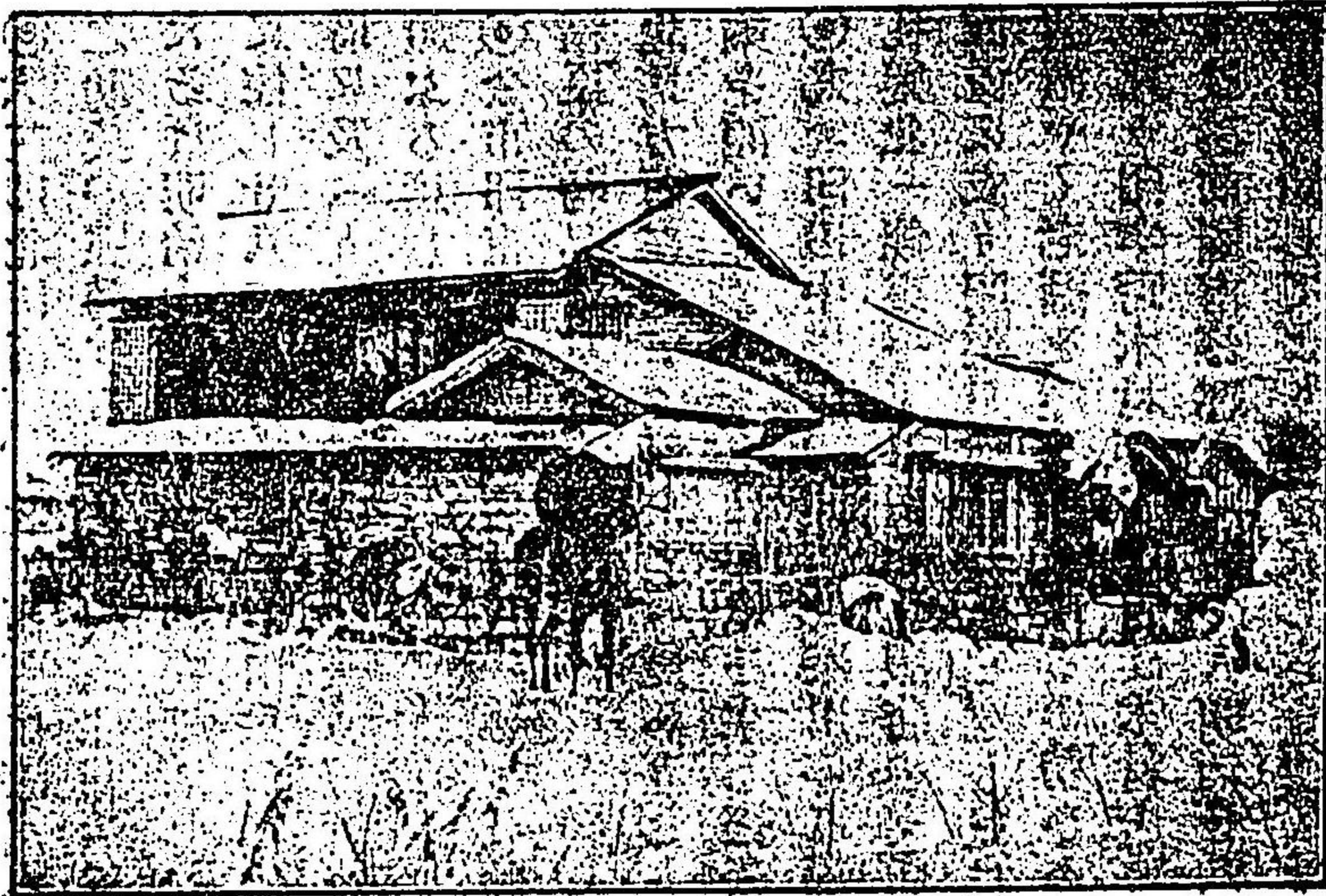




深川村

樓木鈴店料理地街市川深

◎旗亭鈴木樓、上流人士たると中流人士なる  
 とを問はず一杯を汲まんとする必ず足を鈴木  
 樓に運びて吾が家の思ひを爲して興を執るも  
 のまことに同樓の淺酌低唱に適して万事が上  
 品なるに因るとか樓主縣直一郎氏は栃木縣の  
 人嘉永元年宇都宮に生れ其の本道に航せしは  
 明治二十八年にして直に深川に移住し料理店  
 を開く蓋し同氏の斯業に經驗あるを以てなり  
 氏一度斯業を開いてより已に十有餘年其の經  
 營の巧みなると開業の日久しきとは幾多眷顧  
 の客を上流の士に求め同樓風儀の善良なる眞  
 に紳士の游興所たるに恥ぢず従つて同樓抱へ  
 藝妓高助さん子三福など何れも樓主の意を侍  
 し例の三味線枕なすと云ふ怪し氣な事は斷じ  
 てないとの事なり但し花の眞味を知る知らぬ  
 は何れも粹士の腕にありと知らるべし。



深川村

藤佐印大金廓遊川深

◎妓樓金大印、深川遊廓中必ずしも大離とは  
 呼はれざるも解語の花の美しき敢へて大離に  
 譲らず而かも遊興費の廉を以て繁昌をさ  
 第一流の店に劣らざる金大印貸座敷は佐藤桃  
 太郎氏の經營する處なり氏は秋田の人廿二年  
 本道小樽に住してより幾多の業務に従事せし  
 も思はしからず卅三年深川に移住し現業を開  
 いてより機運漸やく熟しトントン調子の繁昌  
 目下小とく(本名門屋とく)小たけ(本名袴  
 田つや)小わか(本名柴村かせ)の三名を抱へ  
 其の待遇の懇切と暴利さるとか呼ひものなり  
 て中店ながら日夜の繁昌加ふるに内藝者小蝶  
 姫さんなるもの、艶なるあり遊客何れも歸る  
 を忘るゝと云へば同樓が更に飛躍を試みて第  
 一流の壘を磨するは敢へて遠き將來にあらざ  
 るべしとの噂とりくくなるは結構の事供也。



◎大三印北田商店、北田商店は深川本西九丁目ありて米雜穀荒物海産物を販賣し北田三之助氏の經營する處なり同氏は明治五年を以て岩手縣九戸郡野田村に生れ其の本道に航したるは明治十四年十一月札幌に着したるを始めと爲す十六年月形村に赴き十九年再び札幌に住し廿八年九月雨龍郡屯田兵の移住すると同時に居を深川市街地に移し現業を營んで現時に及びり氏の營業方針は一意確實を主とし正直を以て業に當るにあらざるを以て顧客の眷顧頗ぶる篤しと云ふ。

◎金市印南商店、同店は荒物雜貨乾物類販賣に兼ぬるに化粧品及び塗物類の卸小賣を爲し精良の物品に富むを以て其の名を知らる店主南助松氏は石川縣の人明治卅一年本道に航し北見方面に於いて計畫する處ありしも志を得ず幾多の辛苦を嘗め卅四年深川に居を定め現業を開いてより次第に順境を來し經營年に共に歩を進め遂に今日の隆あるに到れり。

◎丸善印田中支店、同店は深川停車場通り要衝の地にありて呉服木物類を販賣し有名なる札幌北一條東一丁目田中呉服店の支店なり支店長は兒島助三郎氏同支店や卅九年十一月の設置に成り開業日尙は淺しと雖も兒島氏の勤勉と店員の勵精とは次第に盛大を來しつゝ隆運漸やく老舗を壓せんとするの勢ひあり。

◎丸ウ印宇野木材店、同店は木材店として深川市街地中有數なる商店なり店主宇野伊與門氏は越前國南條郡鹿留村の人明治廿八年深川屯田兵として移住し勸務四ヶ年三十三年木材業を開始してより經營宜しきを得て寸毫も商算を誤らず遂に木材商として深川に於ける巨

商と知らるゝに到れり蓋し氏の取引確實にして正直を主とするは抑も今日を來したる所以ならずんば非ず。

◎植木蹄鐵工場、同工場は深川唯一の蹄鐵工場なり場主植木久次郎氏は廣島の人少壯より志を畜産業に抱き造詣する處深し廿六年本道に航し本道畜産業の狀況を視察し廿九年居を深川に定め現業を開き幾多の利便を斯業者に與へ畜産改良に力を盡して令名高し。

◎金木印木崎待合所、鐵路深川驛を通過せらるゝ人は構内田舎饅頭の呼び賣りに其の名を知り瀧車を深川驛に待つ人は必ず足を留めざるなき繁昌を極むるを木崎待合所と爲す同所主人木崎金二氏は大分縣の人夙に本道に航し幾多事業に従事するあり明治三十年上川鐵道の開通と共に賑を雨龍原野に賤さ卅一年札幌より居を深川市街に轉じ待合所を停車場前に開き田舎饅頭を製造し傍ら果物類並びに煙草類を販賣す其の旅客を遇する親切なると田舎饅頭の美味とは忽ち同待合所の名を噴々たらしめ遂に今日の隆を來せり。

◎丸正印天正樓、和洋御手輕料理を銘打つて天正樓の繁昌さ加減も全くは如才内儀の尾崎とら子の愛嬌に因るとか加ふるに同樓調理のきそは又珍味を以て知られ一寸と御手輕には同樓に限るとの評判サア評判ノとは何にしる結構の事ともなり。

◎料亭江差屋、和洋御料理の看板にきそはの筆の跡もやさしく大入叶の大繁昌之れが開業歲尙は淺き料亭の繁昌かど何れも舌を卷くは深川市街地仲町に於ける江差屋の事なり樓主内田たま子如才内儀の取りまわし其の宜しき爲めなるは勿論大鼓大の印を捺して保証する



處なれど又同様に内蔵者たる小舟玉八愛子なんきの美姫我れ劣らじと振り時々愛嬌が呼びも  
 のとなりての此の繁昌行くなら江差屋を云ふ粹様多しとは結構の事どもなり。

◎金山印料理店、内蔵者の三四名も抱へて一寸と御手輕にきこしめさしむる料亭として知  
 らるゝ金山印料理店は金光源太郎氏の經營する處根が御手輕専門なれば其の價への安き事  
 是れ又驚くばかり従つて金山印料理店の名誰れにも知られ大入大繁昌を極めつゝあり。

◎旗亭丸加印料理店、和洋御料理きそばの看板に客に招きわたしやあなたのをばが好いと  
 計り日夜遊客の足繁く絃歌の聲の聞ゆるも其の管内には二名の菩薩女將森伊勢が指揮の許  
 に客を外らさぬ準備充分なりとか丸加印料亭の繁昌故ありと云ふべし。



和洋銅鐵

打及物

度量衡器

兩龍郡

井出商店

深川市街地



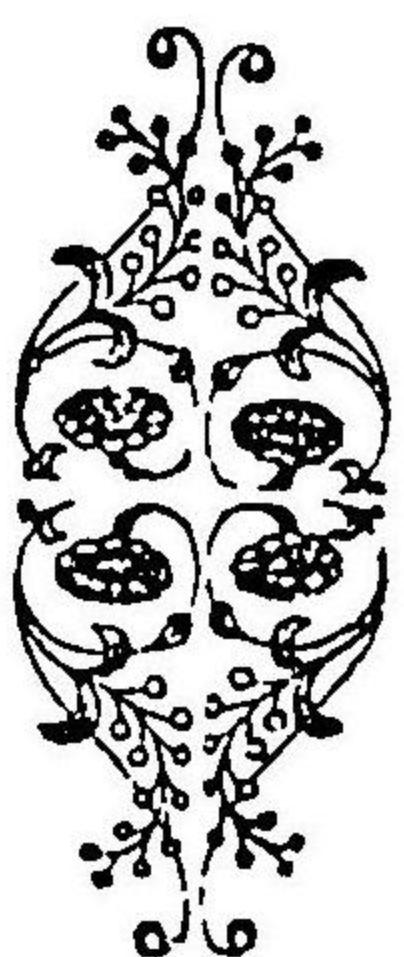
深川村

二百八

處なれど又同樓内藝者たる小舟玉八愛子なんどの美姫我れ劣らじと振り蒔く愛嬌が呼びも  
 のとなりての此の繁昌行くなら江差屋と云ふ粹様多しとは結構の事どもなり。

◎金山印料理店、内藝者の三四名も抱へて一寸と御手輕にきこしめさしむる料亭として知  
 らる、金山印料理店は金光源太郎氏の經營する處根が御手輕専門なれば其の價への安き事  
 是れ又驚くばかり従つて金山印料理店の名誰れにも知られ大入大繁昌を極めつゝあり。

◎旗亭丸加印料理店、和洋御料理きそばの看板に客に招きわたしやあなたこそばが好いと  
 計り日夜遊客の足繁く絃歌の聲の聞ゆるも其の管内には二名の菩薩女將森伊勢が指揮の許  
 に客を外らさぬ準備充分なりとか丸加印料亭の繁昌故ありと云ふべし。



和洋銅鐵

雨龍郡

打及物

△井出商店

度量衡器

深川市街地



森

近頃弊店ノ信用アルヲ羨ミ弊店ノ製品又ハ出賣人ナリト偽稱シ

森

直段等ニ付遠方ノ方ハ端ニ書テ御紹介

# 萬金網製造

- 澱粉用毛網絹網類
- 萬石節曲物類
- 製軸カンソオ用金網類
- 其他農具一式

## 森 森 永 多 三 郎

雨龍郡深川村七丁目

森

各位ヲ欺キ粗製品ヲ商フ者有之由ニ付篤ト商標御認メ置キ被下度候

森

被下候ハ早速直段書送付可仕候

馬具 雨龍郡  
并ニ靴製造  
販賣 深川村

### 植木清一

木材 雨龍郡  
商 深川村

### 若林乙吉

蹄鐵工場  
牛馬賣買

深川村本町六丁目

### 植木久次郎

並ニ鐵冷礦泉販賣

米穀 雨龍郡  
荒物  
雜穀 納内市街地

### 中土谷商店



菓子卸小賣  
製造

雨龍郡

宇高商店

納内市街地

誠實

雨龍郡

阿部旅館

納内停車場前

勉強

荒物雜貨

雨龍郡納内市街地

海産諸品

石川商店

洋酒罐詰

電略(ヤマ一)又ハ(二)

農産賣買



和洋銅鐵打及物



諸金物商



米雜穀



生繭商

雨龍郡妹脊牛村

井出支店



雨龍郡妹脊牛市街地

大浦義秋

電略(カ子イ)又ハ(オ)





土木建築  
請負業  
並ニ  
精米所

雨龍郡深川仲町

長永二郎

建築請負

木材商

雨龍郡

宇野伊與門

深川村仲町

雨龍郡

吳服商  
善田中支店  
太物

深川停車場通り

和洋御料理  
仕出し

雨龍郡深川市街地

山金光料理店

和洋御料理

雨龍郡

仕出し  
正天正樓

きそば

深川村

御料理

雨龍郡

仕出し  
加森伊勢

きそば

深川市街地



覽 便 知 空

深 川 村



氏郎一静町柳村牛脊妹

二 百 九

荒 物 雜 貨  
乾 物 化 粧 品 用  
一 切 卸 小 賣

市 南 商 店

雨 龍 郡 深 川

電 略 (ミ ナ ミ) 又 (ハ ミ)

和 洋 御 料 理  
仕 出 し  
き ぎ ば

玉 江 差 屋

雨 龍 郡

深 川 仲 町



森 川 村



氏 郎 一 静 町 柳 村 牛 脊 妹

二 百 九

荒 物 雜 貨  
乾 物 化 粧 品 用  
一 切 卸 小 賣

南 龍 郡 深 川  
市 南 商 店  
電 略 ( 〇 〇 〇 〇 )

和 洋 御 料 理  
仕 出 七  
さ 終 ば

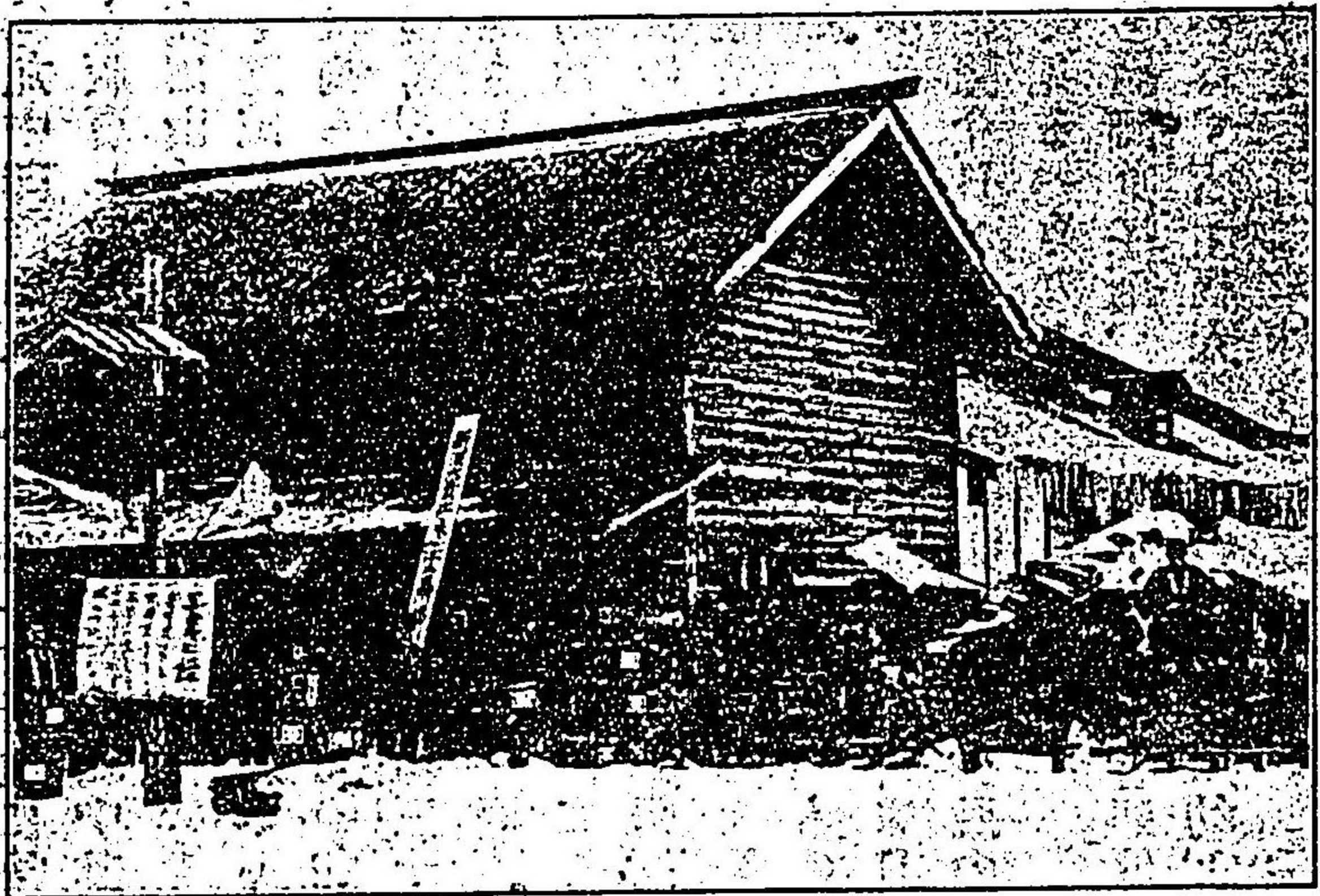
南 龍 郡  
深 川 仲 町  
玉 江 差 屋



◎柳町静一郎氏、柳町氏は妹脊牛市街地に去嘯するは尙ほ潤れたるに水あるが如し寔に氏は妹脊牛の先覺にして妹脊牛市街地の今日ある氏に負ふ處尠少にあらざれば也氏明治三年を以て越後長岡に生る家世々士林に列し長岡藩士たり氏明治二十年長岡中學を卒業し更に笈を擔ふて東都に出づ研學四星霜偶々先進某氏より北門開拓の急切なるを聞き慨然筆硯を擲て本道に航し雨龍郡組合華族農場に入り農業見習ひを爲す廿六年札幌第一農園に學んで幾多農業の智識を習得し同年未現住所妹脊牛に居を定めて獨力開墾に従事す蓋し同地は菊亭侯爵の所有地なりしを氏の先輩前代議士森源三氏等の盡力に依りて其の幾部分を割き氏之が經營の衝に當りしなり斯くして氏は次第に其の名聲を知られ卅二年選ばれて深川村戸長に任せられしも仕官は氏の志に非ず在職一年にして任を辭し閑雲野鶴を友とし依然農耕に従事す日露の國交破れ國家の興廢此の一戦に決するや奉公の至誠燃ゆるが如きの氏何をか躊躇せん進んで今井氏と合議する處あり酒保を擔任して旅順奉天等に轉戦し卅九年凱旋してより又舊草廬に鋏鋤を友にするの身となり農耕の傍ら改良木炭の製法に従事し孜々として倦む處を知らず其の一村の發達に貢献し公共の力を盡すの結果は徳望となり村會議員に選ばれ現に其の職にあり氏の家又家傳の仙藥小兒五疳丸を製造販賣す同藥品は延享年間より柳町家に傳はりたる秘藥にして効驗の著しき仙藥たるの名に背かずと云ふ吾人は氏の如き名利の念に淡く地方の發達に貢献する人士に服するものなり本道の如き殖民地にありては氏の如き人格の人を要す殖民地の發達と進歩とは氏の如き人格の人の力に俟たざる可らざれば也。

深川村

二百七



深川村

妹脊牛高田酒造店

### 銘酒

●黄 金 印

醸造販賣

●神通川 印

米雜穀繭肥料商

石狩國雨龍郡妹脊牛  
**中** 高田由次郎商店

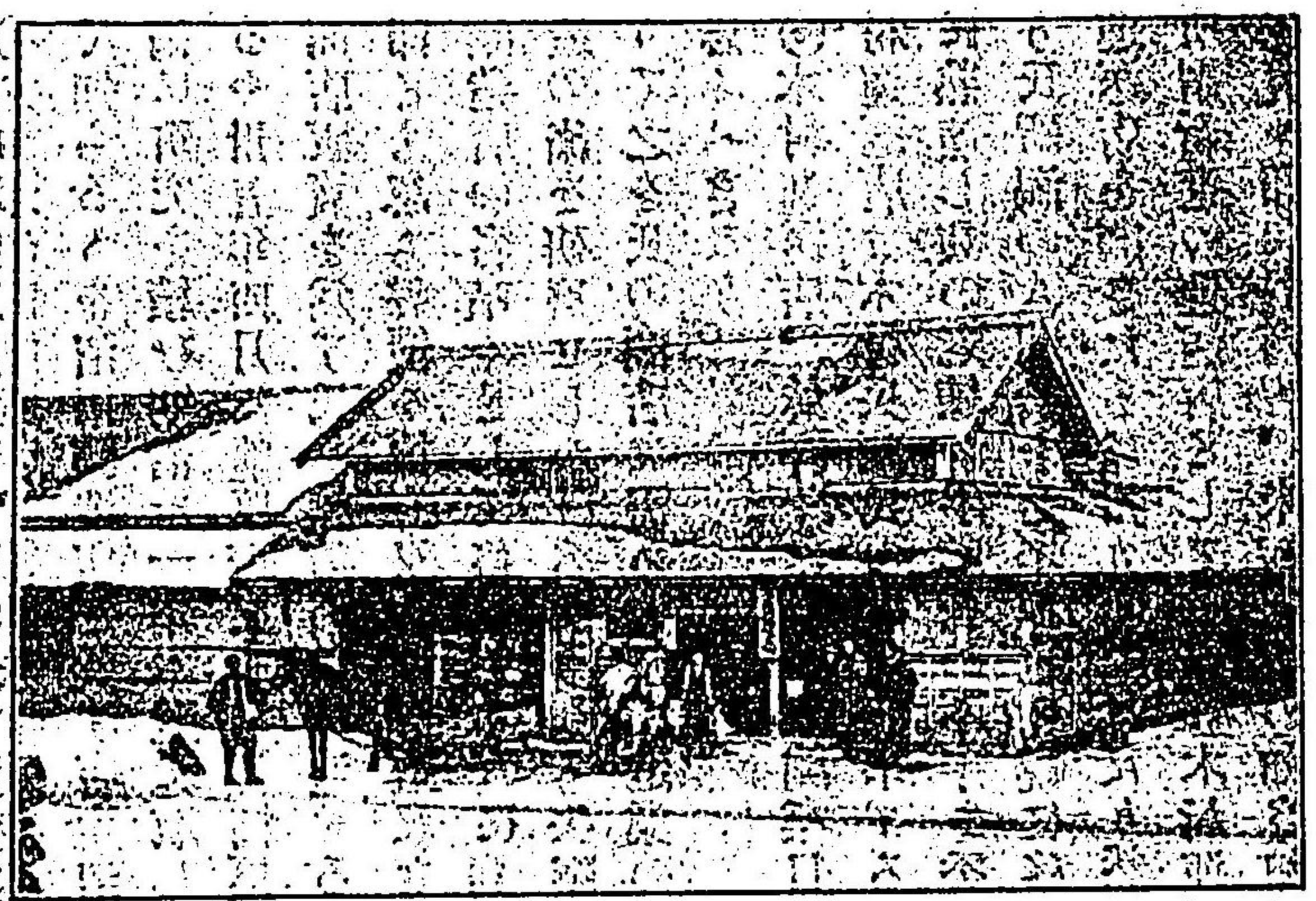
電器(ツカ)又ハ(タ)

二百十一



◎丸中印高田商店、妹脊牛市街地に於ける唯一の清酒醸造店として知られ併せて米穀肥料を販賣し取引盛大業務隆盛市街地中其の名を知られざるなきを丸中印高田商店と爲す店主高田由次郎氏は富山縣の人明治三年を以て越中東岩瀬港に生る岩瀬の人士由來氣剛に四海を踏破し雲煙萬里の地に功名を爲さざれば止まざるの概あり是れ岩瀬が僻遠の一小地たるに拘らず名ある所以なり高田氏此の如き地に呱呱の聲を擧げて又岩瀬人士たるに恥ぢず郷國に踴躍するを陋なりと爲し明治三十年本道に航し徒手空拳より起つて新開地に別天地を爲さんるを期し刻苦勵精五星霜此の間資を積み財を貯へ卅五年八月妹脊牛に移住して現業を開始す醸造業たる其の清酒と醬油とを別たす畜に巨資を要するのみならず又熟練を要す此の如き至難なる業務を選んで經營些の錯誤なく自ら先勞働に従事し衆を督して清酒を醸造し銘を黄金及び神通川と題して發賣す氏の奮勵と勤勉とは是等二銘酒に顯はれ芳香の烈風味の醇清酒として眞に上々のもの而かも氏價格を貪らず薄利を主として之を販賣し傍ら米雜穀肥料の販賣に従事し經營日あるなし斯くして五年の歲月年と共に隆盛を來し遂に隆今日あるの現在を來せり氏少壯の身を以てして成功此の如き大なるあり前途の隆期して見るべきなり。

◎廣瀬菓子舖、妹脊牛下戸黨の眷顧厚く菓子舖として隆盛を來しつゝあるを廣瀬氏の店舖と爲す店主福太郎氏は香川縣の人幼より斯業に身を托ね其の妙を極む廿九年父秩別屯田に移住し卅二年妹脊牛に菓子舖を開き聲價九い印の屋號と共に高く現在に及べり。



妹脊牛沼田醬油醸造店

深 川 村

壹 等 醬  
松 油  
和 味 噌

釀 造  
販 賣

並ニ 粧 製造販賣

和 沼田 伴次

電略(〇ワ)又ハ(ワ)

雨龍郡妹脊牛村



◎丸和印沼田醸造店、醤油味噌醸造業に兼ぬるに桃製造を以てし妹脊牛有數の醸造店として知らるゝを沼田醸造店と爲す店主沼田伴次氏は香川縣愛歌郡栗熊村字行末の人夙に醸造術に研究を積む明治卅一年本道に航し妹脊牛に移住し親しく農耕の業に従ひ多少の資を得るや卅五年四月雨龍原野に産する精良なる原料を以て醤油醸造業に従ひ卅六年十二月より開店販賣を爲す氏が醸造術に精通すると醸造に忠實なるとは一番醤油白雪印二番醤油丸和印とも忽ち聲價を博し又其の醸造にたる味噌丸和印同じく聲價を博し需用月に加はり沼田醸造店の名噴々として傳へらるゝに到れり氏此の小成に安んぜず益々原料を精選し愈々醸造の術を研磨せしかば名聲少しも失墜せず需用年と共に擴く妹脊牛附近は勿論遠近來り集りて之を氏の商店に需め遂に醸造業の隆第一を以て推さるゝ現在を來せり氏の得意想ふて思ふべきなり。

◎木村運送店、妹脊牛に於いて開業日尚は淺きも業務の隆新進の運送店として知らるゝ木村運送店は木村兵藏氏の經營主宰する處たり氏は明治十九年以來斯業に従事し貨物取扱ひに熟達し其の老練の手腕些の不平を委託者に與へず幾多の代理店を兼ね貨物輻輳しつゝあり氏新潟の人明治十七年本道札幌に移住し廿七年深川に轉住し卅四年更に妹脊牛に轉住し運送店を開きたるは卅九年二月たり然れども業務に熟達すると貨物取扱ひに親切なるとは所謂新進の運送店として知られ木村運送店の名隆々として傳へらる。

◎丸や印魚谷商店、米穀肥料の如き相場の昂騰下落常なき商業に従事する者は尤も敏腕にして大膽ならざる可らず妹脊牛市街地此の如き商業を経して其機を見るに敏なる相場の變動に處して大膽なる模範的商人と稱せらるゝは唯だ魚谷彌一郎氏あるのみ而して魚谷商店は氏の主宰する處なり氏石川縣の人明治十一年五月加賀國江沼郡に生る明治二十六年氏や僅に十六歳の身を提して本道に航し小樽に札幌に親しく辛酸を嘗めて米穀業に經營を積み天賦の敏捷を磨き卅一年五月廿一歳の弱年を以て妹脊牛に獨立し米雜穀肥料販賣業に従事す自來の經營着々商機を算し如何なる相場の激變に逢ふも商畧を誤らず雨龍全郡斯業者間第一の年少者たる身を以てして經營の妙隆運月に加はり信用年と共に高く同郡雨龍橋詰に支店を有するの盛大を來し今や數名の雇人を使役し國稅一百二十圓餘を納稅し模範的商人と稱せらるゝに到れり年少此の一大成功あり氏が雨龍全郡の大商人として更に飛躍を試むる敢へて遠き將來にあらざるべし。

◎山ヨ印山本商店、米穀荒物雜貨商に兼ぬるに生薑乾燥所を以てし妹脊牛に名あるを山本商店と爲す店主平吉氏は新潟縣の人嘉永三年を以て新潟縣北魚沼郡小千谷町に生れ其の本道に航したるは明治廿四年なり自來各地の状況を視察し廿七年深川に移住し廿九年更に妹脊牛に移轉して現業を開き孜孜として倦まず餘力を妹脊牛の發達進歩に踐む村會議員に舉らるゝ事卅七年より八年に及び衆庶の信頼を得家業の隆を極め自ら生薑乾燥器を備へて之を督勵する業妹脊牛有數の人物として其の名を知られつゝあり。

◎妹脊牛醫院、妹脊牛市街地幾百の住民が枕を高ふするもの寔に妹脊牛醫院の存在するが



爲めなり院長は山田忠常氏明治六年鳥取市に生る夙に刀圭界に名を爲さんを期し勉學怠らず中學を出で更に笈を東都に負ひ濟生學舎に學び明治卅五年同舎を卒業し開業醫たるを得卅七年六月妹脊牛に門を張り内外科一般の診療に従事す其の患者に接するの親切と診察の巧とは忽ち住民の信頼を博し遂に現在の隆を來して名聲噴々たり。

◎丸丈印芝崎商店、妹脊牛市街地に和洋馬具製造卸賣併び靴製造業に従事し幾多の利便を住民に與へ其の名を知らるゝを芝崎商店と爲す店主丈助氏は和歌山縣の人明治十二年を以て紀伊國三川村に生る明治二十八年屯田兵と共に雨龍郡に移住し卅四年十月現住所に現業を開く其の營業の確實にして顧客の注文に對し期日の約正確なるとは忽ち闔村の信用を博し業務の隆卅九年十一月天摺國上川郡風連に支店を設けし福玉健助氏をして支店長たらしめ本店と同一の物品を販賣するの順況を來し以て現在に及び將來益々發展せんを畫し同業氏の右に出づるもの少なし又盛なりと云ふべきなり。

◎○△印吉田運送店、吉田運送店は妹脊牛市街地に於ける唯一の運送店なり妹脊牛停車場前の好位置に位し貨物の取扱ひ親切と迅速とを以て知られ北海道早達組代理店上川倉庫會社代理店丸福合資會社代理店內國通運會社代理店札幌共同運送組代理店共立栗山組代理店早達組代理店の七會社代理店を兼ね信用の路比肩するものなし店主吉田吉三郎氏は福井縣の人明治十年を以て生れ廿七年本道に航し幾多の辛酸に耐へ經驗を積み卅八年六月妹脊牛に移住して現業を開いてより其の勉勵遂に今日の隆あるに至れり。

◎金イ印大浦商店、米穀農産物雜貨類を販賣し幾多同業者間に信用厚く取引盛大なるを大浦義秋氏の商店と爲す同氏は富山縣の人にして明治三十年本道に航し雨龍郡北龍村に於いて農業に従事し自ら鋤鋤を執て耕耘の業に従ひ開墾成功を了するや之を小作に托し卅七年妹脊牛に出で、現業を開く氏人となり醇朴にして一意正直を本旨とせしかば取引は確實となり信用は高く星霜僅に四星霜にして信用隆運共に老舗を凌ぐの現在を來せり。

◎山一印井出支店、同店は金物類一手販賣店として妹脊牛に知らるゝ商店なり店主井出新次郎氏は甲州の人明治卅六年本道に航し直に妹脊牛に移住し同年四月現業を開きたるものにして同業者少き同地に廉價を以て良品を販賣し住民何れも其の利便に浴せざるなく殆んど獨歩獨占の盛況を招きつゝあり。

◎柳澤菓子舗、妹脊牛に來る物にして柳澤菓子舗製造のせんべいを知らざる者なく札幌人土と雖も之を求めて家土産と爲す名聲を博しつゝあるもの同舗主人源治郎氏の幾多菓子製造は特にせんべい製造に妙を得たるに依る卅一年以來の開業にして妹脊牛村中の老舗として知らざるものなし。

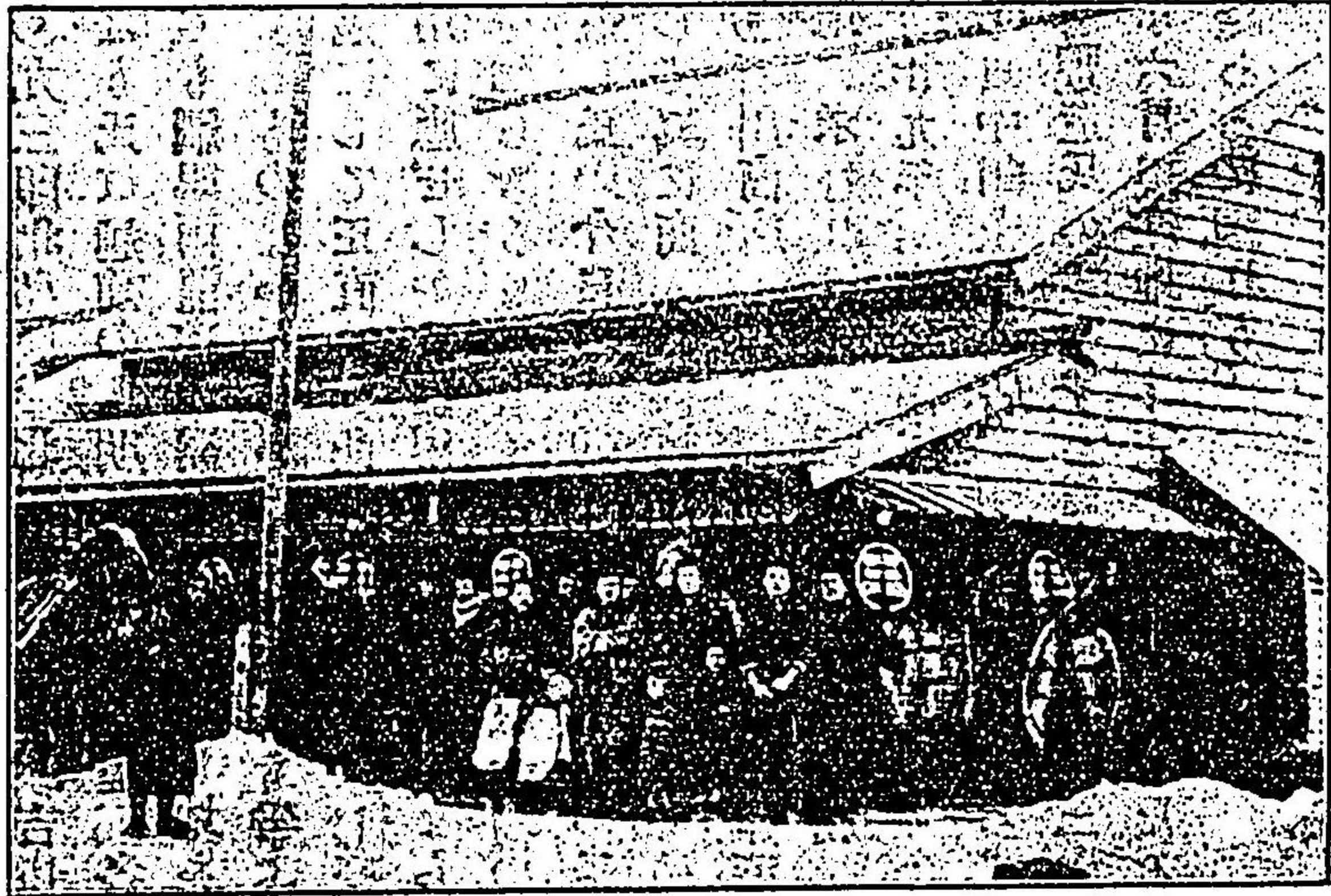
◎カ印高橋旅館、妹脊牛停車場前に於いて待合所に旅館を兼ね旅客の利便を來しつゝあるを高橋旅館と爲す館主高橋君太郎氏は伊豫の人廿八年妹脊牛に移住し卅二年運送業に兼ねるに待合を以てせし後ち運送業は之を他に譲り目下は旅館に待合所を兼ね懇切を以て其の名を知られつゝあり。



◎料亭喜樂亭、名からしての喜樂なれば遊んで面白からぬ筈なく御手輕専門の和洋料理輕便が呼び物と爲つての繁昌なれば一寸と一杯と思召す人には同亭を御進め申すものなり面白ければウント散財さるべく尤もするとせぬとは皆様方の御隨意く。

一 已 村

一已村は雨龍全郡中深川村に亞く大農村にして戸數一千二百二十餘戸人口六千六百餘人其の沿革は深川村と同一にして固と組合華族農場に屬し深川村の一部分たり廿七年納内に百戸の屯田兵一已に二百戸の屯田兵移住し次いで翌廿八年附近一般の土地貸下を爲し移民を招致せしかは忽ちにして戸口増殖し其の地味の豊肥なる農産物の精良なるを納内に停車場の設けられ交通の至便なるとは年毎に移民を招き明治三十四年十月深川村より分離し獨立して一已村となり納内市街地を包轄し卅九年四月二級町村制を施行され以て今日に及べり村長は石山九八郎氏克く自治の衝に當り其の侵にたる發達は敢へて深川村に譲らず昨年度即ち卅九年度町村費総額の如き一万八百九十餘圓を算し深川を凌駕しつゝあるの状況たり今し納内市街地に於ける重なる商家を紹介すれば左の如し。



雨龍郡納内市街地 北島屋吳服店

太 吳  
物 服  
商

雨龍郡納内市街地

③ 北島屋吳服店

電話(〇三)



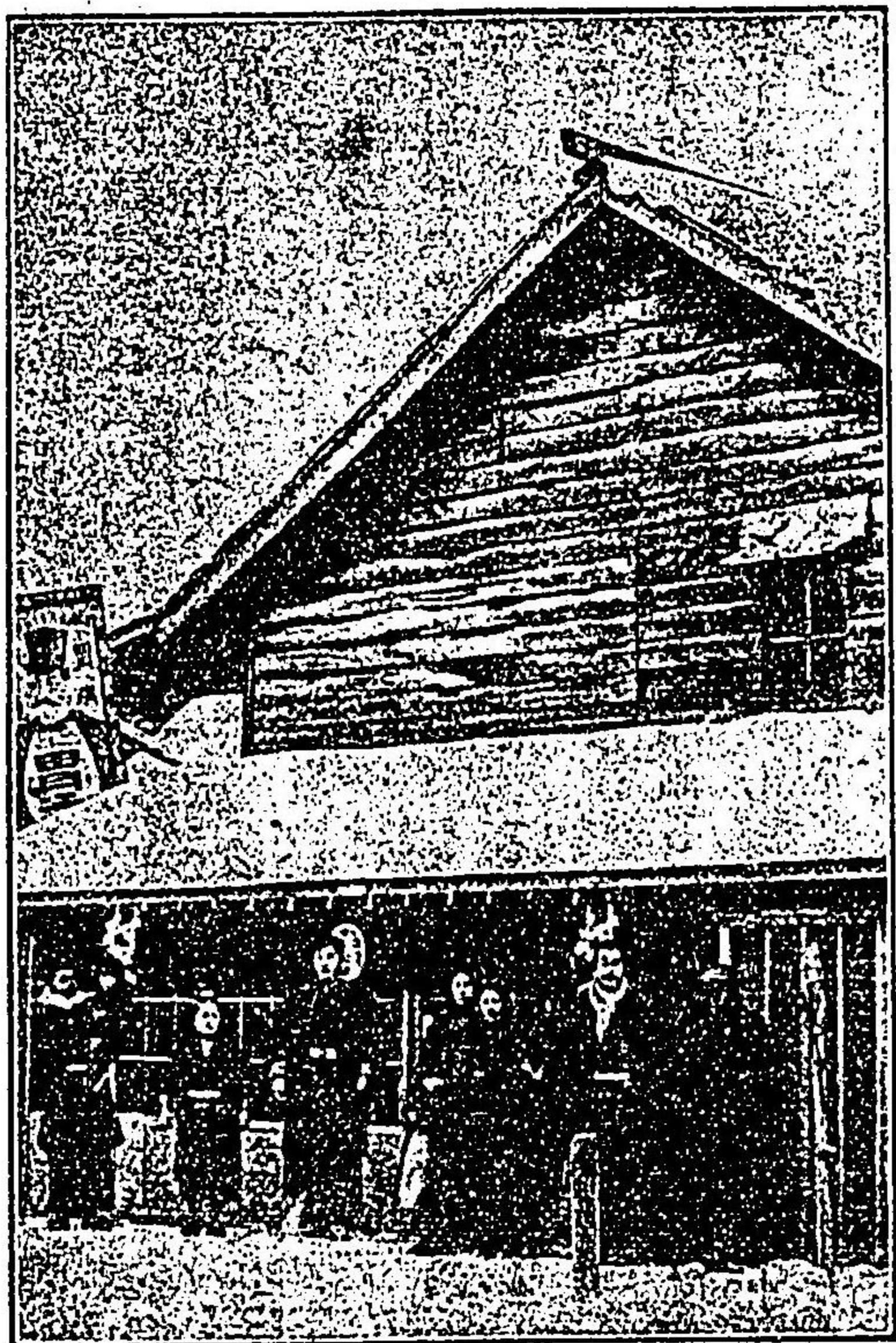
一 巳 村

二百二十

◎九三印北島屋、北嶋屋は島崎政吉氏の經營する吳服商店にして納内市街地に於ける老舗なり氏は越前の人明治廿八年雨龍郡各村に屯田兵の移住し併せて一般移民の移住するや早くも爛眼雨龍郡の開發進歩を下し地を納内に相して吳服太物業を開始す當時同業者の開店するものなかりしかば移民何れも争ふて氏の商店に來集し忽ちにして隆盛を來せり氏の勤勉にして正直なる此の如き機に乗じ毫も暴利を貪らず一意薄利を主とし品質を精選して需用に應ぜしかは信用益々高く暮年ならずして基礎を堅ふせり今や一巳全村を通じて北島屋を知らざるものなく苟くも吳服太物の良品を得んとする之を氏の商店に求めざるものなし蓋し氏の今日の成效と隆盛あるもの最上の商略は正直にありとの格言を遵守したるものにして眞に商人の模範なりと云ふべく後に事を爲さんとするもの、範なりと云ふべし。

◎石川商店、雜貨荒物海産物其他洋酒罐詰類及び農産物を販賣して名ある商店を納内市街地に求むれば先づ指を石川商店に屈せざるを得ず店主石川巳之助氏は香川縣汐木港の人明治廿九年納内に移住し現業を開いて今日に及びたる物にして老舗として知らる。

◎角中印土谷商店、開業月久しからずと雖も米穀雜貨荒物業を營んで名ある土谷商店は土谷豊造氏の主宰する處同氏は明治三十三年漣川村に移住し更に納内將來の發達を下し卅九年六月現住地に移住し現業を營みたるものにして新進の銳氣遂に其の名を知られて現時の隆あるに到れり。



雨龍郡納内市街地 村上吳服店

# 吳 服 太 物

雨龍郡納内市街地

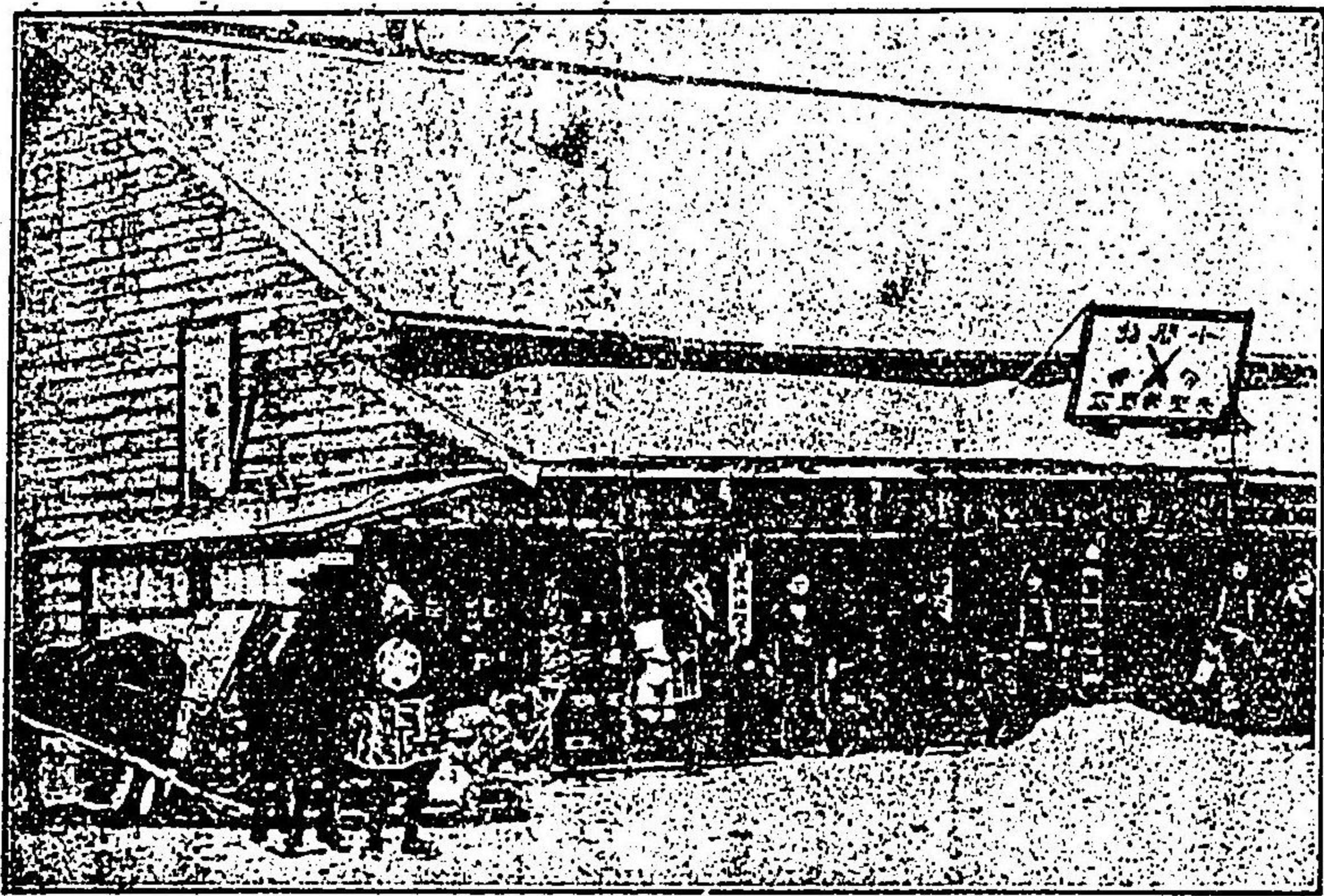
# 村 上 清 商 店

電話(セ)〇又(セ)ハ



◎丸清印村上吳服商店、吳服太物商店を開き開業月尙ほ淺きに拘らず盛大敢へて老舗に劣らざるを村上吳服店と爲す店主村上清松氏は越前の人明治十一年越前國吉田郡吉野村に生れ北門守備の急務を感じ明治廿九年屯田兵の徵募に應じて雨龍郡納内に移住し其の義務に服し兵農の業に従ふ五ヶ年期滿つるや直に運送業に従事し得る處少なからず明治三十七年日露の國交破れ兵火相見ゆるや氏慨然死を決し運送業を廢止し一意動員の下るを待ち第七師團の出征するや氏又軍に従ひ旅順の要塞戰に奉天の大會戰に鐵嶺の追擊戰に到る處奮戰殊巧を奏し幸いに無事身を全ふして凱旋し論功行賞の舉あるや氏殊勳中の殊勳を以て名譽ある金鷄勳章を叙與され譽れを全村に舉げ闔村皆な氏の功を湛ゆ而かも氏の謙讓なる真に大和男子の眞面目を辱めずして毫も誇るの色なく卅九年八月現業を營み昨は劍鋭を以て彈雨裏の勇士今は牙籌を算して孜々倦せざるの商人となり經營の功を確實なるとは次第に信用を博し開業日尙ほ淺きに拘らず遂に老舗を凌ぐの盛大を示し名聲全村に噴々たり氏の如きは洵に勇猛中の勇士として傳ふるに足るの人物と云ふべきなり。

◎宇高菓子舗、同菓子舗は納内市街地に於ける有數なる菓子舗にして卸小賣とも盛大を示しつつあり店主宇高荒吉氏夙に斯業に熟達し製造技術の妙を以て知られ如何なる種類の菓子と雖も風味佳良濃淡宜しきをを得るを以て下戸黨の賞讃一方ならず遂に現時の隆を來し屈指の菓子舗たるに到れり。



雨龍郡納内市街地 矢野荒野物店

◎丸矢印矢野商店、納内市街地に於いて荒物業に兼ぬるに小間物業を以てし賣品の精良なると嶄新なる流行小間物品に富むを以て名あるを矢野商店と爲す店主矢野淺次郎氏は香川縣の人明治三年を以て同縣下木田郡奥鹿村字鹿庭村に生る本道屯田兵募集の舉あるや氏北門守備の忽にすべからざるを了するを本道移住は其圭志なるとに依り決然其の募りに應じ明治二十八年五月納内屯田兵として納内に移住し兵農の勤めに従事する幾星霜期滿るや三十五年より現業を開き孜々として倦まず顧客に對する懇切に一意廉價を主として良品を販賣せしかば矢野商店の名忽ちにして知られ隆盛月に加はり遂に今日の盛大を來せり而かも氏尙ほ安せず一意世の流行品を備て遅れざらんを期し益々業務の盛大を來しつつあり。



北 龍 村

二百二十四

◎角三印阿部旅館、同館は納内停車場前に在りて管に旅客に至便を來すのみならず其の設備の完き納内第一の旅館たり館主阿部金平氏夙に斯業に經驗あり納内に移住してより現業を開き遂に第一と稱せらるゝ現時を來し懇切と廉價とを以て其の名益々高し。

北 龍 村

北龍村は明治三十二年五月雨龍村より分村獨立したる農村にして延長實に十四里を算するの大村なり戸數六百七十八戸人口三千五百餘人其の大部分は本願寺農場に屬し地味肥沃なるを以て尤も有望なる農村として知らる未だ戸長役場制度の許に自治制の施行を見ずと雖も遠からざる將來に於いて之か施行を見るべく左に同村重なる商家其他を紹介せん。

米 穀 荒 物

其 他 雜 貨

雨龍郡北龍村

夕 川 崎 且 藏

電略(カワ)又(ハカ)

米 穀 荒 物

其 他 雜 貨

卸 小 賣

中 畑 恒 治 郎

雨龍郡北龍村



吳服 太物 古着 貸物 小間物

夕張郡由仁市街地

㊦ 外山信治

御菓子製造

おろし小賣

夕張郡由仁市街地

㊧ 永谷商店

電略(〇二)

席即 御料理



夕張郡由仁市街地

㊨ 花月亭

御菓子製造所

卸小賣

夕張郡由仁市街地

㊩ 山京堂

山口京松

◎鮮魚 ◎荒物  
◎精酒 ◎雜貨

夕張郡由仁市街地

㊪ 田中虎藏

電略(タナカ)又ハ(タ)

席即 御料理

夕張郡由仁市街地

㊫ 喜月亭



和洋小間物  
學校用品  
下駄類

夕張郡長沼村市街地

高久慶三郎

米穀荒物  
清酒雜貨  
商

夕張郡長沼村市街地

藤原與治郎

電器(カクヨ)又ハ(カ)

各貨物取扱

北海道空知郡  
瀧川村字空知太橋詰

南運漕店

店主 南 外吉

砂川村字砂利場

砂川出張所

主任 居嶋末松

和洋藥種各國高名賣藥  
醫療器械理化學工業藥品  
和洋石鹼小間物化粧品  
洋酒罐詰農產種子釣道具  
學校日用品並ニ教科書  
和洋紙罫紙諸帳簿及文房具

石狩國雨龍郡北龍市街地

那須藥舖

電信略號(ナス)又ハ(ナ)





雨龍郡北龍市街地

越中屋旅館

電略(〇ウ)又ハ(ウ)

澁谷卯吉

荒物海産

雨龍郡

酒醬油

齋藤勇助

北龍村

小間物

吳服 太物 洋物 小間物

松宮豊三郎

夕張郡

長沼村市街地

菓子

夕張郡

製造

佐々木米吉

長沼村市街地

卸小賣

吳服

夕張郡由仁市街地

太物

越後屋

洋物

渡邊英次郎

金物

瀬戸物 荒物

魚類

夕張郡由仁市街地

鹽澤彌平

電略(カチマス)又ハ(マ)

諸農具製造販賣

高坂留吉

夕張郡由仁市街地





吳服太物  
洋物小間物  
肥料農具



河井淺次郎

夕張郡長沼村市街地

電略 (マ)

米穀荒物  
味噌麴製造

金栗尾高次

夕張郡長沼村

電畧 (タカ)



北龍村 保倉三五郎

北龍村

二百二十五



北 龍 村



北 龍 村 保 倉 三 郎

二 百 一 十 五

吳服太物

洋物小間物

肥料農具



河井淺次郎

電話 〇三三

夕張郡長沼村

米穀荒物

味噌麴製造

企栗尾高次

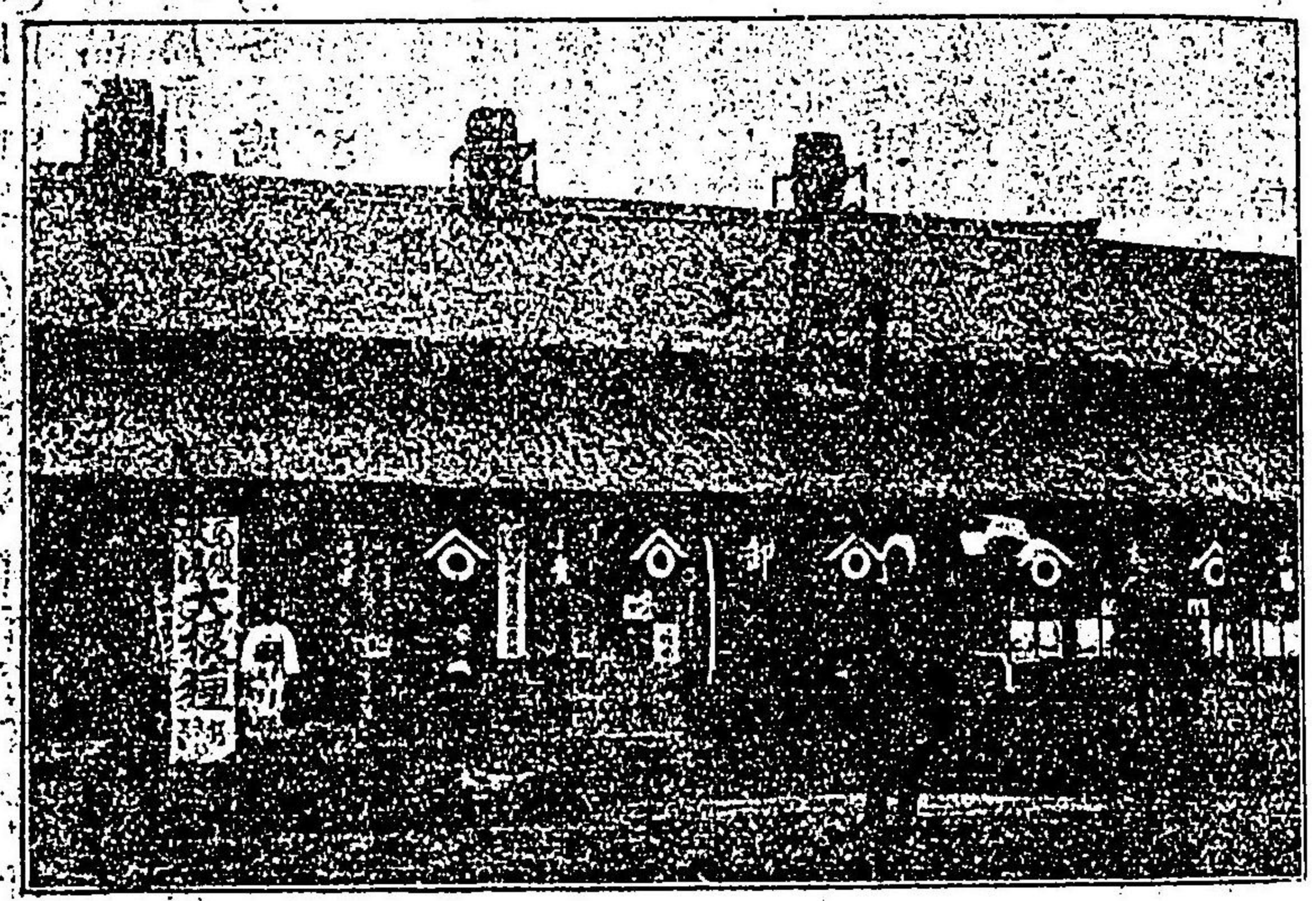
電話 〇三三

夕張郡長沼村



◎北龍醫院、北龍醫院は北龍村に於ける唯だ一の醫院にして北龍幾百の住民依て以て枕を  
 高ふする處院長保倉五三郎氏は越後の人慶應元年二月を以て中蒲原郡白根町に生る先老保  
 倉直重氏英邁にして大義を持し維新革命の時勤王の大義を鼓吹し東奔西走國事に盡瘁し又  
 家産を顧みず維新後職を開拓使函館支廳に奉し氏又考に従ひて渡海す氏幼にして穎悟長す  
 るに及び學を醫學に修めて名を爲さんを期し明治十五年郷里に歸り新潟醫學校に入る氏の  
 先老は國事に盡瘁して家産を蕩盡し加ふるに清廉潔白古武士として金錢を顧みざりしかば  
 氏は學資に窮し一時退學の止むなきありて歸道せしも醫家たらんとするの素志は爲めに屈  
 せず先老の知人余市の興水氏函館の藤野ドクトル等氏の素志を賞せざるを感じ資を出して  
 氏の成效を告げしめんとす氏感激措く能はず直に笈を東都に負ひ濟生學舎に入る時に明治  
 二十二年たり自來氏の勉學衆に秀で首尾よく濟生學舎を卒業し開業醫となり各處に幾多の  
 實驗を積み卅三年北龍村の村醫を囑託さるゝに及んで同村に開業し以て今日に及びり氏や  
 斯くの如く苦學して其の志を達したるを以て斯學の造詣頗ぶる深さのみならず人となり活  
 淡にして一視同仁醫の仁術たる所以の本旨を發揮せらるゝを以て村民何れも悦服せざるも  
 のなく名聲全村に噴々たり

◎齋藤商店、同店は荒物雜貨小間物瀬戸物類の販賣に兼ぬるに海産物を以てし價格の廉な  
 るを以て北龍に知らる店主齋藤勇助氏は富山縣の人明治二十七年本道に航し北龍村に移住  
 して農耕に従事し卅二年より現業を開き其の黽勉其の正直依て以て現時の隆を來せり。



雨龍郡北龍村 松島吳服店

吳服

太物

松島商店

雨龍郡北龍村

電話(マツ)又(ハマ)



◎山○印松島吳服商店、同商店は北龍村隨一の吳服商店にして苟くも吳服太物類に關する物品は如何なる物と雖も備はらざるなく加るに最新なる流行品に富むを以て有名なり店主松島和七氏は越後の人高岡市に生る明治三十一年本道に渡航し地を北龍村に相して移住し携ふる處の資本を投じて吳服太物業を開始し兼ねるに雜穀店を以てす然れども雜穀業は氏に適せざりしか抑も又機運の熟せざりしか開業當時の卅一年より卅四年まで四ヶ年間年々一も利する處なく損失に損失を重ねしかは氏も又悟る處あり斷然雜穀業を廢止し専ら力を吳服店の經營に盡し其の隆を計りしかは次第に信用を博するに到れり氏更に奮勵し萬事を産物仕込と爲すのみならず産地の選擇に意を踐さしかは良品を廉價に販賣するを得て愈々顧客の利便を來し名聲隆々として全村に知られ現時の隆あるに到れり凡又力を北龍村の公共事業に盡し北龍の發達に貢献したる功勢少なからず嘗に商店の隆を以て知らるゝのみならず北龍村有爲の人物として村民の尊敬を受けつゝあり。

◎金々印川崎商店、北龍市街地中幾多商家の内米穀荒物雜貨を販賣し傍ら干魚類を營業し賣品の良を以て知らるゝ川崎商店は川崎且藏氏の經營する處川崎氏は九州の人明治七年を以て熊本縣八代郡川原町に生る明治二十二年本道に航し札幌に居を定め製麻會社に入社し勤續十年餘の久しきに及ぶ此の間節約以て資を貯へ雨龍郡一己村に轉住し獨立水車業を營む而かも意を滿す能はず三十五年更に北龍村に轉居し現業を開く自來順境を來し經營の巧と相俟て信用高く次第に名聲を全村に知られ現時の隆あるに到れり。

◎丸一印那須藥舖、同藥舖は北龍由一の藥店にして至大なる利便を村民に與へつゝあり店主那須秀春氏は秋田縣の人明治三十三年本道を歴遊し足を北龍村に留め現業を開き今日に及びたるもの氏や由來皇典講究所の卒業生にして神官たるの資格ある人なりと云ふ。

◎丸中印畑商店、米穀荒物雜貨類を販賣し北龍村に名ある一として知らるゝを畑商店と爲す同店主畑治郎氏は富山縣東礪波郡の人明治七年十二月渡道北龍に移住し現業を開き經營今日に及びたるものにして同業中推されて老舖の稱あり従つて取引確實にして信用高く盛大を極めつゝあり。

◎丸ウ印越中屋旅館、北龍市街地に於ける隨一の旅館として知らるゝを越中屋旅館と爲す館主澁谷卯吉氏夙に斯業に經驗あり一度北龍市街地に現業を開いてより經營の巧次第に名聲を博し待進の良愈々信用を來し遂に北龍隨一と稱せらるゝ現時の隆を來せり。

### 秩父別村

秩父別村は東北に小丘を負ひの一己村の連山を望み雨龍川東より來りて北龍村との境界をなして西南に流れ東方一帯大平野を隔て、深川村に相接し廣袤五里道路縱横交通至便なるのみならず地味肥沃にして大農村たる實質を備ひ明治廿八年初めて屯田兵の移住を來し廿九年深川村戸長役場の管轄に屬し字秩父別と稱せらる廿九年稻作の試作成績良好なりしかは灌漑用水引用の計畫を爲し水源探查を爲し字瀧の上之を發見し卅四年共同勞役に服する規約に依り水際開墾工事に着手してより秩父別の地俄然として一般移民を招き同年十一



雨龍村、栗澤村

二百三十一

月深川村より分離獨立して秩父別村となり戸長役場を設けられ卅四年尋常高等併置の小學校を設け翌卅五年郵便局設けらるゝ等侵々として發達し卅七年幾多の困難を排して灌漑溝工事落成し幹線延長實に七千九十七間餘其灌漑し得べき段別六百町歩を算するに到りて益々稀有の成效と云ふべし日露の役全村の壯者擧て出征し殆んど老幼婦女のみとなりしも克く内を守り全村の發達を妨げず卅八年四月二級町村制を施行され今や全村の戸數五百二十餘戸人口二千七百餘人町村費一ヶ年の負擔額一万二千有餘圓を算し深川一邑を凌駕するの勢ひを呈しつゝあるは秩父別村の爲め祝すべきなり。

### 雨 龍 村

雨龍村は深川村と同一の沿革を有し明治廿二年組合華族農場設立せられたるの當時先づ第一着に開墾せられたるは本村なりしも廿六年組合の解散せらるゝに當り本村に屬するものは蜂須賀及び戸田農場にして侯爵亭農場は深川村に屬せり行政區域は最初新津川村に屬せしも卅年七月分村獨立して雨龍村と稱し戸長役場を設け卅二年七月北方惠岱別川以北を割きて北龍村を置かれ自來今日に及びたるものにして現今戸數四百六十餘戸人口二千二百餘人雨龍全郡中の小村なり。

### 栗 澤 村

栗澤村は空知郡の西南部に位し戸數一千六百餘戸人口一万餘人を算する大村たり西幌向村に界し北幌向川を隔て、岩見澤町に接す南はウエンベツ川を以て夕張郡栗山市街地に隣し

東方一帯清眞布及び栗山兩官林を以てして遙に日高國に接す明治廿一二年前後に於いては全村戸數僅に二三十戸に過ぎざりしも地味の肥沃は次第に移民を招き明治廿五年二月栗澤村なる村名の附せられたる當時に於いて已に戸數三百餘戸を算せり翌廿六年幌向原野貸下停止を解除し更に官林の一部を解き一般移民の移住を促したれば已に炭礦鐵道の清眞布に停車場を設けたるあり交通の至便と地味の肥沃とは潮の湧くが如く移民を招致し自來十有餘年其の侵々たる發達と進歩とは東西八里餘南北三里餘の全村鶏犬聲相ひ應ずるの現在を來せり。

清眞布市街地は栗澤村内二十三部落中の市街にして滋賀縣必成社地域内にあり同市街地は明治廿七年十月清眞布停車場設置と共に必成社に於いて市街地區劃を爲し豫定市街地たるの認可を得而して現時に及びり戸數二百餘戸人口千餘人地勢東に山を負ひ西石狩の大原野を控へ幌向原野に於ける東部の貨物集散地として殷賑を極むるのみならず木材の搬出多くは此の地に因るを以て衆庶の出入瀕繁にして前途有望なる市街地として知らる。

之を要するに栗澤村は尤も著しき進歩を爲したる町村にして現に二級町村制度の許に諸般自治村民たるの設備を完ふし模範町村たらんとするは栗澤村の前途に對し慶賀すべき也。左に市街地其他に於ける重なる會社商店を紹介せん。

◎必成社、清眞布市街地今日の殷賑ある物は之を必成社の賜物に歸せざる可らず同社は滋賀縣飯田郡長濱町の多額納稅者河路重平氏の設立になり西田市太郎氏其衝に當り廿五年六

栗 澤 村

二百三十一



月土地開墾目的を以て組織したる大規模の會社なり而して地を栗澤村字清真布に相し百五十万坪貸下許可を得たるは廿六年四月たり自來力を開拓に濫ぎ市街地を豫定區劃に停車場設置の請願に必成社盡く其の衝に當り遂に克く清真布市街地をして陸今日あるに至らしめぬ斯くして明治卅二年貸下地全部の開墾を遂げ目下に於ける耕地は四百五十町步宅地三町五反步市街地九十二戸小作人九十七戸を算する大農場として立ちつゝあり創立以來重なる社員は社長河路重平は先代となり現社長は其令息たり主任西田市太郎氏より笠原元治郎黒部卯三郎川村徳太郎氏等逐次交迭し現時は土屋猪三郎氏西川外次郎等其の衝に當りつゝあり又必成社地域内に於ける重なる建物は學校一村役場一停車場一郵便局一説教場一製線工場一巡查駐在所一劇場一とす以て如何に必成社の地域が清真布市街地に於いて重要なる位置たるかを知るに足るべし。

◎日本製麻株式會社清真布工場、同工場は元北海道亞麻製線株式會社清真布製線所として知られたる工場なり由來北海道亞麻製線株式會社は資本金貳拾万圓を以て明治二十九年四月滋賀縣長濱町に設立せられたる會社にして同社に製線工場を上川郡旭川町及び清真布に設け本道特産の亞麻莖幹を農家と特約して耕作せしめ専ら亞麻線緯を製造し下野製麻會社其他に販賣し盛況を來したるも自來年と共に成績良好ならず營業不振を來し種々なる困難に見舞れたる結果卅八年一月同製線工場全部を日本製麻株式會社に譲り渡し同社工場として營業し現時に及びたるものにして目下職工一百三十七人を使用し亞麻耕作反別七百九十

荒物雜貨小間物

和洋酒及味噌醤油

菓子製菓農産賣

買新炭卸小賣

石狩國空知郡清真布

笠原元次郎商店

電話二一〇九

米 雜 穀  
肥 料 商

石狩國空知郡清真布

中島定六商店

電話二一〇九



月土地開墾目的を以て組織したる大規模の會社なり而して地を栗澤村字清眞布に相し百五十万坪貸下許可を得たるは廿六年四月より自來力を開拓に濫ぎ市街地を豫定區劃に停車場設置の請願に必成社盡く其の衝に當り遂に克く清眞布市街地をして陸今日あるに至らしめぬ斯くして明治卅二年貸下地全部の開墾を遂げ目下に於ける耕地は四百五十町歩宅地三町五反歩市街地九十二戸小作人九十七戸を算する大農場として立ちつゝあり創立以來重なる社員は社長河路重平は先代となり現社長は其令息たり主任西田市太郎氏より笠原元治郎黒部卯三郎川村徳太郎氏等逐次交迭し現時は土屋猪三郎氏西川外次郎等其の衝に當りつゝあり又必成社地域内に於ける重なる建物は學校一村役場一停車場一郵便局一説教場一製線工場一巡查駐在所一劇場一とす以て如何に必成社の地域が清眞布市街地に於いて重要なる位置たるかを知るに足るべし。

◎日本製麻株式會社清眞布工場、同工場は元北海道亞麻製線株式會社清眞布製線所として知られたる工場なり由來北海道亞麻製線株式會社は資本金貳拾万圓を以て明治二十九年四月滋賀縣長濱町に設立せられたる會社にして同社に製線工場を上川郡旭川町及び清眞布に設け本道特産の亞麻莖幹を農家と特約して耕作せしめ専ら亞麻線緯を製造し下野製麻會社其他に販賣し盛況を來したるも自來年と共に成績良好ならず營業不振を來し種々なる困難に見舞れたる結果卅八年一月同製線工場全部を日本製麻株式會社に譲り渡し同社工場として營業し現時に及びたるものにして目下職工一百三十七人を使用し亞麻耕作反別七百九十

荒物雜貨小間物

和洋酒黃味噌醬油

菓子製造農産賣

買薪炭卸小賣

空知郡栗澤村字清眞布

笠原元次郎商店

電畧(ヤマモ)又ハ(カ)

米雜穀 肥料商

石狩國空知郡清眞布

中島定六商店

電畧(ナカ)又ハ(ナ)



金 物 販 賣	萬 打 及 物	柚 夫 道 具	和 洋 農 具
------------------	------------------	------------------	------------------

夕張郡栗山市街地  
主任 津村 伊藏  
栗山工業所

入院  
隨  
意

夕張郡角田村字栗山

北  
山  
病  
院

各種挽材販賣

並<sup>ニ</sup>米穀賃搗

委託賣買業

夕張郡角田村字栗山

栗  
山

木  
工

精  
穀

所

電略(モク)





薪炭專業

並ニ

荒物鮮魚果物

食武山子之助

空知郡清真布市街地

海產荒物

牛馬豚肉販賣

氷卸小賣

善倉持善吉

空知郡清真布

電略(クラモチ)又ハ(クモ)

清酒釀造

農產賣買

空知郡志文市街地

合山口文治郎

電略(ヤマ)又ハ(ヤ)

米穀荒物

農產質業

空知郡清真布市街地

井 杉本與吉

吳服

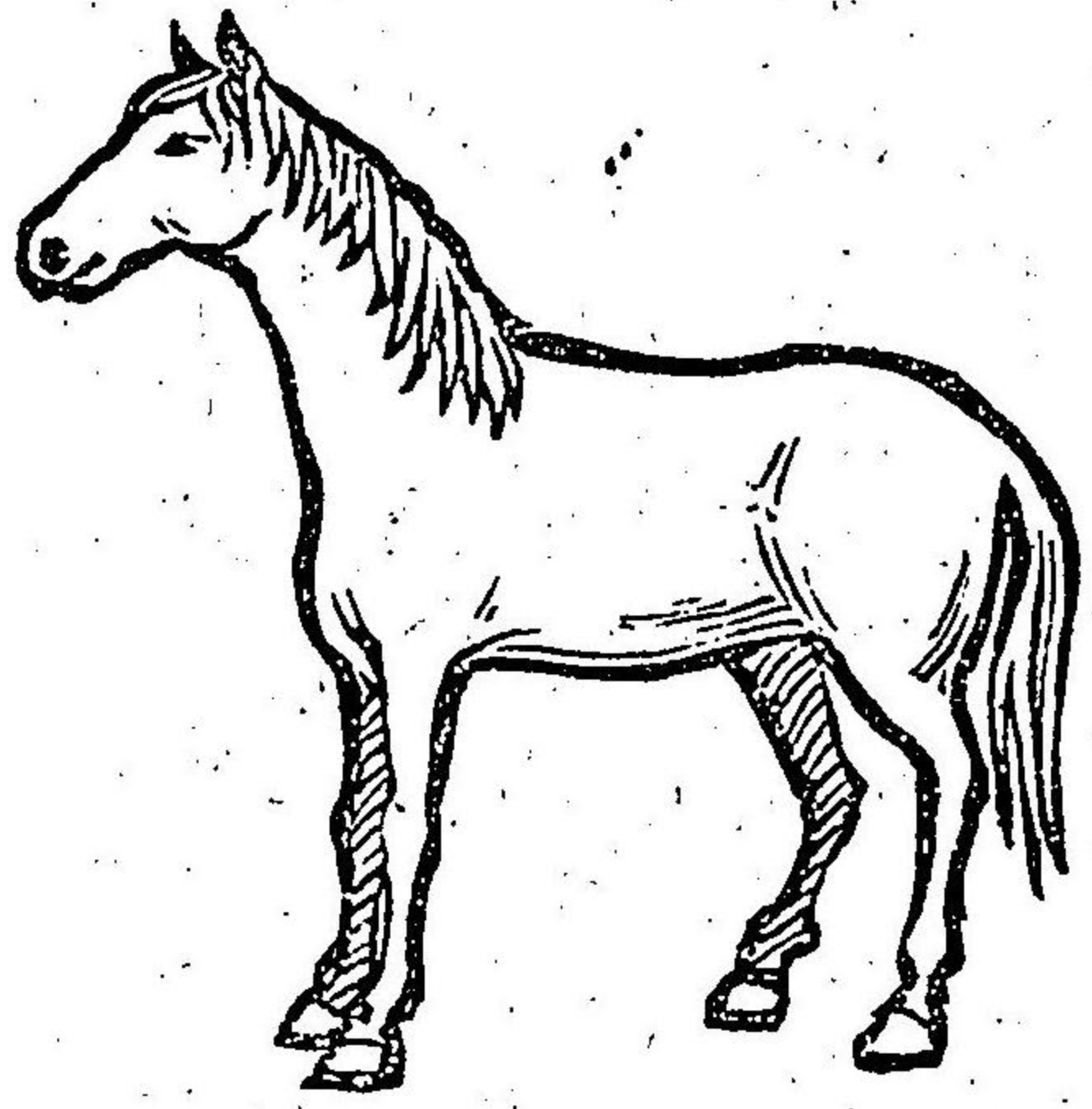
空知郡

太久保田商店

太物

志文市街地





買 賣

夕張郡角田村

友成玉之助

字栗山市街地

夕張郡栗山市街地

鳥原醫院

鳥原重敏

和洋小間物

下駄製造

文房具類

夕張郡栗山市街地

有松岩太郎



吳服穀物  
古着小間物  
洋反物類

ⓑ 礪波屋商店

河合才一郎

空知郡栗澤村字清真布

農 産 物 専 業

ⓐ 内 田 佐 太 郎

空知郡栗澤村字清真布市街地

電 器 (ウ) ハ 又 (チウ)

五町歩を有し農家よりの買収額四百五十万斤製線出来高五十八万二千斤と稱せらる之を卅八年度の耕作反別六百八十町歩に比し百町歩餘を増加し買収高三百四十万斤に比し百万斤を増加し製線高四十四万二千斤に比し十四万斤を増加する等其の營業の隆洵に見るに足るべきあり蓋し亞麻は北海道の特産にして其の需用又決して少なきに非ず吾人は同工場の益々隆盛を來し依て以て本道産亞麻の聲價を發揚せんを望むものなり。

◎丸サ印内田商店、内田商店は清真布市街地に於ける農産物販賣を専業と爲し取引確實を以て知られつゝ、あり店主内田佐太郎氏は越前福井の人明治卅一年本道に航し居を清真布市街地に定の幾多の困難を排し三十五年現業を開いてより誠實を専一とし懇切を以て顧客に接し毫も利を貪らずして一意確實を旨とせしかば忽ち名聲を知られ信用を博し幾多同業者間に介在し嶄然頭角を顯はして内田商店と云はゞ知らざるものなきの今日を來せり。



吳服 穀物  
古着 小間物  
洋反物類

空知郡栗澤村字清真布  
河合才一郎

河合才一郎

農 産 物 専 業

内 田 佐 太 郎

空知郡栗澤村字清真布市街地

電 報 (チウ) 又 (ウ)

五町歩を有し農家よりの買収額四百五十万斤製線出来高五十八万二千斤と稱せらるる之を卅八年度の耕作反別六百八十町歩に比し百町歩餘を増加し買収高三百四十万斤に比し百万斤を増加し製線高四十四万二千斤に比し十四万斤を増加する等其の營業の隆洵に見るに足るべきあり蓋し亞麻は北海道の特産にして其の需用又決して少なきに非ず吾人は同工場の益々隆盛を來し依て以て本道産亞麻の聲價を發揚せんを望むものなり。

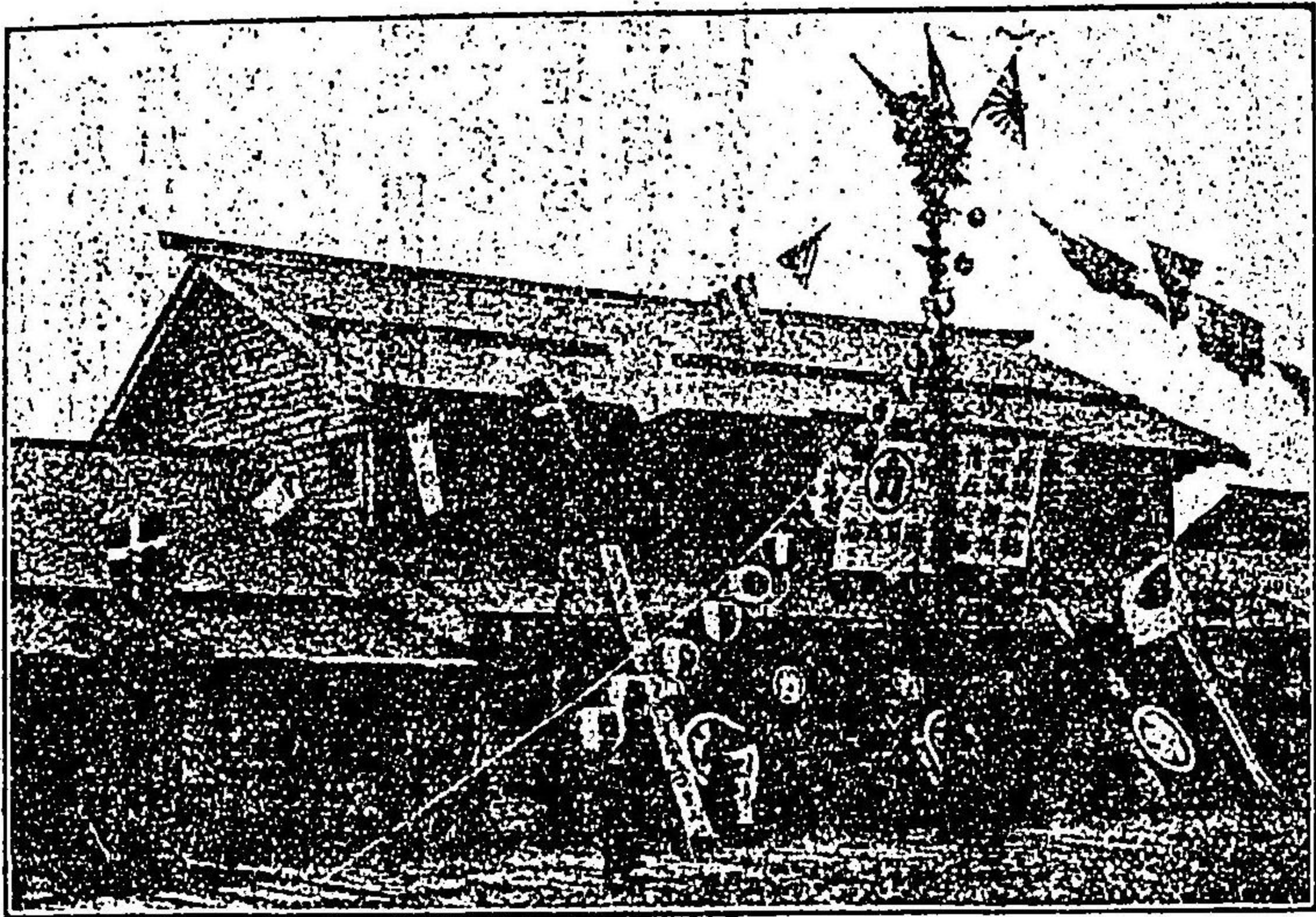
◎丸サ印内田商店、内田商店は清真布市街地に於ける農産物販賣を専業と爲し取引確實を以て知られつゝあり店主内田佐太郎氏は越前福井の人明治卅一年本道に航し居を清真布市街地に定め幾多の困難を排し三十五年現業を開いてより誠實を専一とし懇切を以て顧客に接し毫も利を貪らずして一意確實を旨とせしかば忽ち名聲を知られ信用を博し幾多同業者間に介在し嶄然頭角を顯はして内田商店と云はゞ知らざるものなきの今日を來せり。

栗澤村

二五三十七



空 知 郡 清 真 布 市 街 地



空知郡清真布市街地 兩角吳服店

吳服太物

洋織物類

并ニ

雜貨



兩角商店

店主 藤井幸治

空知郡清真布市街地

雙 橋 知 堂

◎〇カ印兩角商店、兩角商店は吳服太物類洋織物類雜貨販賣店として清真布市街地に名聲を知られたるの商店なり店主藤井幸治氏は新潟縣の人明治五年を以て新潟縣三嶋郡與板町に生る少壯夙に本道に意を濺ぎ狀勢を聞知し決する處あり明治十九年本道に航し或は仕を商店に求め或は各地を視察する等幾多の辛勞と幾多の困憊に堪へ身を持する嚴に節約以て資を貯へ明治三十年清真布市街地に獨立現業を開始するに至るまで其の勤勉其の辛酸眞に傳ふべきものあつて存す斯くして氏や一度獨立して現業を開いてより最上の商路は正直にありとの格言を遵守し能く賣品を精選し良品を廉價に販賣して顧客の利便を來せしかば信用益々江湖に高く次第に其の基礎を堅ふし今や吳服太物類及び洋織物にして良品を得んとせば之を氏の商店に需めざるを得ざるが如き隆盛を來し業務月に隆盛を來しつゝあり氏又力を公共事業に盡し清真布市街地の發達に貢獻したる巧勞は名望となり徳望となり推されて同村部長となり今現に其の職にあり少壯の身を以てして此の如き成效あり氏前途の有望何んぞ識者を要せんや。

◎山長印武山商店、鮮魚の鮮薪炭の良荒物雜貨の廉を以て清真布市街地に知らるゝ武山商店は武山子之助氏の經營する處たり氏の營業方針たる成功を永遠に期し毫も暴利を欲せず良品を低價を以て販賣するにあるを以て顧客盡く其の利便に悦服す顧客の悦服は需用の増加となり需用の増加は繁昌となり繁昌は業務の殷賑を招き店頭常に顧客の影を絶たず日に月に隆運を高めありあるは眞に商人たるの模範と云ふべきなり。



# 木材業

並ニ

北海道貨物運送株式會社

清眞布代理店



清眞布市街 清水辰五郎氏

空知郡清眞布市街地

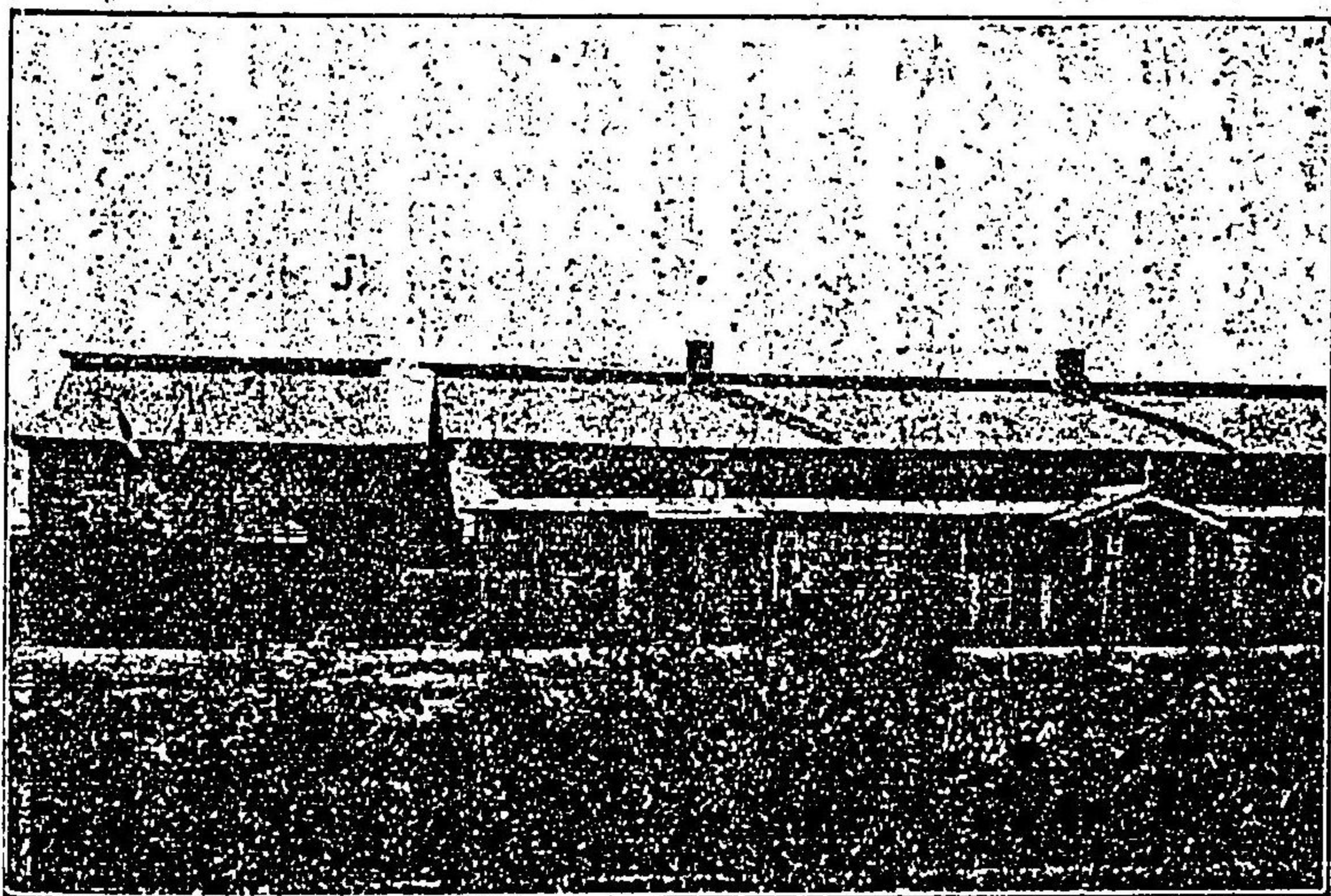
**志** 清水辰五郎

◎丸志印清水商店、清眞布は木材業者の圍集するの地なり蓋し幾多の森林を控へ地勢の利する處多きが爲めなり而して是等幾多清眞布に於ける木材業者間に介在し巍然として信用高く名聲を馳するを清水商店と爲す同店は必ずしも大商店と稱せらるゝに非ずと雖も其の取引の正確なるを以て知らる蓋し店主の用意周到なる結果に外ならざるなり店主清水辰五郎氏は岩手縣の人明治元年を以て岩手縣和賀郡黒澤尻町に生る長ずるに及で新天地を北海に開かんを欲し決然郷關を辭して本道函館に航す時に明治廿五年たり翌廿六年小樽に移住し廿七年更に利尻郡杵形村に移住し種々畫策する處ありしも幸運來らず更に去つて廿九年札幌に居住し南三條西八丁目木材業を開始す是れ氏の木材業に指を染めたる端緒なりとす自來幸いにして隆運を來し業務を擴張するに従ひ清眞布の地の寧ろ斯業に利便なるを看破し卅一年三月五度店を轉し現住所に依然として木材業を營む氏清眞布に住してより同地に運送業者少なく住民の不便尠なからざるを慨し更に進んで運送店を開始す果然開業其の機に適し頻りに隆盛を極め其の信用隆々として高く北海道貨物運送株式會社清眞布代理店を兼ね以て現時に及べり思ふに清水氏は勤勉確實の人は屢々居を轉じながら遂に今日の成功を博したる所以ならんなり吾人は彼の薄志弱行一業の專志を堅守する能はず一難來る毎に氣阻し一敗來る毎に膽落ち遂に自暴自棄に陥るが如き人士の深く清水氏に鑑みて悟る處あらんを慙するものなり一業一事の成功豈に容易ならんや千辛而して萬苦之れ等に打ち勝つべき決心なくんば何んすれや成功樂境を來すを得んや。





清眞布市街地 佐藤平作氏



清眞布市街 入樹越後屋料理店

◎入樹印越後屋料理店、往き來るさの旅の者も足一度清眞布に入らば旗亭越後屋の料理に舌を鼓せざるなしと云は、其の繁昌さ加減も知るに難からざるべしと何も六ヶしく云はずともあれ越後屋の名はそんなじよ其の邊の粹様はとふに御存じの筈まこと同亭が庖丁に粹を凝らし客を遇するに叮嚀なるをまげに暴利するのみか命令一下忽ち阿嬌連が今晚はと座に待つ迅速と來たら敢へて都會の料亭に劣らず従つて市街地の人には其の名を歌はれ行旅の人又同亭を愛し日夜絃歌の響き絶えざるの大繁昌それ浮けそれ飲めの調子善きは一に同亭主人の苦心に外ならず主人佐藤平作氏は新潟縣の人明治三十四年本道に航してよりは幾多の辛勞と酸苦を重ね種々なる難苦を嘗め卅七年八月清眞布に居を定め和洋御料理仕出し業を爲し越後屋と稱してより其調理の美味と廉價とを以て次第に其の名を博し加ふるに客に對し懇切を極めしかば日夜の繁昌客足絶えず遂に内藝妓二名を抱ゆる現在の隆運を來せりと云ふ蓋し同亭の特色は廉價なるにあり。

◎丸井印杉本商店、米穀荒物販賣店に兼ねるに質屋を以てし更に農産物販賣を兼ねて信用あるを杉本商店と爲す店主與吉氏は富山縣の人明治二十三年開墾の目的を以て岩見澤村字幌向に移住し十万余坪の貸下を受け刻苦十餘年全部の成功を告げ卅九年十二月更に前途の發展を畫し居を清眞布市街地に移し農場は小作人に托し現業を現住所に開く氏已に嚴たる農場のあるあり従つて其の資産に其の信用に尋常者流と其の選を異にするを以て江湖の信用篤く開業日尙ほ淺しと雖も其隆已に老舗を凌ぎつゝあるは慶すべき也。



◎榊原商店、榊原商店は清真布市街地に於ける呉服太物仕立物古着商店なり店主直次郎氏は夙に蠶業界に有名なる人なり其の北海道廳よりの囑托に依り蠶業教師採用委員たり栗澤村役場より病害虫驅除豫防委員長を囑托され將た栗澤村農會名譽會員に推さるゝ等氏が如何に蠶業界に知らるゝかを知るに足らん氏三河の人明治三年豊橋吉屋町に生れ家世々養蠶製糸を業とす直次郎氏明治十九年農商務省蠶業試験所に入り斯學を研讀し造詣頗ぶる篤く廿二年各府縣蠶業教師に聘せられ廿六年本道に航し卅五年十月現住所に現業を開始すと雖も社會は氏が蠶業に造詣深きを知つて氏の斯界を退くを許さず呉服業を經營しながら尙ほ幾多蠶業に關する囑を受け氏又忠實に指導を怠らず氏の名聲ある偶然に非る也。

◎山モ印笠原商店、同商店は十名なる笠原元次郎氏の經營する處笠原氏一度必成社事業の監督を托されて渡道居を清真布に定めてより鋭意監督の任を盡し遂に其成功を告げ同社を辭し而して獨立經營したるもの現商店即ち是れなり時に明治卅二年たり同店は雜貨荒物西洋小間物各國酒類煙草味噌醬油菓子類等苟くも日用品に屬する物一として販賣せざるなく加ふるに笠原氏の經營を以てす開業以來年と共に隆盛を來し盛況比肩し得るもの少なし而かも氏や益々前途の發展を盡し經營毫も怠らず前途の隆期して見るべきなり。

◎丸ノ印礦波屋商店、同商店は清真布市街地に於いて呉服太物洋物洋小間物古着業を營で其の名を知られつゝあり店主河合才一郎氏は富山縣東礪波郡福野町の人是れ礪波を以て屋號せし所以なるべし廿七年清真布市街地に居住し現業を營でより少壯の身を以てして克く

馬具一式製造

並毛皮類販賣

栗澤村栗山町街地



中島馬具店  
中島靴店

電話



◎柳原商店、柳原商店は清眞布市街地に於ける呉服太物仕立物古着商店なり店主直次郎氏は夙に蠶業界に有名なる人なり其の北海道廳よりの囑托に依り蠶業教師採用委員たり栗澤村役場より病害虫驅除豫防委員長を囑托され將に栗澤村農會名譽會員に推さるゝ等氏が如何に蠶業界に知らるゝかを知るに足らん氏三河の人明治三年豊橋吉屋町に生れ家世々養蠶製糸を業とす直次郎氏明治十九年農商務省蠶業試験所に入り斯學を研讀し造詣頗ぶる篤く廿二年各府縣蠶業教師に聘せられ廿六年本道に航し卅五年十月現住所に現業を開始すと雖も社會は氏が蠶業に造詣深きを知つて氏の斯界を退くを許さず吳服業を經營しながら尙ほ幾多蠶業に關する囑を受け氏又忠實に指導を怠らず氏の名聲ある偶然に非る也。

◎山モ印笠原商店、同商店は十名なる笠原元次郎氏の經營する處笠原氏一度必成社事業の監督を托されて渡道居を清眞布に定めてより銳意監督の任を盡し遂に其成功を告げ同社を辞し而して獨立經營したるもの現商店即ち是れなり時に明治卅二年たり同店は雜貨荒物洋小間物各國酒類煙草味噌油菓子類等苟くも日用品に屬する物一として販賣せざるなく加ふるに笠原氏の經營を以てず開業以來年と共に隆盛を來し盛況比肩し得るもの少なし而かも氏や益々前途の發展を畫し經營毫も怠らず前途の隆期して見るべきなり。

◎丸ト印磯波屋商店、同商店は清眞布市街地に於いて呉服太物洋物洋小間物古着業を營で其の名を知られつゝあり店主河合才一郎氏は富山縣東磯波郡福野町の人是れ磯波を以て屋號せし所以なるべし廿七年清眞布市街地に居住し現業を營でより少壯の身を以てして克く

馬具一式靴製造  
並ニ毛皮類販賣



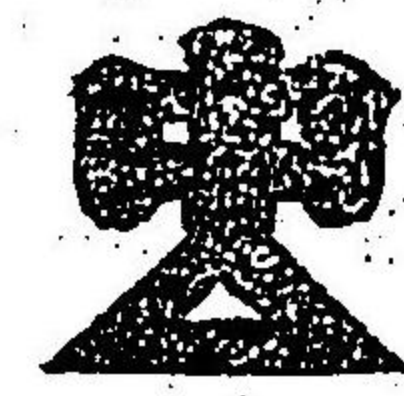
夕張郡栗山市街地

中島馬具店  
中島製靴店

電 畧 (クツワ)



米穀  
荒物  
雜貨



廣瀨利三郎

夕張郡栗山市街地

電器(七口七)又八(七)

御料理

夕張郡栗山市街地

山本嘉太郎

即席

御料理

本舍問

夕張郡栗山市街地



吳服太物

洋織物商

山 近江屋本店

夕張郡栗山市街地

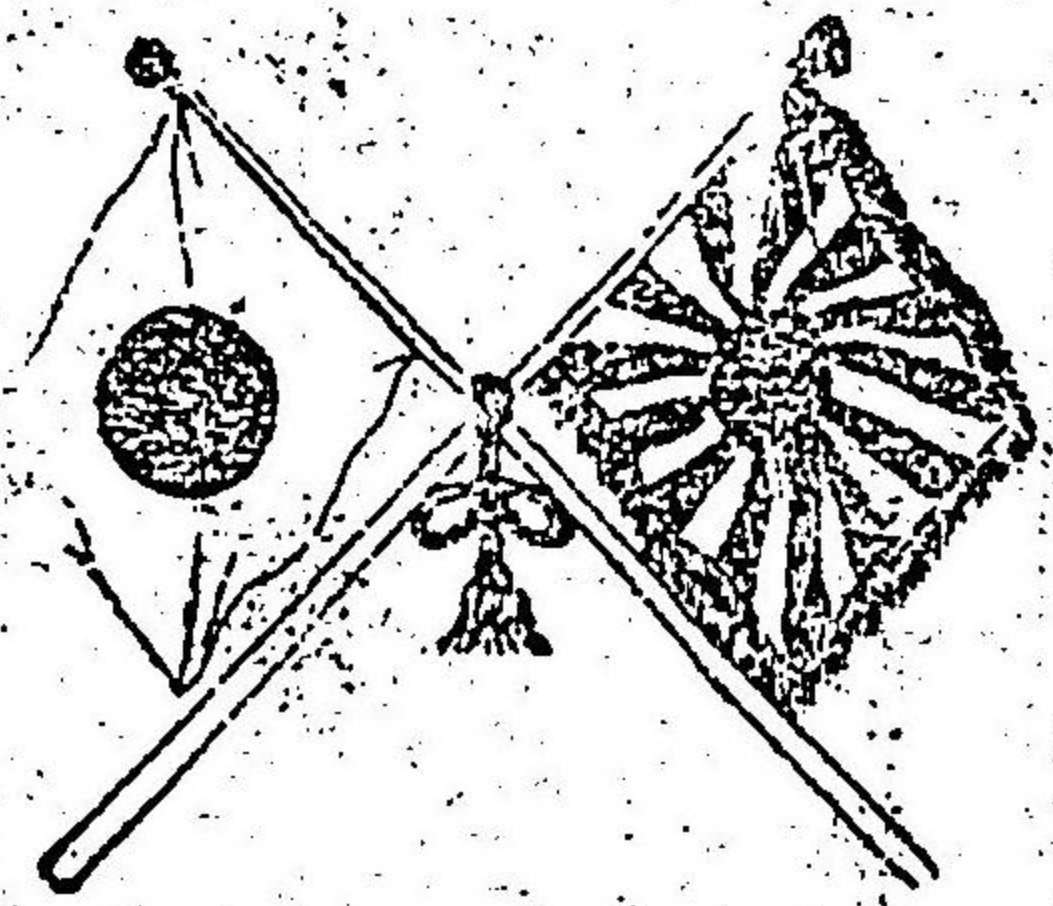
電略(ヤマタ)

上川郡名寄

山 近江屋支店

上川郡名寄

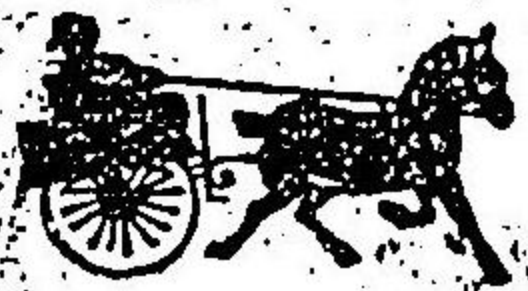
田 金物店



御旅館

ホ 福永長吉

夕張郡栗山市街地



專ラ御來客ノ便利ヲ計  
リ誠實ヲ旨ト仕候間御  
誠宿ヲ乞フ

夕張郡栗山停車場前

旅 泉 館

今泉ヶサ



米穀荒物  
雜穀商

夕張郡栗山市街地

大酒喜商店

電略(サカキ)又(ハ)サ

摺白製造販賣

夕張郡栗山市街地

夕森田辰次郎

御料理

夕張郡栗山市街地

順山川順

米穀荒物雜貨商

並ニ遠益燐酸肥料夕張郡一手販賣

夕張郡栗山市街地

定阿部清太郎

電略(ア)又(ハ)ア



竹の家

夕張郡栗山市街地



御 料 理

米 不 倉

夕張郡栗山街地

御 料 理

仕 出 じ

夕張郡栗山街地

堀部平六

米穀荒物農産物賣買

夕張郡角田村市街地  
今井彌平次

電器(一マス)又六(マス)

夕張郡栗山停車場前  
今井支店



生 了 ば

輕手 御料理

夕張郡栗山市街地

越前屋

夕張郡

御旅館 洋八田

角田市街地

和洋小間物 雜貨商

空知郡奈井江停車場前

岸商店

金物小間物 販賣 荒物下駄類

夕張郡長沼村市街地

井松井豊吉

電略(マツ)

即席御料理

夕張郡長沼村

本小店 小林樓

小林ナツ

空知郡神威大曲

支店 長沼亭

小林マサ



◎内 科  
◎外 科

夕張郡長沼村

郷田醫院

院主 郷田安太郎

農 産 賣 買  
生 繭

◎陶器 ◎銘茶類

夕張郡長沼村

舎吉川九又

電 略 (ヨシ)

夕張郡

栗山倉庫

栗山市街地



勉

誠

夕張郡栗山市街地

吳服 太物 仕立物 蒲團

本多才吉

強

實

銅鐵金物類

夕張郡栗山市街地

島中榮一

電話 (〇)

山栗 木材請負

夕張郡栗山市街地

小林今吉